九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調查報告書

元岡·桑原遺跡群8

- 第20次調查報告 -

2007

福岡市教育委員会

九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調查報告書

Motooka Kuwabara

元岡・桑原遺跡群8

- 第20次調査報告 -



2007

福岡市教育委員会



第20次調査地点全景(南から)



第20次調査地点全景(北から)



掘立柱建物跡分布状況(西から)



池状遺構SX001検出状況(東から)



墨書土器



獣脚硯、中空円面硯



舟形木製品



新羅緑釉陶器





福岡市は大陸に近いという地理的条件から、文化の流入拠点、大陸との貿易基地として古くからの 歴史を有しています。現在は歴史的、地理的に関係の深いアジアとのつながりを重視し、「アジアの交 流拠点都市」を目指し、アジアの様々な地域との交流や学術・文化などの交流を行っています。

現在、九州大学は「時代の変化に応じて自立的に変革し、活力を維持し続ける開かれた研究大学の構築」をコンセプトに箱崎地区、六本松地区、原町地区のキャンパスを統合移転し、世界的レベルでの研究・教育拠点を創造するために福岡市西区元岡・桑原地区、前原市、志摩町にまたがる新キャンパスを建設する事業を進めています。

本市は九州大学統合移転事業の円滑な促進のための協力支援を行うとともに、多核連携型都市構造の形成に向けて、箱崎・六本松地区の移転跡地や西部地域におけるまちづくりなど、長期的・広域的な視点から対応を行っております。移転用地内の埋蔵文化財の発掘調査もこの一環として平成7年度から教育委員会が取り組んでおります。

本書は九州大学統合移転事業に伴い実施した、元岡・桑原遺跡群第20次調査の成果を報告するものです。第20次調査では大寶元年(701)の紀年銘を持つ木簡を初めとして、多数の木簡が発見され、糸島地域の古代史を考える上で重要な成果となりました。本書が文化財保護のより一層のご理解の一助となり、学術研究の資料として活用いただければ幸いです。

最後に調査を委託された福岡市土地開発公社、調査にご協力いただいた九州大学及び都市整備局大 学移転対策部、並びに元岡地区、桑原地区の地元の方々をはじめとする関係各位に厚くお礼申し上げ ます。

平成19年3月30日

福岡市教育委員会 教育長 植木とみ子

例 言

- 1. 本書は九州大学統合移転事業に伴い、福岡市教育委員会が2000~2003年度に行った元岡・桑原遺跡群第20次調査の報告書である。なお、今回の報告では第20次で出土した古代の遺構、遺物を中心に報告し、それ以外のものは整理途中であるため、後日報告する予定である。
- 2. 九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査報告書は「元岡・桑原遺跡群 1 第 2 次調査の報告 」(市報告書722集 2002)、「元岡・桑原遺跡群 2 桑原石ヶ元古墳の報告 」(市報告書744集 2003)、「元岡・桑原遺跡群 3 第 3 、4 、8 、11次調査の報告 」(市報告書829集 2004)、「元岡・桑原遺跡群 4 第12、15、24次調査 」(市報第860集、2005)、「元岡・桑原遺跡群 5 第13、17、25、29、36次調査」(市報第861集 2005)、「元岡・桑原遺跡群 6 第22、27、28、34次調査」(市報第909集 2006)が刊行されており、本書は同シリーズの「8」になる。今後、この事業に関わる調査報告書はこの書名で継続して刊行される予定である。
- 3. 本書で報告する元岡・桑原遺跡群は縄文時代~中世にかけての複合遺跡で遺跡略号はMOTとしている。遺跡群には多数の群集墳や前方後円墳等も含まれ、それぞれに名称が付けられているが、今回の調査では古墳の調査についても遺跡略号は「MOT」で統一している。
- 4. 本書に使用した遺構実測図は菅波正人、西村直人、小杉山大輔、水崎るりが、遺物実測図は林田 憲三、濱石正子、撫養久美子、山崎加代子が行った。トレースは林田、撫養、山崎が行った。
- 5. 本書に使用した写真は菅波、松村道博が撮影した。空中写真については株式会社写測エンジニアリング、朝日航洋株式会社、有限会社空中写真企画に撮影を委託した。
- 6. 本書に使用した座標は国土座標第Ⅱ系を使用し、本書に使用した方位は座標北である。
- 7. 本書の執筆・編集は菅波正人が行った。なお、珪藻および花粉分析はパリノサーベ株式会社に委託した。
- 8. 今回報告する出土遺物および遺構、遺物の記録類は福岡市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・管理される予定である。

目 次

1 はしめに	1 1	LOVE
1. 調査に至る経緯	·· 1 Fig. 1	元岡·桑原遺跡群調査地点位置図
2. 調査の組織	·· 1	(1/15,000)
3. これまでの調査経過	·· 2 Fig. 2	2 元岡・桑原遺跡群位置図 (1/50,000)
4. 遺跡の位置と環境	·· 4	6
	II 第2	20次調査の記録
Ⅱ 第20次調査の記録	Fig. 3	3 元岡・桑原遺跡群第20次調査地点位置図
1. 調査の概要	·· 7	(1/3,000)
2. 掘立柱建物跡	·· 8 Fig. 4	第20次調查地点遺構配置図(1/1,200)
3. 池状遺構	26	10
4. その他の遺構	··27 Fig. 5	据立柱建物遺構配置図(1/1,000) …15
5. 出土遺物	··34 Fig. 6	5 掘立柱建物実測図 1 (1/80)16
6. 小結	··97 Fig. 7	· 掘立柱建物実測図 2 (1/80) ······17
	Fig. 8	3 掘立柱建物実測図 3 (1/80)18
	Fig. 9	加立柱建物実測図4 (1/80)19
表目次	Fig.10	0 掘立柱建物実測図 5 (1/80)20
	Fig.1	1 掘立柱建物実測図6 (1/80)21
Tab. 1 九州大学統合移転地内(元岡·桑)	原遺 Fig.12	2 掘立柱建物実測図7 (1/80)22
跡群)発掘調査一覧	·· 4 Fig.13	3 掘立柱建物実測図 8 (1/80)23
Tab.2 第20次調查地点遺構一覧	··11 Fig.1	4 掘立柱建物実測図 9 (1/80)24
Tab.3 掘立柱建物跡一覧	··14 Fig.13	5 掘立柱建物実測図10 (1/80)25
Tab.4~7 土器観察表82-	~85 Fig.16	6 池状遺構001遺構配置図(1/500) …28
Tab.8 土器・墨書土器観察表	··86 Fig.1'	7 池状遺構001土層実測図1 (1/100)
Tab.9 墨書土器観察表	··87	29
Tab.10 墨書土器・刻書土器・硯観察表	··88 Fig.13	8 池状遺構001土層実測図2 (1/100)
Tab.11 硯・陶磁器類観察表	89	30
Tab.12~13 陶磁器類観察表90-	~91 Fig.19	9 池状遺構001木簡出土位置図 (1/300)
Tab.14~15 木製品観察表92~	~93	3]
Tab.16~18 金属器観察表94	~96 Fig.20	0 池状遺構001土手状遺構実測図 (1/100)
		32
	Fig.2	1 出土土器実測図 1 (1/3)36
	Fig.22	2 出土土器実測図 2 (1/3)37
	Fig.23	3 出土土器実測図 3 (1/3)38
	Fig.2	4 出土土器実測図 4 (1/3)39
	Fig.2	5 出土土器実測図 5 (1/3)40
	Fig.20	6 出土土器実測図 6 (1/3)41

挿図目次

Fig.27 出土土器実測図7 (1/3) ······42	図版目次
Fig.28 出土土器実測図8 (1/3) ······43	
Fig.29 出土土器実測図 9 (1/3)44	巻頭1 第20次調査地点全景(南から)
Fig.30 出土土器実測図10 (1/3)45	第20次調査地点全景(北から)
Fig.31 出土土器実測図11 (1/3) ······48	巻頭2 掘立柱建物分布状況 (西から)
Fig.32 出土土器実測図12 (1/3)49	池状遺構検出状況 (東から)
Fig.33 出土土器実測図13 (1/3)50	巻頭3 墨書土器
Fig.34 出土墨書土器実測図 1 (1/3)51	獣脚硯、中空円面硯
Fig.35 出土墨書土器実測図 2 (1/3)52	巻頭4 舟形木製品、新羅緑釉陶器
Fig.36 出土墨書土器実測図 3 (1/3) ······53	銅製権衡、帯金具
Fig.37 出土墨書土器実測図 4 (1/3)54	PL.1 1 調査前現況 (北から)101
Fig.38 出土墨書土器実測図 5 (1/3)55	PL.1 2 調査区全景(南から)101
Fig.39 出土墨書土器実測図 6 (1/3)56	PL.2 1 調査区北側全景(南から)102
Fig.40 出土硯実測図 1 (1/3)57	PL.2 2 調査区北側全景(南から)102
Fig.41 出土硯実測図 2 (1/3)58	PL.3 1 調査区全景 (北から)103
Fig.42 出土硯実測図 3 (1/3)59	PL.3 2 調査区全景 (北から)103
Fig.43 出土木器実測図 1 (1/3)62	PL.4 1 調査区全景(西から)104
Fig.44 出土木器実測図 2 (1/3) ······63	PL.4 2 調査区全景 (西から)104
Fig.45 出土木器実測図3 (1/3)64	PL.5 1 調査区西側掘り下げ(東から)
Fig.46 出土木器実測図4 (1/3) ······65	105
Fig.47 出土木器実測図 5 (1/3) ······66	PL.5 2 調査区西側掘り下げ(北から)
Fig.48 出土木器実測図 6 (1/3) ······67	105
Fig.49 出土木器実測図7 (1/3)68	PL.6 1 調査区北西隅掘り下げ(北から)
Fig.50 出土木簡 1 ······69	106
Fig.51 出土木簡 2 ······70	PL.6 2 調査区北西隅掘り下げ(北から)
Fig.52 出土金属器実測図 1 (1/2)72	106
Fig.53 出土金属器実測図 2 (1/2)73	PL.7 1 調査区北西隅全景(北から) …107
Fig.54 出土金属器実測図3(1/2)74	PL.7 2 調査区北西隅全景(北から) …107
Fig.55 出土金属器実測図4 (1/2)75	PL.8 1 北西調査区全景(東から)108
Fig.56 出土金属器実測図 5 (1/2)76	PL.8 2 調査区全景(北から)108
Fig.57 出土陶磁器実測図 1 (1/3)77	PL.9 1 調査区全景(北から)109
Fig.58 出土陶磁器実測図 2 (1/3)78	PL.9 2 調査区全景(北から)109
Fig.59 出土陶磁器実測図 3 (1/3)79	PL.10 1 調査区全景(南から)110
Fig.60 出土陶磁器実測図4 (1/3)80	PL.10 2 12~19区調査区全景(北から)
Fig.61 出土陶磁器実測図 5 (1/3)81	110
	PL.11 1 11~18区調査区全景(北から)
	111
	PL.11 2 調査区全景(北東から)111

PL.12	1	22~24区全景(東から)112	PL.23	1	E-5区SB015完掘(東から)
PL.12	2	22~26区調査区全景(北から)			123
		112	PL.23	2	E-5区SB028柱穴半裁(南から)
PL.13	1	調査区全景 (南から)113			123
PL.13	2	倉庫群分布状況(南から)113	PL.24	1	E-5区SB153柱穴半裁(南から)
PL.14	1	倉庫群分布状況(東から)114			124
PL.14	2	倉庫群分布状況(西から)114	PL.24	2	E-5区SB155柱穴半裁(東から)
PL.15	1	倉庫群検出状況(北から)115			124
PL.15	2	11~12区掘立柱建物址、竪穴住居	PL.25	1	E-5区SB156検出状況(南から)
		址完掘(北から)115			125
PL.16	1	10~12区掘立柱建物址、竪穴住居	PL.25	2	E-5区SB158柱穴半裁(南から)
		址完掘(北から)116			125
PL.16	2	北西隅建物分布状況(北から)	PL.26	1	E-5区SB159柱穴完掘(南から)
		116			126
PL.17	1	北西調査区建物分布(北から)	PL.26	2	E-5区SB160柱穴半裁(北から)
		117			126
PL.17	2	掘立柱建物分布状況 (東から)	PL.27	1	E-6区SB037(南から)127
		117	PL.27	2	E-6区SB037完掘(南から)
PL.18	1	掘立柱建物分布状況 (東から)			127
		118	PL.28	1	G-5区SB029柱穴半裁(南から)
PL.18	2	掘立柱建物分布状況(東から)			128
		118	PL.28	2	G-6区SB147 (南から) ······128
PL.19	1	F-0、1区SB141周辺完掘	PL.29	1	G-6区SB150柱穴半裁(北から)
		(西から)119			129
PL.19	2	F-1区SB141完掘(西から)	PL.29	2	E-7区SB041 (北から) ·····129
		119	PL.30	1	E-7区SB041柱穴半裁(北から)
PL.20	1	E-2区SB026柱穴半裁(北から)			130
		120	PL.30	2	E-7区SB041、042柱穴半裁
PL.20	2	F-2区SB119完掘(西から)			(北から)130
		120	PL.31	1	E-7区SB042 (北から) ·····131
PL.21	1	F-3区SB139柱穴半裁(北から)	PL.31	2	E-7区SB042柱穴半裁(北から)
		121			131
PL.21	2	F-3区SB140柱穴半裁(東から)	PL.32	1	E-7区SB151柱穴半裁(北から)
		121			132
PL.22	1	G-4区SB148柱穴半裁(西から)	PL.32	2	F-7区SB035柱穴半裁(北から)
		122			132
PL.22	2	G-4区SB149柱穴半裁(西から)	PL.33	1	F-7区SB036柱穴半裁(北から)
		122			133

PL.33	2	F-7区SB152柱穴半裁(北から)	PL.43	2	SB222 (東から)143
		133	PL.44	1	SB235 (東から)144
PL.34	1	F-7区SB154柱穴半裁(北から)	PL.44	2	SB236 (北西から)144
		134	PL.45	1	SB237 (北から)145
PL.34	2	G-7区SB030~033柱穴半裁	PL.45	2	SB237 (東から)145
	(11)	5から)134	PL.46	1	SB240 (西から)146
PL.35	1	G-7区SB030柱穴半裁(北から)	PL.46	2	SB241 (北から) ······146
		135	PL.47	1	SB243 (東から)147
PL.35	2	G-7区SB033柱穴半裁(北から)	PL.47	2	SB244 (東から)147
		135	PL.48	1	SB244 (東から)148
PL.36	1	E-8区SB045 (東から)136	PL.48	2	SB245、SB246 (北から)148
PL.36	2	E-8区SB045柱穴半裁(東から)	PL.49	1	池状遺構001完掘(東から)149
		136	PL.49	2	E-3区001杭列検出状況 (南から)
PL.37	1	E-8区SB046半掘(西から)			149
		137	PL.50	1	E-3区001獣骨出土状況 (南から)
PL.37	2	G-8区SB039柱穴半裁(東から)			150
		137	PL.50	2	E-3区001獣骨出土状況(北から)
PL.38	1	G-8区SB085柱穴半裁(東から)			150
		138	PL.51	1	E-3区001獣骨出土状況(北から)
PL.38	2	H-10区SB071検出状況 (東から)			151
		138	PL.51	2	E-3区001下駄出土状況(西から)
PL.39	1	H-10区SB071柱穴半裁(東から)			151
		139	PL.52	1	D-5区001権衝出土状況(西から)
PL.39	2	H-10区SB072検出状況 (東から)			152
		139	PL.52	2	D-4区001案出土状況(北から)
PL.40	1	H-10区SB080柱穴半裁(東から)			152
		140	PL.53	1	D-4区001刀子出土状況(北から)
PL.40	2	G-11区SB091柱穴半裁(北から)			153
		140	PL.53	2	E-4区001出土木製容器(北から)
PL.41	1	I-11区SB092柱穴半裁(北から)			153
		141	PL.54	1	D-3~4区001ベルト出土舟形木
PL.41	2	J-11区SB093柱穴半裁(北から)			製品 (北から)154
		141	PL.54	2	D-4区001暗渠内槽出土状况
PL.42	1	I-12区SB094柱穴半裁(北から)		(西	写から)154
		142	PL.55	1	D-3区001暗灰色砂土出土木簡
PL.42	2	J-16区SB099完掘 (北から)		(西	頃から)155
		142	PL.55	2	D-3区001出土木簡(北から)
PL.43	1	SB215 (南から)143			155

PL.56	1	D-4区001土手状遺構検出状況	PL.65	2	D-7区002須恵器出土状況
	(西	iから)156		(=	比から)165
PL.56	2	D-4区001土手状遺構上炭化物	PL.66	1	D-5区002带金具出土状况
	(西	iから)156		(Ī	西から)166
PL.57	1	D-4区001土手状遺構内暗渠掘り	PL.66	2	D-5区002木簡出土状況(北から)
		下げ(北から)157			166
PL.57	2	D-4区001土手状遺構内暗渠掘り	PL.67	1	D-5区002木簡出土状況(北から)
		下げ (西から)157			167
PL.58	1	C~D-4区001土手状遺構検出状	PL.67	2	C-5区002暗灰砂土出土木簡
		況(西から)158		(:	比から)167
PL.58	2	C~D-4区001土手状遺構内暗渠	PL.68	1	C-5区002暗灰砂土出土木簡
		(北から)158		(Ī	西から)168
PL.59	1	D-4区001土手状遺構内暗渠	PL.68	2	D-4区002北半木簡出土状況
		(北から)159			(北から)168
PL.59	2	D-5区001土手状遺構内暗渠検出	PL.69	1	D-4区002北半木簡出土状況
		状況(西から)159			(北から)169
PL.60	1	D-5区001土手状遺構内暗渠掘り	PL.69	2	G-10区004遺物出土状況
		下げ近影(西から)160			(南から)169
PL.60	2	D-5区001土手状遺構内暗渠東側	PL.70	1	G-10区004須恵器出土状況
		掘り下げ近影(北から)160			(南から)170
PL.61	1	D-5区001土手状遺構内暗渠基底	PL.70	2	G-10区004土師器出土状況
		部状況(北から)161			(北から)170
PL.61	2	D-5区001土手状遺構 (東から)	PL.71	1	G-10区004完掘(南から)171
		161	PL.71	2	F-10区003、004完掘(南から)
PL.62	1	D-4区001土層堆積(西から)			171
		162	PL.72	1	D-000区025鉄滓だまり検出状況
PL.62	2	D-3区001土層堆積(西から)			(西から)172
		162	PL.72	2	D-000区025鉄滓だまり検出状況
PL.63	1	E-2区001西側整地層出土須恵器			(南から)172
		(南から)163	PL.73	1	F-0区025西側羽口出土状況
PL.63	2	E-8区002銅製帯金具(丸鞆)出			(西から)173
		土状況(北から)163	PL.73	2	F-0区025西側羽口出土状況近影
PL.64	1	D-7区002鉄刀出土状況(北から)			(西から)173
		164	PL.74	1	G-10区022完掘(南から)174
PL.64	2	C-5区002暗灰砂土出土糸巻き	PL.74	2	N-7区112南排滓土坑近影
	(北	にから)164			(南から)174
PL.65	1	C-6区002暗灰砂土出土琴柱	PL.75	1	SX118掘り下げ状況(北から)
	(東	〔から)165			175

PL.75	2 SX235 (東から) ······175
PL.76	1 SX235 (北から) ······176
PL.76	2 13~16区竪穴住居址完掘(西から)
	176
PL.77	1 SX044全景(西から)177
PL.77	2 SX044全景(南から)177
PL.78	1 15・16区SX044掘り下げ(北から)
	178
PL.78	2 H-11~15区SX044完掘(西から)
	178
PL.79	1 E-23区SX162木材だまり
	(北から)179
PL.79	2 SX162完掘(西から)179
PL.80	1 SX163石敷検出状況(西から)
	180
PL.80	2 SX163石敷検出状況(西から)
	180
PL.81	1 SX163石敷検出状況(西から)
	181
PL.82	出土遺物 1182
PL.83	出土遺物 2183
PL.84	出土遺物 3184
PL.85	出土遺物 4185
PL.86	出土遺物 5186
PL.87	出土遺物 6187
PL.88	出土遺物 7188
PL.89	出土遺物 8189
PL.90	出土遺物 9190
PL.91	出土遺物10191
PL.92	出土遺物11192
PL.93	出土遺物12193
PL.94	出土遺物13194
PL.95	出土遺物14195
PL.96	出土遺物15196
PL.97	出土遺物16197
PL.98	出土遺物17198
PL.99	出土遺物18199
PL.100	出土遺物19200

I はじめに

1. 調査に至る経緯

平成6年2月、九州大学から福岡市に新キャンパス大学移転用地の取得の依頼があり、同3月、福岡市、九州大学、福岡市土地開発公社(以下公社とする)は用地取得について覚書の締結がなされた。事業用地は公社が福岡市に代わり先行取得し、新キャンパス建設のための造成工事を行うこととなった。造成工事に先立ち、平成7年2月九州大学から福岡市に対して事業用地内埋蔵文化財の事前調査の依頼があったことから、公社と福岡市で委託契約を締結して事業用地内の埋蔵文化財の踏査を実施した。平成7年12月、用地の275haの踏査が終了した。平成8年3月、九州大学、福岡市、公社間で「造成に関する覚書」が締結され、その中で公社は「事業用地の造成に関して埋蔵文化財調査等を行うものとする」との一項が盛り込まれたことから以後、埋蔵文化財の調査に関しては公社と福岡市との間で委託契約を締結して事業を進めることとなった。

2. 調査の組織

調查委託 福岡市土地開発公社

調查主体 福岡市教育委員会

教育長 植木とみ子 生田征生 町田英俊 西憲一郎(前任)

文化財部長 山崎純男 後藤直 平塚克則 柳田純孝 堺徹 (前任)

調査庶務 文化財管理課

文化財管理課長 榎本精治 上村忠明 平原義行(前任) 管理係長 栗須ひろ子 市坪敏郎 井上和光(前任)

管理係 鳥越由紀子 鈴木由喜 岩屋淳美 中岳圭 (前任)

調查担当 埋蔵文化財第二課(旧 大規模事業等担当)

課長 力武卓治 山崎純男 二宮忠司(前任)

主查 米倉秀紀 池崎譲二 松村道博 濱石哲也(前任)

池田祐司 上角智希 木下博文

小林義彦 吉留秀敏 菅波正人 屋山洋 久住猛雄 星野恵美

松浦一之介(前任)

調査補助 小杉山大輔 西村直人 濱石正子 水崎るり 撫養久美子

調查調整 都市整備局大学移転対策部

調番	語 調査次数	担当者	所在地	分布地図番号	調査期間	調査面積	遺跡の時代
000	第20次	菅波、屋山	大字桑原字戸山	桑原129	H12.4.5~H15.5.23	20,000m	古代建物

3. これまでの調査経過

九州大学統合移転地では平成6年の用地の取得後、埋蔵文化財の踏査、試掘調査を行い、平成8年後半から始まった発掘調査は平成18年度で44ヶ所目(Tab. 1参照)となった。これまでの調査経過及び平成14年度までの調査(第30次調査)の概要については概報1(市報第693集 2001)、2(市報第743集 2003)に述べられている。また、第2次調査(市報告書722集 2002)、桑原石ヶ元古墳群(市報告書744集 2003)、第3、4、8、11次調査(市報第829集 2004)、第12、15、24次調査(市報第860集、2005)第13、17、25、29、36次調査(市報第861集 2005)の報告書が刊行されている。平成17年度は4箇所の調査を行った。このうち、31、42、44次調査は九州大学の再取得部分である。事業地の西端の九州大学再取得部分にあたる42次調査では谷の包含層から弥生時代後期~古墳時代初頭の土器が多量に出土した。最終的には数千箱を超えるものと考えられる。この包含層からは他にも、小銅鐸、銅製鋤先、貨泉等の遺物も出土しており、遺跡の性格が注目される。

元岡・桑原遺跡群ではこれまで旧石器時代から中世にわたる幅広い時期の遺構、遺物が発見されている。旧石器時代では、第3次、20次調査等で、ナイフ形石器、剥片尖頭器、細石核等が出土している。これらの遺物は点在的に出土するが、この時期の明確な遺構は検出されていない。縄文時代では、第3次調査で早期前半の石組炉が20数基発見され、北九州では類例の少ない炉穴も検出された。第3次調査以外では明確な遺構は検出されていないが、周囲には桑原飛櫛貝塚や元岡瓜尾貝塚等があり、他の時期の遺跡の存在が予想される。

弥生時代の遺跡は、調査例は少ない。遺跡群では南西端にある、第42次調査では弥生時代後期~古墳時代初頭の土器や青銅製品等が多数出土している。隣接する前原市域の調査でも多量の遺物が出土しており、拠点的な集落であったと考えられる。弥生時代終末から古墳時代にかけては多くの遺構、遺物が見られるようになり、集落が継続的に営まれていたと考えられる。第20次、27次調査で100軒以上の竪穴住居址が発見され、周囲には金屎古墳、経塚古墳、石ヶ原古墳等の前方後円墳、大型円墳が分布しており、この地域の拠点と考えられる。

古墳では前方後円墳は7基、大型円墳が1基発見されている。周辺にある前原市御道具古墳、泊大塚古墳を含めて、4世紀~6世紀にかけての首長墓の系譜を追うことができる。その内、桑原金屎古墳、元岡E1号墳、元岡石ヶ原古墳、経塚古墳の調査が行われている。群集墳は70基あまりが分布し、大半の調査が行われた。群集墳で最も多く分布する桑原石ヶ元古墳群では金銅装単鳳環頭太刀や馬具、鍛冶道具等の豊富な副葬品が出土している。特に鍛冶道具は桑原古墳群A群でも出土しており、工人集団の存在が注目される。

古代では多数の製鉄遺跡が確認されており、これまで50基程の製鉄炉が発見されている。そのうち、第12次調査で27基、第24次調査で7基の製鉄炉が検出され、8000箱以上の製鉄関連遺物(炉壁、鞴羽口、鉄滓等)が出土した。遺跡群で見つかった製鉄遺構は大半が8世紀に位置付けられ、8世紀中頃の対新羅政策に関連する鉄の生産と指摘する意見もある。この他、多くの文字資料が注目される。第7次調査では「壬辰年韓鐵□□」と記された荷札状の木簡、第15次調査では古代の「解除(祓)」に関連する木簡、第20次調査では「太寶元年」や「延暦四年」、「嶋郡赤敷里」等志麻郡内の郷名を記したものがある。

このように本遺跡は多岐に及ぶ複合遺跡であるが、特に古墳時代から古代にかけての遺跡は律令体制成立期の様相を考える上で非常に重要な成果を提供するものである。



tab.1 九州大学統合移転地内(元岡·桑原遺跡群)発掘調査一覧

調查番号	遺跡名	所在地	調查年月日	調査面積又 は古墳基数	検出遺構	調査後の処置	備考
	(確認調查)						
9656	桑原石ヶ元古墳群	大字桑原字石ヶ元	H8.11.11~H10.10.31	19基	円墳	保存	
9657	桑原金屎古墳	大字桑原字金屎	H8.8.20~H8.11.29	1基	前方後円墳	保存	平成17年度 報告第909集
9658	元岡石ヶ原古墳	大字元岡字石ヶ原	H8.8.27~H8.11.29	1基	前方後円墳		平成17年度 報告第909集
	(発掘調査)						
9602	元岡・桑原遺跡群	大字元岡字	H.8.3.11~H8.9.30		試掘		
9656	桑原石ヶ元古墳群	大字桑原字石ヶ元	H9.12.1~H10.10.31	11基	円墳	調査後造成	平成14年度 報告第743集
9656	第2次	大字桑原字柿ヶ元	H8.11.11~H9.3.25	3,007ml	古墳時代~古代溝、土坑、水田	調查後造成	平成13年度 報告第722算
9763	第3次	大字元岡字 瓜尾	H9.11.19~H11.2.22	3,500m、 古墳 1 基	縄文時代石組炉、弥生時代住居址 円墳	調查後造成	平成15年度 報告第8291
9764	第4次	大字桑原字石ヶ元	H9.12.1~H10.3.31	1,219m	古代~中世掘立柱建物・満	調查後造成	平成15年度
9811	第5次	大字桑原字石ヶ元	H10.4.27~H10.6.23	2,500m	古代土壙・包含層	調查後造成	報告第8299 概報 1 第693集
9812	第6次	大字桑原字 石ヶ元	H10.6.30~H10.8.28	2,800m	古墳時代包含層	調查後造成	概報 1 第693集
9813	第7次	大字元岡字 池ノ浦	H10.5.6~H11.6.11	7,500m	古墳時代~古代住居址·掘建柱建物、池状遺構、製鉄炉	調査後造成	95033 X
9829	第8次(元岡古墳群M群)	大字元岡字大坂	H10.9.16~ H10.12.25	古墳1基	円墳	調査後造成	平成15年度
9851	第9次	大字元岡字池ノ浦	H10.11.2~H10.12.10	190m²	弥生時代住居址	調査後造成	報告第829章 概報 1
9854	第10次	大字桑原字柳ヶ浦	H11.1.6~H11.3.31	1,336m	古代~中世包含層	調査後造成	第693集 概報 1
9855	第11次	大字桑原字柳ヶ浦	H11.1.6~H11.3.20	1,650m	古墳時代~古代土壤、包含層	調查後造成	第693集 平成15年度
9902	第12次	大字桑原字履形	H11.4.1~H12.3.28	5,500m	古代製鉄炉	保存	報告第829算 平成16年度
9903	第13次(元岡古墳群E群)	大字元岡字小阪	H11.4.12~H11.9.28	古墳3基	前方後円墳 1 基、円墳2基	調查後造成	報告第860事 平成16年度
50000000			H11.4.22~H11.7.22	De Jersen versiert.	古代包含層	調査後造成	報告第8614 概報 1
9904	第14次	大字桑原字柳ヶ浦	Post of the state	1,200m	TOWARD STRONG TO CONTROL TO THE CONT	Cesses and	第693集 平成16年度
9923	第15次	大字桑原字履形	H11.6.11.~H11.9.28	3,500m	古代包含層、中世水田	調查後造成	報告第860算 概報 1
9933	第16次	大字桑原字牛切	H118.2~H11.11.10	2,500m	古代包含層	調査後造成	第693集 平成16年度
9934	第17次(元岡古墳群B群)	大字元岡字池の浦	H11.9.10~H11.12.8	古墳2基 16,800㎡。	円墳 古墳時代~古代住居址、掘立柱建	調査後造成	報告第861
9946	第18次	大字桑原字別府	H11.10.15.~H14.2.20	古墳2基	物、池状遺構、製鉄炉、円墳	調查後造成	概報2
9947	第19次	大字桑原字牛切	H11.11.18~H11.12.24	3,000m	古代包含層 古墳時代住居址、古代掘立柱建物	調査後造成	第743集
0001	第20次	大字桑原字戸山	H12.4.5~ H15.5.23	20,130m	製鉄炉	保存予定	本書
0002	第21次	大字桑原字石ヶ元	H12.4.4~ H12.10.20	2,900m、 古墳3基	石ヶ元古墳群円墳3基、	調查後造成	Web andered
0033	第22次	大字桑原字牛坂	H12.4.13~ H12.10	3,890m	古代掘立柱建物、製鉄関連遺構	調查後造成予定	平成17年度 報告第909事
0019	第23次	大字元岡・桑原	H12.6.5~ H12.12.25	9,106m	確認調查	7,300m は緑地保全 地区(保存)	
0034	第24次	大字桑原字金深	H12.8.21~H15.3.20	5,500m	古墳時代住居址、古代製鉄炉	調查中	平成16年度 報告第860算
0052	第25次(桑原古墳群A群)	大字桑原字石ヶ原	H12.12.11~H13.11.30	古墳7基	円墳	調查後造成予定	平成16年度 報告第861
0110	第26次	大字桑原字戸山	H13.4.6~H13.11.30	5,487m、 古墳1基	古墳時代住居址、円墳、古代掘立柱建物	保存3,442m	平成17年度 報告第909集
0153	第27次	大字桑原字戸山	H13.12.1~H14.8.29	4,495m	古墳時代住居址	建物位置の変更による保存、1,000m	
0154	第28次	大字元岡字池ノ浦	H14.2.1~H14.7.4	2,200m	古代~中世包含層	調查後造成	平成17年度 報告第909期
0202	第29次(元岡古墳群N群)	大字元岡字石ヶ原	H14.4.5~ H15.9.30	古墳9基	円墳	調查中	平成16年度 報告第861集
0240	第30次	大字桑原字牛切	H14.8.1~H14.9.30	2,450m	古代包含層	調查後造成予定	TREE TROOTS
0242	第31次	大字元岡字峰ほか	H14.10.1~	12,000m²	古代瓦だまり、掘立柱建物、鍛冶 炉ほか	調查中	
0255	第32次	大字元岡字宮草	H15.1.20~H15.3.31	1,700m²	[α, 19ε.(f	調査中	
0303	第33次	大字桑原字平川	H15.4.7~H15.5.19	古墳1基	円墳	調査後造成	
0310	第34次(元岡古墳群J群)	大字元岡字石ヶ原	H15.4.1~H15.8.12	古墳3基	円墳	調查後造成	平成17年度
0340	第35次(石ヶ原古墳)	大字元岡字石ヶ原	H15.5.20~	古墳1基	前方後円墳	調查後造成	報告第909第 平成17年度
0341	第36次(経塚古墳)	大字桑原字深田ほか	H15.9.1~	古墳1基、 2,200㎡	大型円墳	調査中	報告第909算
0365	第37次	大字元岡字石ヶ原	H15.10.20~H16.2.26	2,200mi 古墳 4 基	円墳	調査後造成	平成16年度
0371	第38次	大字元岡字大久保	H16.3.8~	7000mi	中世山城	調査中	報告第8613
107	4,000,000	NOTE INCH WHILEYS		7 90000 00	17 14-27	7.05233.020.00	
0410	第40次	大字桑原字深田	H16.4.7~H16.4.30	2000m	包含層 士化句合屬 郵鉄即油造媒	調査後造成	
0435	第41次	大字元岡地内	H16.5.7~	1570ml	古代包含層、製鉄関連遺構 縄文時代晚期~古墳時代初頭自然	調査後造成	
0452	第42次	大字元岡地内	H16.10.1~	8000mi	流路	調查後造成	
0523	第44次	大字元岡地内	H17.6.1~H17.12.2	1189㎡ 古墳3基、	古墳~古代集落	調查後造成	
0535	第45次(桑原古墳群A群)	大字桑原地内	H17.7.20~H17.11.21	1128m	円墳	調查後造成	
0562	第47次	大字元岡地内	H18.1.5~3.10	2782m		調查後造成	
0563	第48次	大字桑原地内	H18.1.10~2.23	447m		調査後造成	
0611	第49次	大字桑原地内	H18.4.3~H19.3.30	2782mi		調查後造成	

4. 遺跡の位置と環境

元岡・桑原遺跡群は九州大学統合移転事業に伴って発見された遺跡である。遺跡群は旧石器〜近世にわたる複合遺跡である。縄文〜古代にかけての集落関連遺構、古代の官衙関連遺構、製鉄等の生産関連遺構、70基余りの後期群集墳や7基の前方後円墳等が認められる。遺跡群の位置は福岡市の西端にあたり、玄界灘に突出する糸島半島の東側基部の丘陵地帯にある。丘陵は小河川により樹枝状に浸食された狭い谷が無数に入りこむ。遺跡は丘陵上や枝分かれした谷部に立地する。行政的には福岡市西区元岡、桑原に所在する。遺跡の立地する糸島半島の基部付近は近世以前、東側の今津湾と西側の加布里湾から潟状に湾が入り組み、志摩町泊地区から前原市志登地区にかけて陸橋状に繋がっていたと想定されている。ここでは今回報告する古代の遺跡を中心に記述していく。

日本書紀には西暦602年(推古10)、来目皇子が新羅を討つため撃新羅将軍に任命され、二万五千人の軍を嶋郡(現在の志摩町、福岡市西区の一部)に駐屯したと記している。駐屯の実態は不明であるが、律令期の嶋郡に見られる久米の地名もその記事との関連を示すものと考えられる。律令期では当該地域は志麻(嶋)郡に属し、郡内は登志、川辺、韓良、明敷、久米、加夜、志麻、鶏永等の郷が存在した。文献では正倉院に現存する最古(大宝二年)の戸籍の筑前国嶋郡川辺里戸籍がある。戸籍には嶋郡の大領である肥君猪手が居住していた川辺里の比定地は諸説あり、現在の志摩町馬場付近を中心とした地域という説等あるが、確定していない。

この地域では海岸で良好な砂鉄が得られることから製鉄遺跡が多く分布する。元岡・桑原遺跡群の 北側約2kmに位置する福岡市西区大原A遺跡第1次調査では8世紀前半から後半にかけての製鉄炉が3 基検出されている。いずれも両側排滓の箱型炉である。この調査地点ではこの他に鍛冶炉、炭窯と考 えられる焼土坑等も検出されており、一連の製造過程をうかがえる状況である。この調査地点の更に 北側500mにある大原D遺跡でも多くの製鉄関連遺構が検出されている。1~3次調査では形態が明 確ではないが、奈良時代から平安時代にかけての時期の製鉄炉が3基検出されている。鍛冶炉、焼土 坑等も検出されており、大原A遺跡と同様の様相を示している。4次調査では9世紀代と考えられる 製鉄炉が1基検出されている。周辺では覆い屋をもつ鍛冶炉や焼土坑が検出されている。この他、5、 6次調査では製鉄炉は検出されていないが、鍛冶炉、焼土坑などが検出され、鉄滓、羽口などが出土 している。ここで出土した鉄滓や羽口の分析から荒鉄から不純物を除く精錬鍛冶や鉄器製作のための 鍛錬鍛冶が行われていたことが分かり、鍛冶を中心とした場所であったと推定されている。このよう に大原A遺跡、D遺跡は8世紀~9世紀にかけての製鉄に関わる遺構が集中する地域で、元岡・桑原 遺跡同様、当時の拠点のひとつと考えられる。この他、糸島半島に志摩町八熊製鉄遺跡では8世紀後 半に位置づけられる製鉄炉が7基検出されている。ここでは切り合いながら炉が密集して造られてい る。また、炉壁、鉄滓の他、土製の送風管等も多数検出されている。製鉄に関連する遺構としては藤 原遺跡では横口式の炭窯が見つかっている。このタイプの炭窯の検出例は少なく、炭の生産体制は今 度の検討課題と言える。これまで見つかった糸島半島の製鉄炉を概観すると、遺構の時期は8世紀~ 9世紀のものが大半である。特に本遺跡群で見られる多数の8世紀代の製鉄遺構は8世紀半ばの新羅 との関係の悪化等による大宰府の武器の整備等と関連させ、集中した鉄の生産が行われたという説も 示されている。

文献や一連の製鉄遺跡が存在から、当該地域は古墳時代から古代にかけて、半島との対外関係から 軍事的拠点のひとつとしての役割を担っていたと考えられる。本遺跡の調査成果はそのことを考える 上での重要な資料を提示するものと言えよう。



fig.2 元岡・桑原遺跡群位置図 (1/50,000)

Ⅱ 調査の記録

1. 調査の概要

調査地点は事業地の東側(B-2)にあたり、戸山の東側に位置し、北東方向に開口する、幅約50m程の谷部に当たる。この谷部は旧大原川に合流する。西側に位置する丘陵上には中世山城の戸山城が築かれる。東側の丘陵上には4世紀末の前方後円墳である、金屎古墳が築造される。また、調査地点の北東の隣接地には第27次調査地点が、南西隣接地には第26次調査地点がある。調査開始時は荒地であったが、以前は水田として利用されていた。

試掘調査によると、調査区西側の丘陵斜面には弥生時代から古代の竪穴住居跡、土坑、溝、柱穴等が密に分布しており、大規模な集落の存在が予想された。また、調査区東側の谷部では弥生時代後期~奈良時代の土器や石器を含む包含層が確認されていた。調査は試掘の結果を基に谷頭の南側から順次、重機で厚さ約50~80cmの旧耕作土を除去しながら、遺構検出を行った。調査区南東隅から北東にかけての谷部で古代~中世前半の遺物を含む包含層を検出した。西側の丘陵斜面から谷部にかけては柱穴、土坑等を検出した。調査区は地形に谷の開放方向に沿って、公共座標から45°東に振った軸でグリッドを設定し、掘り下げを行い、遺物を取り上げた。グリッドは10m四方で、東西方向に東からA、B、Cの順でZまで、南北方向に南から1、2、3の順で付けた。調査区が当初予想より南側に拡張したため、南方向には0、00、000と番号をつけた。調査は平成12年4月5日から実施し、平成15年5月23日まで行い、総調査面積約20,000㎡となる。

調査経過

調査経過を年度毎に概観すると、以下のようになる。

平成13年度:調査区を更に北側に拡張。古代の倉庫群の広がりの確認を主眼に調査を進める。11区から15区では古代の遺構は少なく、古墳時代前期から後期の竪穴住居跡、池状遺構等が検出され、古墳時代においては大規模な集落遺跡であったことが判明。池状遺構044では多量の土器のほか、木製品も多数出土。

平成14年度:2ヶ年の調査成果により、本調査地点は古墳時代の大規模集落、古代の官衙的遺跡という性格付けがなされ、遺跡の取り扱いについての福岡市土地公社、九州大学との協議を協議が行なわれる。協議の結果、古墳時代から古代の遺構が確認された部分の遺跡の保存の方針が出される。そのため、調査は遺構の完掘は行なわず、最小限の立ち割り、地形確認のためのトレンチ調査に留めた。平成15年度:遺構の保護のため、半裁した柱穴等を砂で充填した後、遺構面は全体を均一に真砂土で覆い、平成15年5月23日に調査は終了。

調査は3ヶ年の期間を要したが、特にこの調査以前に確認された大規模な製鉄遺跡との関連や木簡の性格等、非常に多くの問題を提示することになった。大学構内の遺跡はこれまでに石ヶ元古墳群、第12次調査地点の製鉄遺構等が保存されたこともあり、調査の初年度に記年銘木簡を含む多数の木簡が出土したことで、遺跡の取り扱いがより慎重になった。幸いなことに地元の方々、福岡市土地公社、九州大学の関係各位のご尽力により、遺跡は保存されることになった。記して、感謝したい。

検出遺構・遺物

今回の報告では整理の関係から、古代の遺構(掘立柱建物跡、池状遺構)・遺物を中心に報告し、それ以外は後日報告とする。ここでは検出遺構。遺物の概略を記す。

主な遺構は古墳時代の竪穴住居跡70軒 + a、掘立柱建物、溜池状遺構、土坑他、古代(奈良時代~平安時代)の掘立柱建物32棟 + a、池状遺構、製鉄炉、鍛冶炉、土坑他となる。遺物は各遺構から須恵器、土師器等の土器類、池状遺構から木簡をはじめとする木製品、鉄鏃、刀子等の鉄製品などが多量に出土した。また、それ以前の遺物としては弥生土器の他、押型文土器や阿高式土器等の縄文土器、石槍、石鏃、磨製石斧、また、ナイフ形石器や細石核等、旧石器時代の遺物も出土しており、幅広い時期にわたる土地の利用が行なわれていたことがわかる。遺物の総量はコンテナ約2000箱程度になる。

古墳時代の遺構・遺物

古墳時代の遺構は西側の丘陵斜面から谷部にかけて、竪穴住居跡を80軒あまり検出した。古代の整地層の下層にも遺構が確認でき、更に20~30軒の竪穴住居跡が予想される。竪穴住居跡は古墳時代前期から見られ、7世紀までの長期にわたる集落であることが分かった。竪穴住居跡は奈良時代のものは確認されておらず、集落域は別の場所に移ったと考えられる。また、調査区北側中央で幅20m、長さ50mを超えるSX044を検出した。SX044からは古墳時代前期~後期の各時期の土器、木器(農耕具、建築部材等)が多量に出土した。この遺構は堆積状況から常に水が溜まっていたと考えられ、南から延びてくる谷部から枝分かれした狭い谷の下流に堰を設けた溜池状の遺構と考えられる。この遺構からは完形の土器(土師器の小型丸底壷、須恵器坏)や子持ち勾玉、滑石製の小玉、太刀等が出土しており、各時期の水場の祭祀が行われていたと考えられる。

古代の遺構・遺物

古代の主な遺構は池状遺構SX001と掘立柱建物跡(倉庫)である。倉庫群は東側の浅い谷部と西側の丘陵に挟まれた幅約30m程の整地面の上に造られており、南側についてはSX001より上流には配置されない。北側は削平のため、不明確だが、南北長60m程度の範囲に約30棟余りが分布する。遺構の配置状況などから東側の谷部分を堰きとめて流路を更に東側にずらし、西側の丘陵裾を削ってそれ以前の居住域を埋め立てて倉庫群を配置したと考えられる。倉庫群を区画する溝や柵等は検出されていないが、倉庫群はある程度柱筋を揃えて、2~3の列状を呈している。柱筋の方向や柱穴の切り合い関係から同時並存ではなく、数時期に亘るものと考えられる。倉庫の構造・規模は2×2間の総柱建物、床面積約9~15㎡のものが大半である。

池状遺構SX001は谷を幅約3m、長さ約14mの築堤により堰きとめたもので、長さ約35m、幅約20m、深さ約50~80cmを測る。築堤の中央部分では木材を埋め込んだ排水用の施設を確認した。池状遺構の性格としては前述した倉庫設置に関わるものが考えられる。また、池状遺構からは多数の土器、木製品(工具(刀子柄)、農具(鋤、杵)、紡織具(糸巻、紡錘車、機打具)、服飾具(櫛、下駄)、容器(挽物、刳物、曲物桶、蓋板、栓)、食事具(杓子)、遊戯具(琴柱)等)、鉄製品(銅製品(椀、飾り金具等)、(鉄鏃、鉄刀、鞘金具、刀子、釘等)が出土したが、この中には舟形木製品や斎串等の祭祀具があり、この場所で何らかの祭祀が行われていたと考えられる。池状遺構の存続時期は紀年銘資料(大宝元(701)年、延暦四(785)年)から8世紀を前後する時期から約100年間機能したものと考えられる。倉庫群に関してもその時間幅の中で捉えられるようである。

調査区西側の丘陵斜面では古代の製鉄炉3基、鍛冶遺構数基、焼土坑数基を検出した。時期は未確定だが、一連の倉庫群より新しく位置づけられる。これまで製鉄遺構は7次、12次、18次、24次などで多数検出されているが、この時期には各所で製鉄関連作業が行われていたことが分かった。

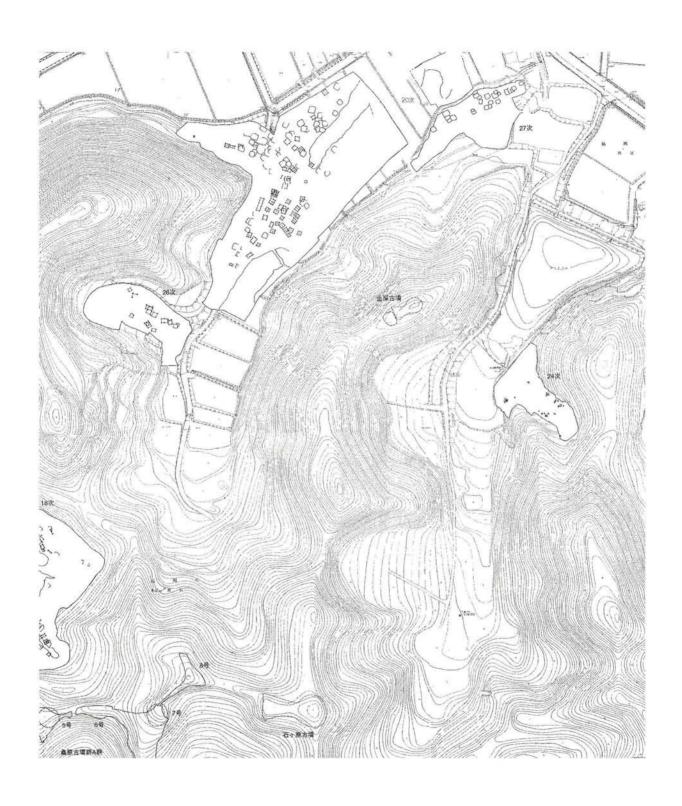


fig.3 元岡・桑原遺跡群第20次調査地点位置図(1/3,000)

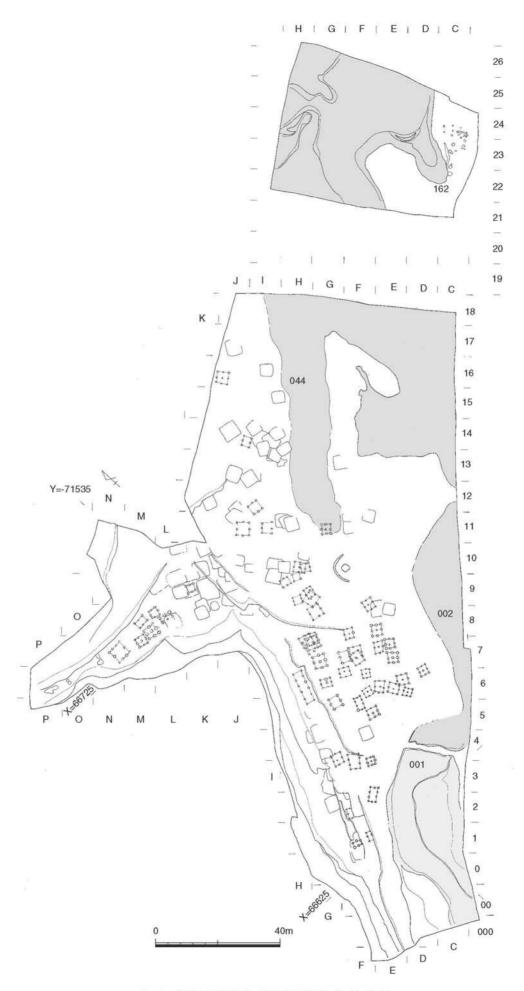


fig.4 第20次調査地点遺構配置図 (1/1,200)

tab.2 第20次調査地点遺構一覧

遺構番号	遺構種類	地区
0 0 1	池状遺構	C~E-000~4
002	满状造構	C~E-5~7
003	清状遺構	F10
004	竪穴状造構	F10
005	溝状遺構	F3
006	满状造構	F3
007	土坑	F6
008	满状造構	F7
009	土器だまり	D7
010	土坑	F7
011	鉄滓だまり	E7
012	柱穴	E6
013	柱穴	E6
014	柱穴	E6
015	握立柱建物	E6
016	柱穴	E6
017	柱穴	E6
018	柱穴	E6
019	掘立柱建物	E6
020	柱穴	D6
021	土坑	E5
022	焼土坑	G10
023	土坑	G10
0 2 4	土坑	G10
025	鉄滓だまり	D-00~000
026	握立柱建物	E2
027	握立柱建物	F5
028	提立柱建物	F5
029	掘立柱建物	G5
030	握立柱建物	G7
031	握立柱建物	G7
032	握立柱建物	G7
033	握立柱建物	G7
034	提立柱建物	G7
035	据立柱建物	F7
036	握立柱建物	F7
037	据立柱建物	E6
038	握立柱建物	G8
039	掘立柱建物	G8
0 4 0	竪穴住居	E8

	100.0	213-0.7
遺構番号	遺構種類	地区
0 4 2	掘立柱建物	E7
043	竪穴住居	E8
0 4 4	满状造構	G11~
0 4 5	掘立柱建物	E8
0 4 6	掘立柱建物	E8
0 4 7	竪穴住居	110
0 4 8	竪穴住居	110
0 4 9	竪穴住居	110
050	竪穴住居	H10
051	竪穴住居	J12
052	竪穴住居	H10
053	竪穴住居	H10
054	竪穴住居	J14
055	竪穴住居	J10
056	竪穴住居	J10
057	竪穴住居	J13
058	竪穴住居	J13
059	竪穴住居	J 12
060	竪穴住居	114
061	竪穴状遺構	H10
062	竪穴住居	G13
063	竪穴住居	J13
064	竪穴住居	H14
065	竪穴住居	114
066	竪穴住居	114
067	竪穴住居	113
068	竪穴住居	113
069	竪穴住居	K12
070	竪穴住居	113
071	掘立柱建物	H10
072	掘立柱建物	H10
073	土坑	113
074	竪穴住居	G11
075	竪穴住居	G11
076	土坑	113
077	土坑	E10
078	竪穴住居	114
079	竪穴住居	G13
080	掘立柱建物	H9
081	竪穴住居	F11
082	竪穴住居	114

貴榑番号	造構種類	地区
083	竪穴住居	114
084	竪穴住居	114
085	掘立柱建物	Н9
086	掘立柱建物	Н9
087	竪穴住居	F11
880	土坑	F12
089	竪穴住居	114
090	土坑	H14
091	掘立柱建物	G11
092	掘立柱建物	111
093	掘立柱建物	J11
094	掘立柱建物	112
095	掘立柱建物	J14
096	竪穴住居	J16
097	竪穴住居	115
098	竪穴住居	116
099	掘立柱建物	J16
100	掘立柱建物	G10
101	掘立柱建物	F1
102	竪穴住居	FO
103	竪穴住居	F1
104	竪穴住居	G1
105	竪穴住居	G2
106	竪穴住居	G3
107	土坑	G5
108	竪穴住居	G5
109	竪穴住居	H5
110	竪穴住居	G4
111	竪穴住居	G4
112	製鉄炉	N7
113	焼土坑	N7
114	竪穴住居	K8
115	土坑	К9
116	土坑	K8
117	竪穴住居	18
118	製鉄炉	06
119	竪穴住居	G2
120	竪穴住居	F1
121	竪穴住居	G2
122	竪穴住居	L10
123	土坑	18

遺構番号	造構種類	地区		
1 2 4	竪穴住居	G2		
125	土坑	FÖ		
126	竪穴住居	18		
127	竪穴住居	F1		
128	竪穴住居	L 10		
129	竪穴住居	G2		
130	竪穴住居	G3		
131	竪穴住居	G3		
132	竪穴住居	G4		
133	竪穴住居	G3		
134	竪穴住居	G4		
135	竪穴住居	G5		
136	竪穴住居	Н8		
137	竪穴住居	Н8		
138	焼土坑	G4		
139	握立柱建物	F3		
140	握立柱建物	F3		
141	握立柱建物	F1		
1 4 2	竪穴住居	F4		
1 4 3	竪穴住居	F4 F4 E00 G4 G6		
144	竪穴住居			
1 4 5	鍛冶炉			
1 4 6	鍛冶炉			
1 4 7	握立柱建物			
1 4 8	握立柱建物	G4		
1 4 9	据立柱建物	G4		
150	握立柱建物	G6		
151	握立柱建物	E7		
152	据立柱建物			
153	握立柱建物	F7		
154	握立柱建物	F7		
155	握立柱建物	F6		
156	握立柱建物	E5		
157	竪穴住居	G6		
158	握立柱建物	E5		
159	握立柱建物	E5		
160	握立柱建物	C6		
161	坩埚	F23		
162	清状遺構	D22		
163	石敷遺構	D10~		

2. 掘立柱建物跡(SB)

掘立柱建物跡は総数49軒を検出した。一部、古墳時代に位置づけられるものもあるが、大半は8世紀代に位置づけられるものである。掘立柱建物には2×2間の総柱建物が多く見られる。特に5~7区で検出した建物は黄褐色粘質土の整地層に掘り込まれたもので、柱筋を揃える形で建物が配置されている。8区より北側では整地層が削平されており、掘り込み面は不明である。

SB015 (Fig.6 PL.) E6区で検出した。 2 × 2 間の総柱建物で、建物規模 (長軸×短軸) は3.1×3.1mを測る。

SB019 (Fig.6 PL.) E6区で検出した。 2 × 2 間の総柱建物で、建物規模 (長軸×短軸) は2.4×2.4m を測る。柱穴には焼土を多く含む。

SB026 (Fig.6 PL.20) E2区で検出した。2×3間の側柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 5.0×2.6mを測る。

SB027 (Fig.6 PL.) F5区で検出した。 2 × 3 間の側柱建物で、建物規模 (長軸×短軸) は4.1×2.3mを測る。

SB028 (Fig.7 PL.23) E5区で検出した。2×3間の側柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 3.9×2.4mを測る。

SB029 (Fig.7 PL.28) G5区で検出した。 1 × 2 間の建物で、建物規模 (長軸×短軸) は3.8×3.4mを測る。

SB030 (Fig.7 PL.34,35) G7区で検出した。 2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 40×3.9mを測る。

SB031 (Fig.7 PL.34,35) G7区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸)は4.0×4.0mを測る。SB032、033を切り、SB034に切られる。

SB032 (Fig.8 PL.34) G7区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸)は3.4×3.2mを測る。SB031に切られる。

SB033 (Fig.8 PL.34,35) G7区で検出した。 2 × 3 間の側柱建物で、建物規模 (長軸×短軸) は 6.0 × 3.7mを測る。SB031に切られる。

SB034 (Fig.8 PL.) G7区で検出した。 1 × 3 間の側柱建物で、建物規模 (長軸×短軸) は4.2×2.2mを測る。SB031を切る。

SB035 (Fig.8 PL.32) F7区で検出した。 2 × 2 間の建物で、中央の柱は検出されなかった。建物 規模 (長軸×短軸) は3.8×3.8mを測る。

SB036 (Fig.9 PL.33)

F7区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸)は3.2×2.8mを測る。

SB037 (Fig.9 PL.27) E6区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 3.4×3.2mを測る。一部、柱が残り、直径約20cm を測る。

SB038 (Fig.9 PL.37) G8区で検出した。 2 × 2 間の建物で、中央の柱は検出されなかった。建物 規模 (長軸×短軸) は4.0×4.0mを測る。

SB039 (Fig.9 PL.37) G8区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 4.0×4.0mを測る。SB085に切られる。

SB041 (Fig.10 PL.29.30) E7区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸)は

3.2×3.0mを測る。一部、柱が残っており、直径約20cmを測る。

SB042 (Fig.10 PL.30,31) E7区で検出した。 2 × 2 間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 3.4 × 3.2mを測る。一部、柱が残っており、直径約20cm を測る。

SB045 (Fig.10 PL.36) E8区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 3.4×3.2mを測る。一部、柱が残っており、直径約15~20cm を測る。

SB046 (Fig.10 PL.37) E8区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 3.4×3.2mを測る。

SB071 (Fig.11 PL.38,39) H10区で検出した。1×2間の建物で、建物規模(長軸×短軸)は3.0×2.8mを測る。SB072と切り合う。

SB072 (Fig.11 PL.39) H10区で検出した。 2 × 2 間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸)は 3.6×3.4mを測る。SB071と切り合う。

SB080 (Fig.11 PL.40) H9区で検出した。 1 × 1 間の建物で、建物規模 (長軸×短軸) は2.4×2.4mを測る。

SB085 (Fig.11 PL.38) G8区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸)は3.2×2.5mを測る。SB039を切る。

SB086 (Fig.12 PL.) H9区で検出した。 1 × 2間の建物で、建物規模 (長軸×短軸) は2.7×2.6mを測る。

SB091 (Fig.12 PL.) G11区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 3.2×2.7mを測る。

SB092 (Fig.12 PL.41) II1区で検出した。 1 × 2間の建物で、建物規模 (長軸×短軸) は3.2×3.2mを測る。

SB093 (Fig.12 PL.41) J11区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 4.0×4.0mを測る。

SB094 (Fig.13 PL.42) I12区で検出した。 1 × 2 間の建物で、建物規模 (長軸×短軸) は3.2×3.2mを測る。

SB095 (Fig.13 PL.) J14区で検出した。 1 × 2 間の建物で、建物規模 (長軸×短軸) は3.2×2.4mを測る。

SB099 (Fig.13 PL.42) J16区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 3.6×3.4mを測る。

SB100 (Fig.13 PL.) G10区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 2.4×2.4mを測る。

SB140 (Fig.14 PL.21) F3区で検出した。2×3間の側柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 4.6×3.2mを測る。

SB141 (Fig.14 PL.19) F1区で検出した。 1 × 2 間の建物で、建物規模 (長軸×短軸) は2.8×1.2mを測る。

SB150 (Fig.14 PL.29) G6区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸)は3.0×2.8mを測る。

SB151 (Fig.14 PL.32) E7区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 3.4×3.0mを測る。

tab.3 掘立柱建物跡一覧

挿図	図版	22200000	NEWENGLA	V 400 - 100	掘立在建物跡一覧 	T	
(Fig.)	(PL.)	遺構番号	遺構種類	地区	(長軸×短軸m、方位)	備考	床面積
6		015	握立柱建物	E6	3.1×3.1, N57° E	2×2間 (総柱)	10.8 m
6		019	握立柱建物	E6	2.4×2.4、N58° E	2×2間 (総柱)	6.4 m
6	20	026	握立柱建物	E2	5.0×2.6, N58" E	2×3間	10.8 m
6		027	握立柱建物	F5	4.1×2.3, N23" E	2×3間	10.0 m
7	23	028	掘立柱建物	E5	3.9×2.4, N24° E	2×3問	100000
7	28	029	握立柱建物	G5	3.8×3.4, N16° E	2×2間	11.8 m
7	34,35	030	握立柱建物	G7	4.0×3.9, N32° E	2×2間 (総柱)	15.2 m
7	34,	031	据立柱建物	G7	4.0×4.0, N22" E	2×2間 (総柱)	15.2 m
8	34	032	握立柱建物	G7	3.4×3.2, N27° E	2×2間(総柱)	11.8 n
8	34,35	033	握立柱建物	G7	6.0×3.7, N10° E	2×3間	19.8 n
8		034	握立柱建物	G7	4.2×2.2, N80° W	1×3間	
8	32	035	握立柱建物	F7	3.8×3.8, N33° E	2×2間	12.9 n
9	33	036	握立柱建物	F7	3.2×2.8, N29° E	2×2間 (総柱)	9.2 n
9	27	037	握立柱建物	E6	3.4×3.2, N34° E	2×2間(総柱)	10.8 п
9	37	038	握立柱建物	G8	4.0×4.0, N18° E	2×2間	15.2 n
9	37	039	握立柱建物	G8	4.0×4.0, N10° E	2×2間(総柱)	15.2 n
10	29,30	0 4 1	握立柱建物	E7	3.2×3.0, N35° E	2×2間 (総柱)	9.0 n
10	30,31	0 4 2	掘立柱建物	E7	3.4×3.2、N45° E	2×2間 (総柱)	9.0 n
10	36	0 4 5	握立柱建物	E8	3.4×3.2, N80° W	2×2間(総柱)	9.9 n
10	37	0 4 6	握立柱建物	E8	3.4×3.2, N55° E	2×2間(総柱)	10.8 n
11	38,39	071	握立柱建物	H10	3.0×2.8, N30° E	1×2間	8.1 n
11	39	072	握立柱建物	H10	3.6×3.4、N55° W	2×2間(総柱)	11.8 n
11	40	080	据立柱建物	Н9	2.4×2.4、N25° E	1×1問	5.7 n
11	38	085	据立柱建物	G8	3.2×2.5, N10° E	2×2間(総柱)	7.9 n
12		086	掘立柱建物	Н9	2.7×2.6, N25° E	1×2問	6.4 n
12		091	据立柱建物	G11	3.2×2.7, N48° E	2×2間 (総柱)	7.1 n
12	41	092	握立柱建物	111	3.2×3.2, N46° E	1×2間	9.0 n
12	41	093	握立柱建物	J11	4.0×4.0, N50° E	2×2間 (総柱)	15.2 n
13	42	094	握立柱建物	112	3.2×3.2, N5° E	1×2間	9.0 n
13		095	掘立柱建物	J14	3.2×2.4, N65° E	1×2間	7.2 n
13	42	099	掘立柱建物	J16	3.6×3.4、N58° E	2×2間 (総柱)	13.6 n
13		100	握立柱建物	G10	2.4×2.4、N27° E	2×2間(総柱)	
		101	握立柱建物	F1			
	21	139	握立柱建物	F3		2×2間 (総柱)	5.7 n
14	21	140	握立柱建物	F3	4.6×3.2, N34° E	2×3間	15.8 n
14	19	141	掘立柱建物	F1	2.8×1.2、N65° W	1×2間	5.4 n
	128	147	握立柱建物	G6		1×6問	
	22	1 4 8	据立柱建物	G4		2×2間 (総柱)	10.8 n
	22	149	掘立柱建物	G4		1×2間	
14	129	150	据立柱建物	G6	3.0×2.8、N60° W	2×2間 (総柱)	8.1 n
14	32	151	掘立柱建物	E7	3.4×3.0, N60° W	2×2間 (総柱)	11.8 n
14	33	152	握立柱建物	F7	4.0×3.2, N10° E	2×2間 (総柱)	10.8 n
1978.5	24	153	握立柱建物	F7	- Street House Colonia (STE	2×2間 (総柱)	11.8 n
	34	154	握立柱建物	F7		2×2間 (総柱)	10.8 n
	24	155	握立柱建物	F6	3.6×2.8, N75° E	2×2間 (総柱)	9.7 n
ARTO: U.S	25	156	握立柱建物	E5	000000000000000000000000000000000000000	2×2間 (総柱)	10000
15	25	158	握立柱建物	E5	2.8×2.8, N30° W	2×2間 (総柱)	
15	26	159	握立柱建物	E5	3.8×3.2, N5° E	2×2間 (総柱)	-
15	26	160	握立柱建物	E5	3.0×3.0, N65° E	2×2間 (総柱)	1

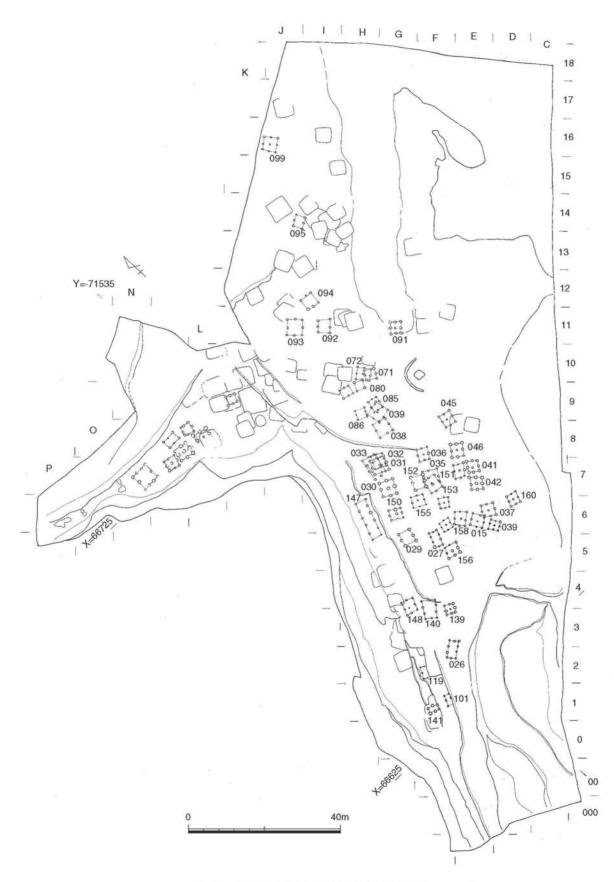


fig.5 掘立柱建物遺構配置図(1/1,000)

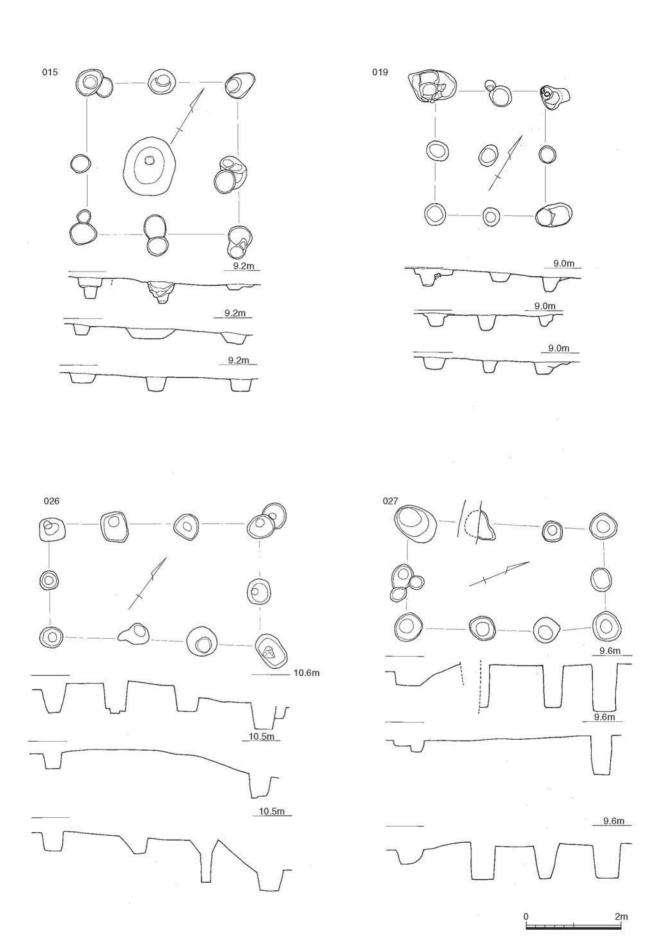


fig.6 掘立柱建物実測図1 (1/80)

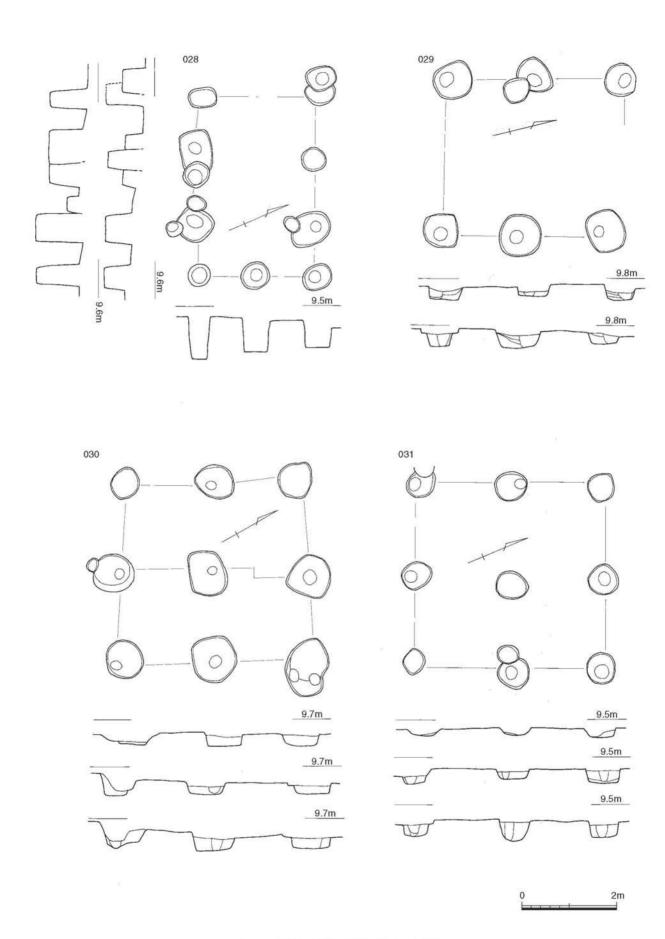
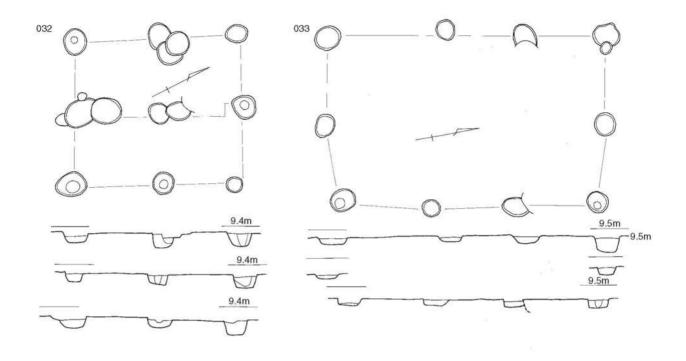


fig.7 掘立柱建物実測図2 (1/80)



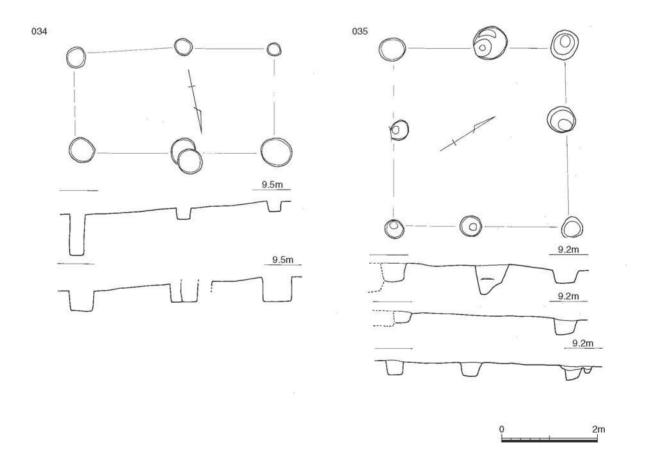


fig.8 掘立柱建物実測図3 (1/80)

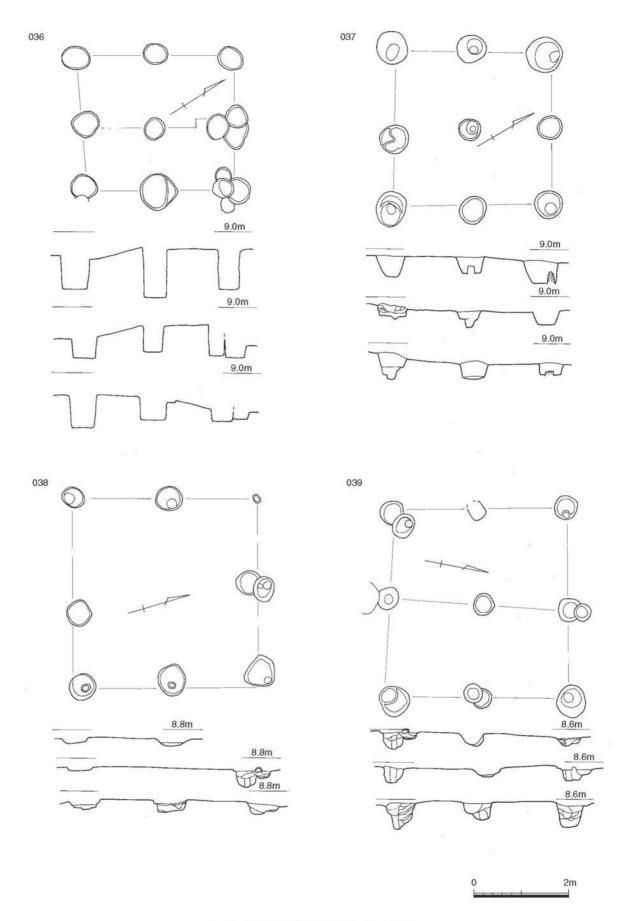


fig.9 掘立柱建物実測図4 (1/80)

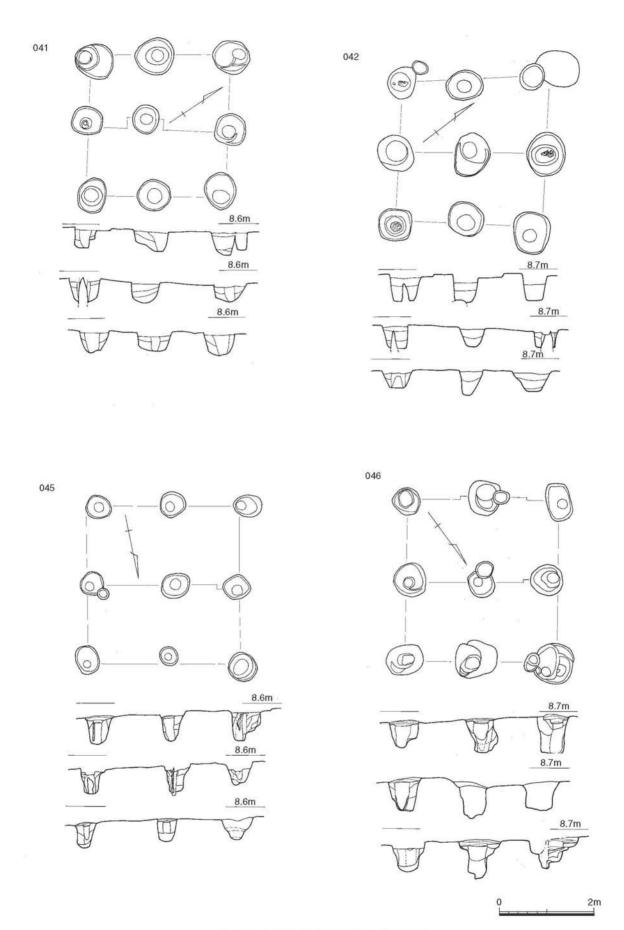
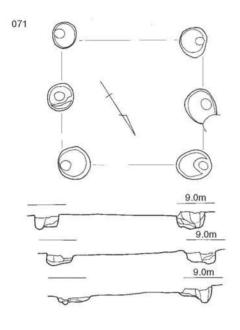
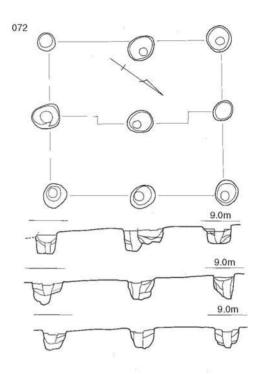
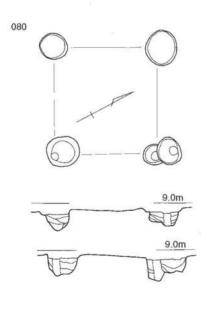


fig.10 掘立柱建物実測図5 (1/80)







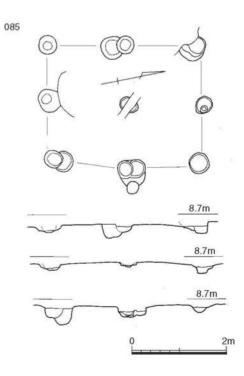
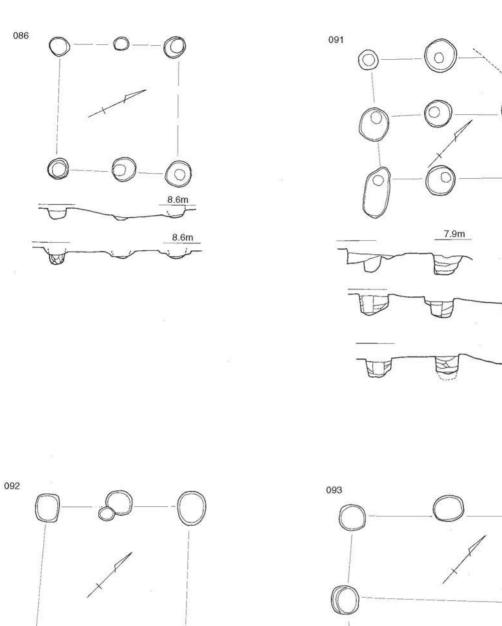


fig.11 掘立柱建物実測図6 (1/80)



7.9m

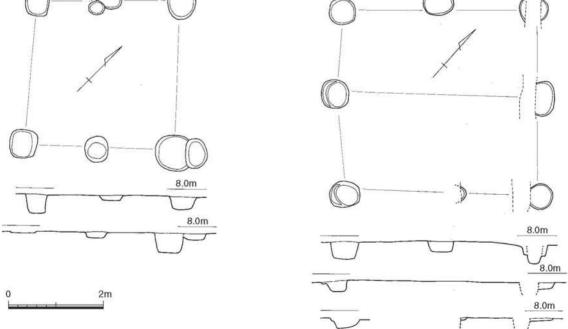
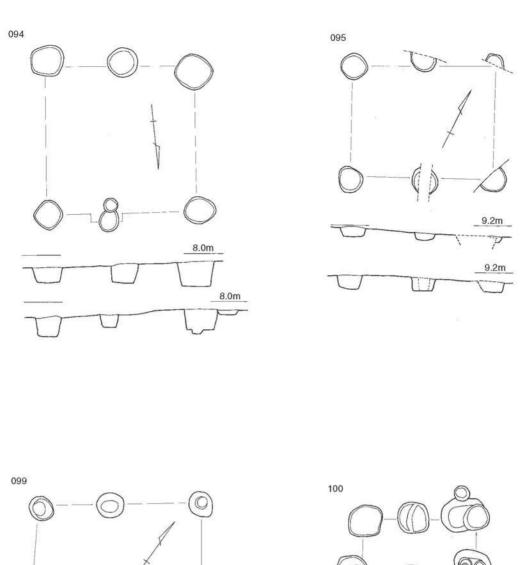


fig.12 掘立柱建物実測図7 (1/80)



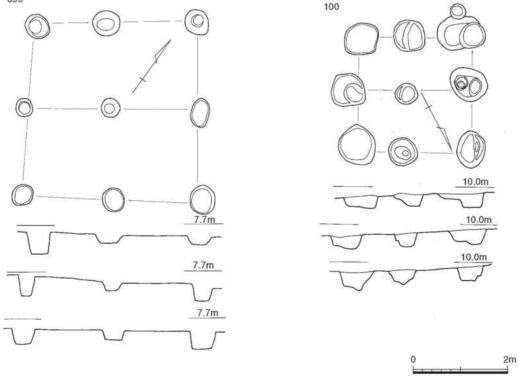


fig.13 掘立柱建物実測図8 (1/80)

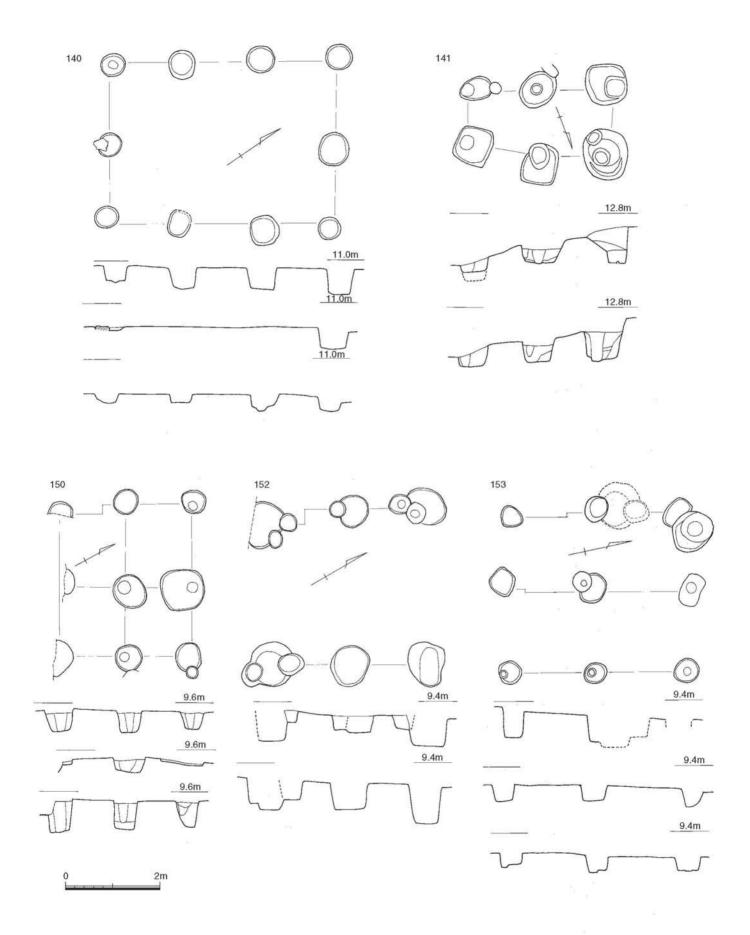


fig.14 掘立柱建物実測図9 (1/80)

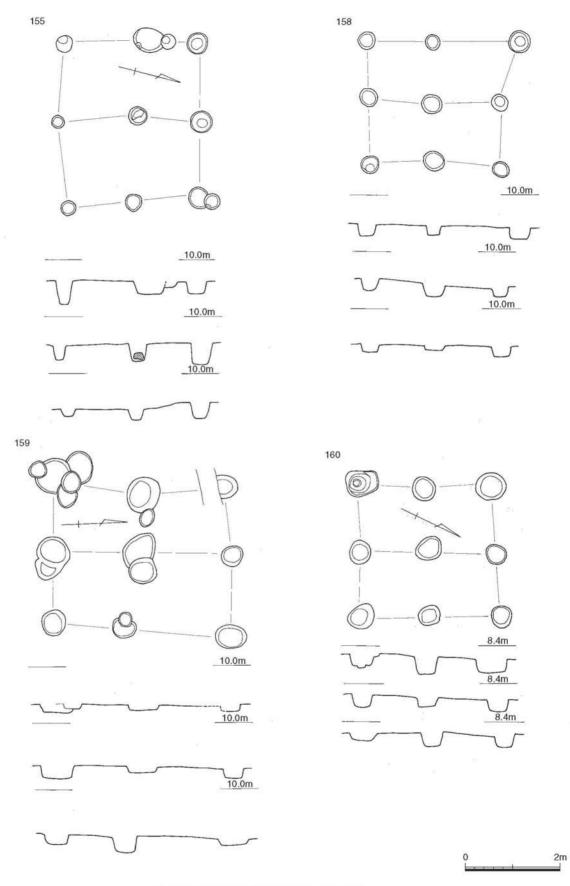


fig.15 掘立柱建物実測図10 (1/80)

SB152 (Fig.14 PL.33) F7区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸)は4.0×3.2mを測る。

SB155 (Fig.15 PL.24) F6区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 3.6×2.8mを測る。

SB158 (Fig.15 PL.25) E5区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 28×2.8mを測る。

SB159 (Fig.15 PL.26) E5区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 3.8×3.2mを測る。

SB160 (Fig.15 PL.26) E5区で検出した。2×2間の総柱建物で、建物規模(長軸×短軸) は 3.0×3.0mを測る。

3. 池状遺構 (SX001)

池状遺構SX001は調査区の南東端で検出した。この位置は南から続く谷部に当たり、この谷は約120 m南側で谷頭となり、比高差は約12~14mを測る。途中、調査区南側の第26次調査で検出された狭小な谷が合流すると考えられる。調査区南側の試掘調査では遺物はほとんど検出されていなかった。

SX001は谷を幅約3m、長さ約14mの土手状遺構により堰きとめたもので、池の西岸では杭列と整地層を確認した。土手状遺構は埋没していたため、上面を掘り過ぎてしまったが、積土は暗灰色粘質土で上面には黄灰色砂礫が覆う。土手の南側(池の内側)は流出部より深くなっている。池の規模は不明確な部分があるが、土手状遺構の高さから池が満水になった時で、奥行き約35m、幅約20m、深さ約50~80cmを測る。土手状遺構の中央部分では木材を埋め込んだ遺構を検出した。これは杭を土手状遺構に直交して打ち込み、それに添うように1mほどの木材を入れ込む。木材は枝を落とした程度のものであるが、大型の槽も転用されている。材の先端は杭で留められ、間には礫も入れられており、材を固定するためのものと考えられる。遺構の幅は約2mを測り、木材の間は水の流れたようで、砂の堆積が見られる。この遺構は土手状遺構の中央にあり、オーバーフローする水の排水施設と考えられる。一方、流出部には杭列、溝などは確認できなかった。オーバーフローした水は調査区東側に沿うように、流れていったと考えられる。

土層観察から池の構築以前の層には5~6世紀の土器が含まれており、北側で確認されている、竪 穴住居跡などの時期とも一致することから、古墳時代にも流路として機能していたと考えられる。た だ、池の北側のトレンチ調査によると、古墳時代の流路は直線的に北東方向に延びているが、池が造 られた後は、やや東側に流れが変わっているようである。

池状遺構には池が機能していた時に堆積した暗青灰色粘質土、暗灰色粘質土が見られる。これらの層からは主に7世紀末~8世紀後半の多数の須恵器、土師器、木簡を初めとした木製品(工具(刀子柄)、農具(鋤、杵)、紡織具(糸巻、紡錘車、機打具)、服飾具(櫛、下駄)、容器(挽物、刳物、曲物桶、蓋板、栓)、食事具(杓子)、遊戯具(琴柱)等)、鉄製品(銅製品(椀、飾り金具等)、(鉄鏃、鉄刀、鞘金具、刀子、釘等)が出土した。その上面には池が埋没した後に堆積した暗褐色粘質土が見られる。この層には9~10世紀代の遺物が含まれる。

SX001から多数の木簡が出土したが、それ以外に流出部(SX002)付近で37点が出土した。それらの大半は土手状遺構の内側と外側付近で出土している。木簡は池の上流でも出土しており、土手付近のものはここで廃棄されたものか、上流から流れ着いたものかは不明である。流出部のものについて

は砂礫層より出土しており、流れて堆積したものが多いと考えられる。木簡以外で注目されるものに 舟形木製品、人形木製品等の祭祀具がある。SX001からはこの他に丸木弓、鉄鏃、鳴鏑等も出土してお り、この場所で何らかの祭祀が行なわれていた可能性が高い。

一方、池の埋土の土壌分析によると、珪藻化石群集は、流水にも止水にも生育する流水不特定性種が優占、次いで真+好流水性種が多産することを特徴とする。これに対して、止水環境に生育する真+好止水性種は少なく、このことは池状遺構の堆積環境は池の機能していたは水深は比較的浅く、流れ込みのあるような環境であったと考えられる。一方、花粉化石群集はイネ科の割合がもっとも高く、その中には栽培種であるイネ属由来の花粉化石も含まれる。また、ソバ属やキュウリ属等の栽培植物に由来する花粉も産出された。ガマ属、オモダカ属、イボクサ属、ミズアオイ属は沼沢地に水生植物群落を形成する種類であることから、珪藻化石群集と調和的であるが、水田雑草としても見られるものである。これらのことからは、SX001は水田耕作に関連した可能性もある。

SX001の時期であるが、出土した木簡に紀年銘資料(大宝元(701)年、延暦四(785)年)があり、これらから存続時期は8世紀を前後する時期から約100年間と考えられ、出土した土器等の時期ともほぼ一致する。池状遺構の性格としては土壌分析の結果を参考にすると、水田耕作に関わる可能性もあるが、導水路や明確な水田遺構は検出されておらず、耕作に伴う溜め池とするには根拠が乏しいようである。一方、SX001はそれ以前にあった谷の流路を堰きとめて造ったものであり、堰きとめたことで流れを東よりに変えたと考えられる。池の北側には古墳時代の竪穴住居跡があった場所を整地して、高床倉庫群が造られており、倉庫設置に関わる地形の改変、流路の付け替えの可能性が考えられる。早計ではあるが、律令の倉庫令にあった、倉庫は高く乾燥したところに置き、周囲に池渠を開くという規定との関連も考えられる。池状遺構の性格については今後の検討課題とするが、ここからは舟形木製品や人形等の祭祀具や道祖神信仰に関連すると考えられる「道寨」銘木簡、墨書土器等、祭祀色の濃い遺物が多数出土している。このことはこの池やその周辺で何らかの祭祀が行なわれたことを示すものと考えられる。祭祀の内容については明確ではないが、池の性格とも関連して注目される。

4. その他の遺構

古代の遺構は掘立柱建物跡、池状遺構以外に、竪穴住居跡、製鉄炉、鍛冶遺構、焼土坑等を検出した。詳細は次刊に行なうが、SC003は一辺約3mの方形プランの竪穴で、床面には4本の柱穴が見られる。周囲には円形に巡る溝状遺構が配置する。竪穴の床面には須恵器杯蓋、土師器鉢、甕等が出土した。遺構の規模や周囲の溝等、一般の住居とは異なるものと考えられる。竪穴住居跡は調査区西側の斜面でも確認されており、概ね8~9世紀に位置づけられるものである。

製鉄に関連するものとしてはSX001の南西岸に当たる $E-00\sim000$ 区で鉄滓の堆積(025)を検出した。これらは鉄滓を主体として、鞴羽口等も含まれるが、2次的に堆積したものと考えられる。共伴する遺物から9世紀代のものと考えられるが、周辺では明確な遺構は検出されなかった。この他、調査区北西隅で3基の製鉄炉を検出した。両側に排滓土坑をもつ箱型炉である。保存が決まり、掘り下げは行なっていないが、 $8\sim9$ 世紀のものと考えられる。また、鍛冶炉と考えられる遺構も確認された。これらは未確定であるが、一連の倉庫群より新しく位置づけられると考える。これまで製鉄遺構は遺跡群の中では7次、12次、18次、24次などで多数検出されているが、この地点でも確認されたことで、 $8\sim9$ 世紀にかけては各所で製鉄関連作業が行われていたことが分かった

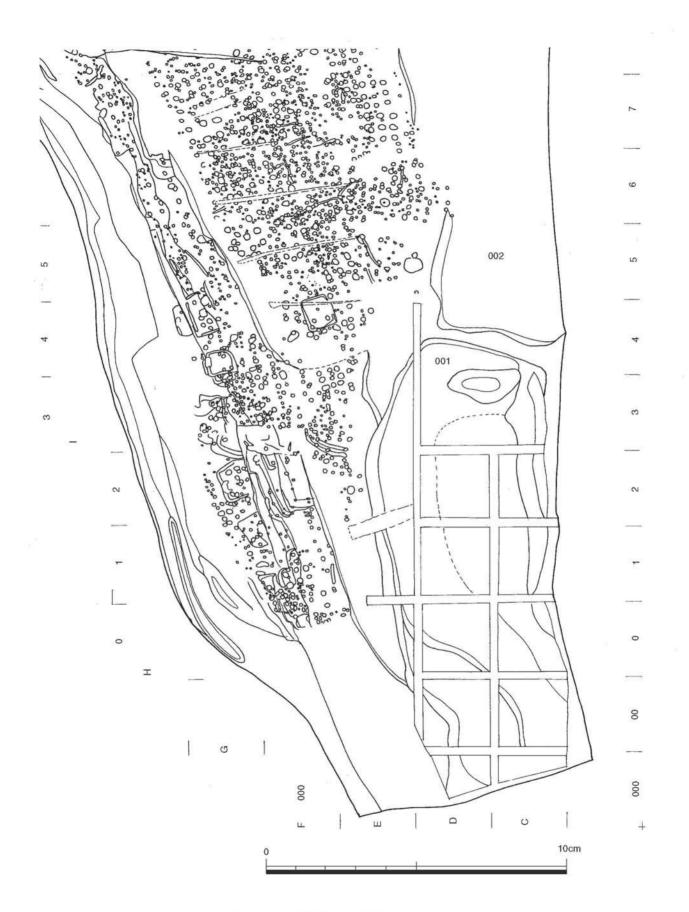
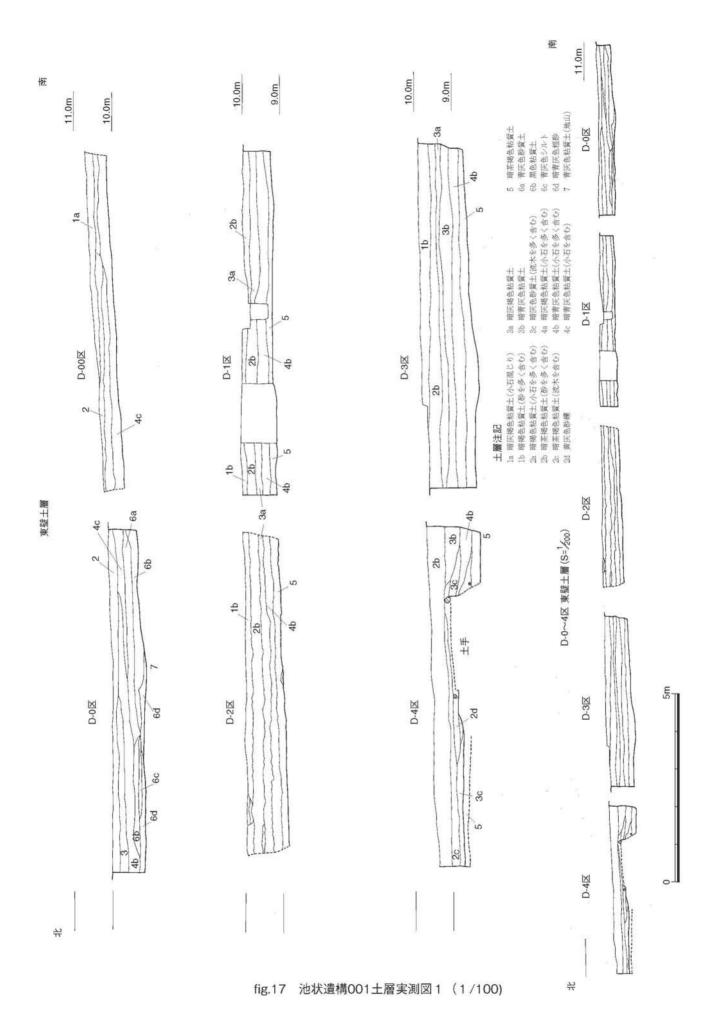


fig.16 池状遺構001遺構配置図(1/500)



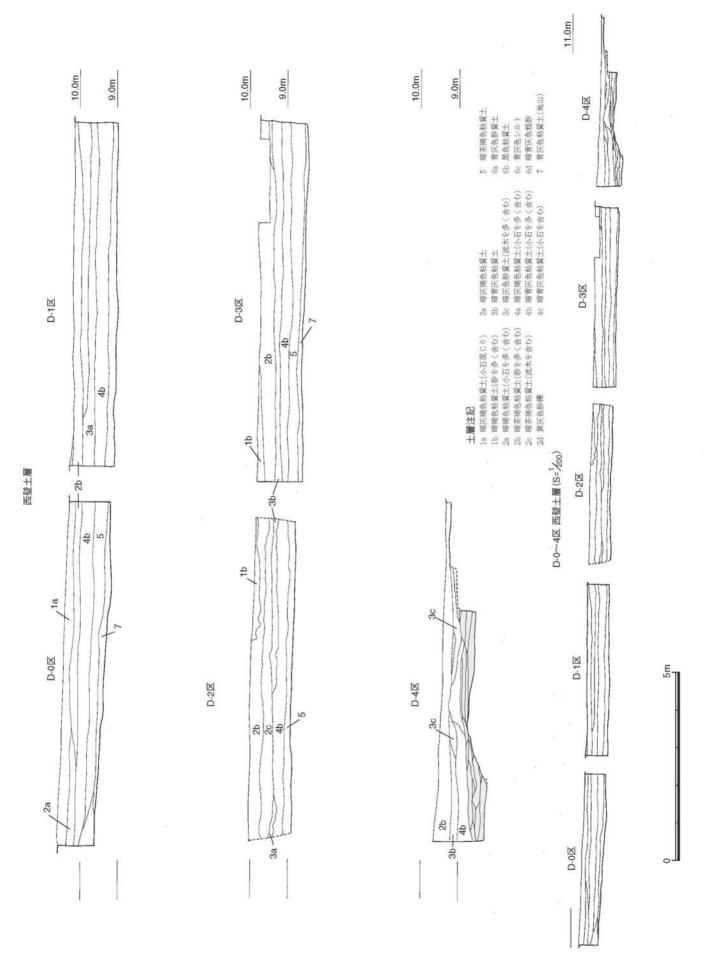


fig.18 池状遺構001土層実測図2 (1/100)



fig.19 池状遺構001木簡出土位置図(1/300)



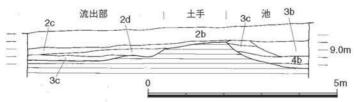
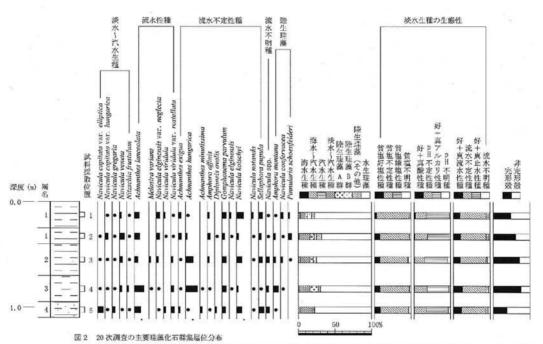
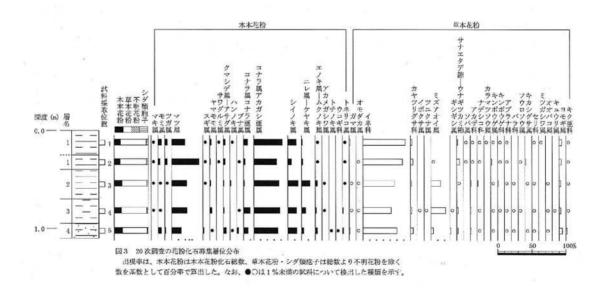


fig.20 池状遺構001土手状遺構実測図 (1/100)



汽水--淡水生種産出率・名種産出率・完形設産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。 いずれも100 個体以上検出された試料について示す。なお、●は2%未満の試料について検出した種類を示す。



主要珪藻化石群集及び花粉化石群集層位分布

5. 出土遺物

遺物は古代の遺構から出土したものを中心に掲載した。 SX001、002出土遺物 (Fig.21~31)

1~25はE-0~3区の西側整地層から出土したもので、SX001が構築される以前の遺物が含まれる。
1、2は須恵器高坏の脚部である。杯部は欠損している。3、4は土師器の丸底坏である。4は内面にミガキを施す。5、6は須恵器坏蓋である。天井部は回転へラ削りを施す。口径13.5cm、13.8cm を測る。7~10は坏蓋で、口縁内面に短いかえりを持つ。8~9は天井部に偏平の宝珠撮みが付く。11は蓋で、口縁内面に短いかえりが付く。天井部には宝珠撮みが付き、その周囲にはカキ目が施される。12は坏身で、口縁内面には短い受け部が付く。口径7.6cm を測る。底部はヘラ削りを施す。13は高坏の坏部である。脚部は欠損する。14は坏で、体部中位で屈曲する。底部は平底である。15は皿で、体部外面に×印のヘラ記号が施される。16は**感**で口頸部は欠損している。胴部中位より上にカキ目が施される。17は脚付壷で、口頸部は欠損している。短い脚部には円形の孔が付く。胴部中位には櫛状工具による列点文が施される。18、19は長頸壷で、口頸部は欠損している。18は平底で、外面にはカキ目が施される。20は壷で、外面には叩きをナデ消す。21は横瓶で、外面にはカキ目が施される。20は壷で、外面には叩きをナデ消す。21は横瓶で、外面にはカキ目が施される。22は横瓶で、口縁は欠損している。外面には平行叩きが施される。23は甕で、口縁、底部は欠損している。外面は横方向のハケ目が施される。24、25は甕である。24の外面上半はカキ目、下半は斜め方向のハケ目が施される。25は外面平行叩き後、カキ目を施す。

26~65はC-00~6区で出土した。26、27はC-00区で出土したもので、26は土肺器で、外面には 擬格子目叩きが施される。口縁端部には刻み目が施される。27は須恵器甕で口縁外面に断面三角形の 突帯が付く。28はC-1区で出土した須恵器坏身である。底部には低い高台が付く。29はC-2区で 出土した須恵器坏身である。底部に高台が付く。体部は直線的に立ち上がり、深めの器形である。30 ~42はC-3区で出土した。30は須恵器坏蓋で、天井部に偏平の撮みが付く。口縁の受け部は短い。 31は須恵器坏身である。底部には高台が付き、体部は直線的に立ち上がる。32は土師器碗で、底部に は高台が付く。33は小型の須恵器高坏で、坏部、脚裾部は欠損する。34は須恵器甕で、外面には擬格 子目叩きが施される。35は須恵器坏蓋で、天井部には偏平の撮みが付く。口縁の受け部は長い。36は 須恵器坏蓋で、天井部には偏平の撮みが付く。口縁の受け部は短い。37は須恵器甕で、口縁外面には 断面三角形の突帯が付く。外面には平行叩き後、カキ目を施す。38は須恵器坏蓋で、天井部は欠損し ている。口縁の受け部は長い。39、40は須恵器坏身で、底部には高台が付く。40は底部にヘラ記号が 見られる。41は須恵器高坏で、脚部、坏部は欠損している。坏部の内面にはヘラ記号が見られる。42 は土師器甑の棒状の掛け部で、底部を二分する。43~53はС-4区で出土した。43、44は須恵器蓋で、 口縁内面に短い受け部が付く。口径7.3cm、7.2cm を測る。45は坏蓋で、口縁、天井部は欠損している。 内面にヘラ記号が見られる。46~48は須恵器坏蓋である。46は内面に短いかえりが付く。47、48は口 縁に短い受け部が付く。48は天井部に偏平の撮みが付く。49~51は須恵器坏身で、底部に高台が付く。 51は底面に板状圧痕が付く。52、53は土師器の手づくね土器である。52は平底の鉢、53は丸底の壷で ある。54~59はС-5区で出土した。54は土師器碗で、内面には横方向のミガキが施される。55は須 恵器壷で、外面には平行叩きが施される。56、57は須恵器坏身で、底部に低い高台が付く。体部は直 線的に立ち上がる。58は須恵器蓋で、口縁外面に凹線が巡る。天井部は回転ヘラ削りを施す。口径 15.2cm を測る。59は須恵器の鳥形製品で、平瓶の把手の飾りと考えられる。短いくちばしに頭部には とさか状の突起が見られる。ヘラ状工具により羽毛の表現もなされている。60、61は須恵器坏蓋で、

天井部にはやや偏平の宝珠撮みが付く。60はC-6区、61はC-7区から出土した。62はC-6区で出土した須恵器皿である。63、64はC-5区で出土した土師器高坏で、脚部は欠損する。65はC-6区で出土した弥生土器器台で、外面には叩き目が施される。受け部の一方に突起が付く。

66~136はD-00~7区から出土した。66~69はD-00区から出土した。66は土師器高坏で、脚部 は欠損している。67は黒色土器A類の碗で、底部に高い高台が付く。口縁は欠損している。内面には ミガキが残る。68は黒色土器A類の碗で、底部に高い高台が付く。体部は中位で屈曲し、あまり深く ない。69は土師器甕で、外面はナデを施す。70~74、79はD-0区で出土した。70、71は黒色土器A 類の碗で、底部に低い高台が付く。72は土師器坏で、底部に高い高台が付く。73は須恵器杯身で、底 部に低い高台が付く。74は小型の須恵器高坏で、坏部は欠損している。79は須恵器壷である。口縁と 体部が欠損している。外面はナデが施される。75~78、91はD-1区で出土した。75、76は須恵器の 平底の坏で、体部は直線的に立ち上がる。77は須恵器皿である。78は土師器の甑で、底部は欠損にし ている。外面にはハケ目が施される。91は土師器甑の底部である。80~82はD-2区で出土した。80 は須恵器皿で、底部には板状圧痕が見られる。81は須恵器坏身で、底部に高台が付く。体部は直線的 に立ち上がる。82は土師器甕で、くの字形の口縁で、底部は丸底である。外面はハケ目を施す。83~ 90、92~100はD-3区で出土した。83は土師器皿で、底部には高台が付く。内外面に横方向のミガキ が施される。84は須恵器杯蓋で、偏平の宝珠撮みが付く。受け部はわずかに段がつく。85、86は須恵 器杯身で、底部に低い高台が付く。体部は直線的に立ち上がる。85は底面に格子状の痕跡が見られる。 87は蓋で、天井部にカキ目と、羽状の列点文が施される。88は須恵器蓋で、受け部は垂直に長く伸び る。89は須恵器坏蓋で、口縁内面には短いかえりが付く。天井部には宝珠撮みがつく。90は須恵器坏 身で、底部に低い高台が付く。体部は直線的に立ち上がる。92~95は須恵器杯蓋である。天井部には 偏平な撮みが付く。92は口縁内面に短いかえりが付く。93~95は口縁内面に短い受け部が付く。96は 須恵器坏身で、底部に高台が付く。97は須恵器坏蓋で、天井部にヘラ記号がある。98は須恵器甕の口 縁で、外面は叩き後、カキ目を施す。99は土師器高坏で、坏部は浅く、脚部は直線的で、裾で強く屈 曲する。100は土師器丸底壷で、口縁は欠損している。101~126はD-4区で出土した。101は壷で、 口縁は短く立ち上がり、外面に凹線を施す。頸部の付け根には若干の段が付く。新羅土器の可能性が ある。102は須恵器坏蓋で、口縁内面には短い受け部が付く。103、104は須恵器坏身で、底部には低い 高台が付く。体部は直線的に立ち上がる。105は土師器甕の口縁で、口縁内側には煤が付着する。106 は須恵器蓋で、天井部にはヘラ記号がある。107、108は須恵器坏身で、底部には高台が付く。109は土 師器坏で、底部には高台が付く。内外面とも横方向のヘラミガキが施される。110は須恵器坏蓋で、天 井部には偏平な撮みが付く。口縁内面には短い受け部が付く。111は須恵器坏身で、底部には高台が 付く。体部は直線的に立ち上がる。112は須恵器鉢で、底部は欠損している。体部は直線的に立ち上 がる。113~116は須恵器坏蓋で、114~116は天井部に撮みが付く。117は須恵器坏身で、底部の外寄り に低い高台が付く。118~120は須恵器坏蓋で、天井部は回転ヘラケズリを施す。121、122は坏身で、 内側に短く立ち上がるかえりが付く。123は須恵器壷の口縁で、口縁外面に波状文を施す。124は須恵 器の大型の坏である。体部は内湾気味に立ち上がる。125、126は須恵器坏蓋で、口縁内側に短いかえ りが付く。126は天井部にヘラ記号がある。127~131はD-5区で出土した。127は灰釉陶器の皿で、 底部に低い高台が付く。体部は直線的に開く。128~130は須恵器坏身で、底部には高台が付く。131 は鉄鉢形の鉢で、底部は欠損している。口縁は内側に曲がる。132~135はD-6区で出土した。132、 133は須恵器坏蓋で、天井部に偏平な撮みが付く。口縁に短い受け部が付く。134、135は須恵器杯身で、 底部に低い高台が付く。体部は直線的に立ち上がる。136はD-7区出土した。須恵器坏身で、口縁

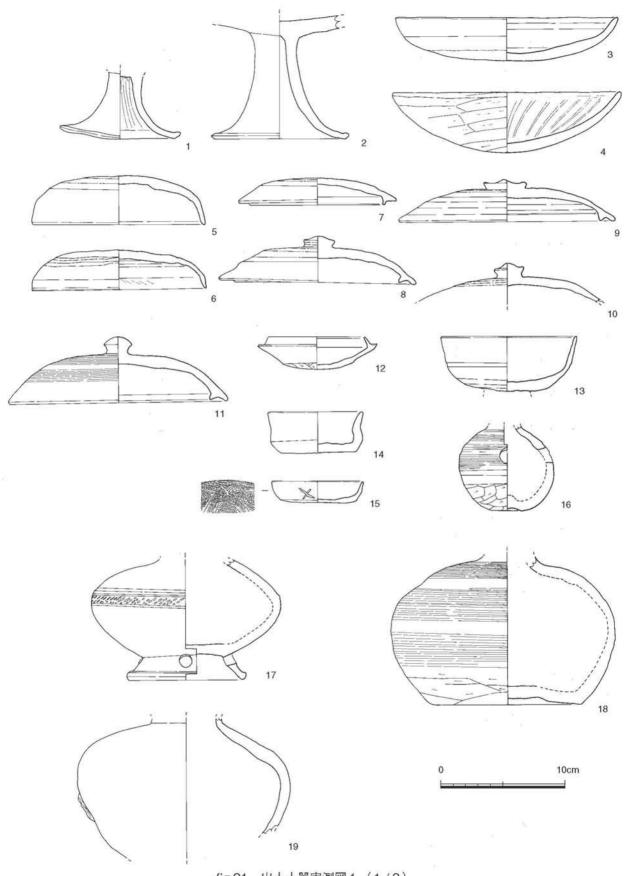


fig.21 出土土器実測図1 (1/3)

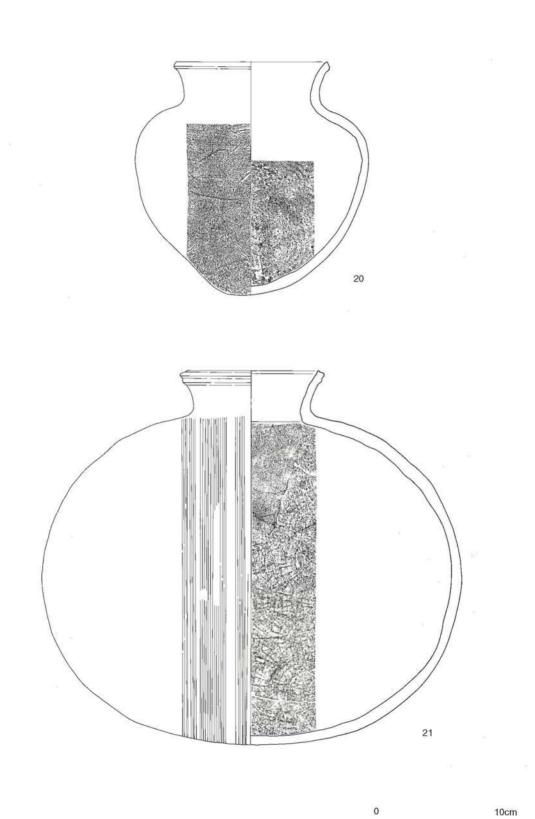


fig.22 出土土器実測図2 (1/3)

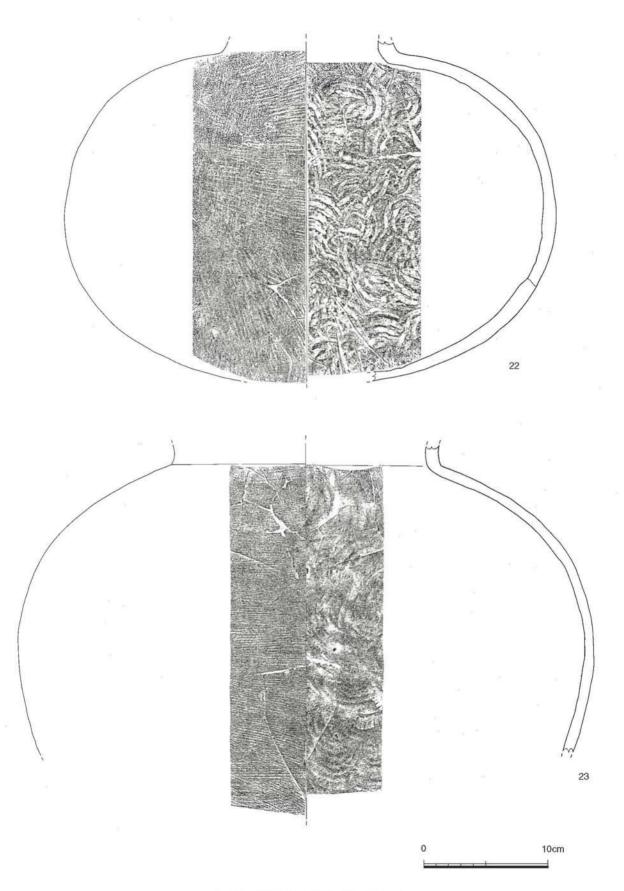


fig.23 出土土器実測図3 (1/3)

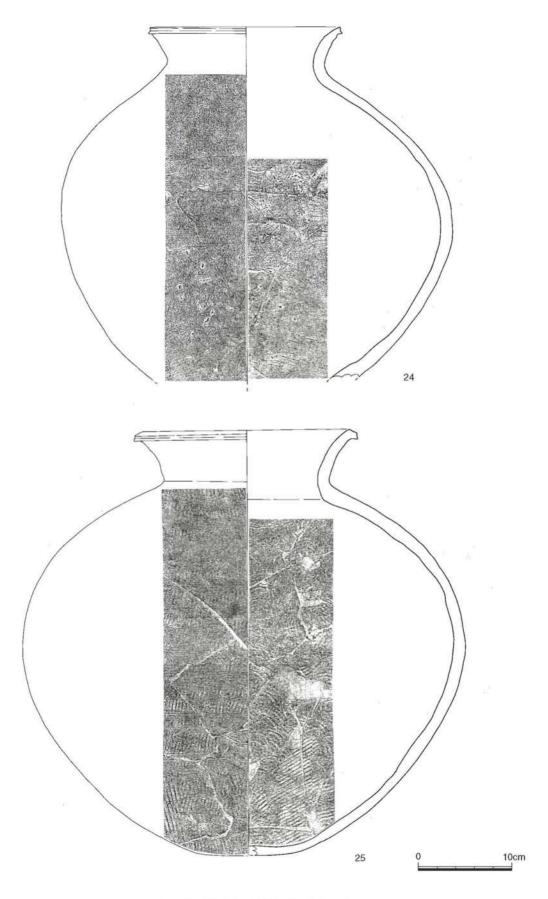


fig.24 出土土器実測図4 (1/3)

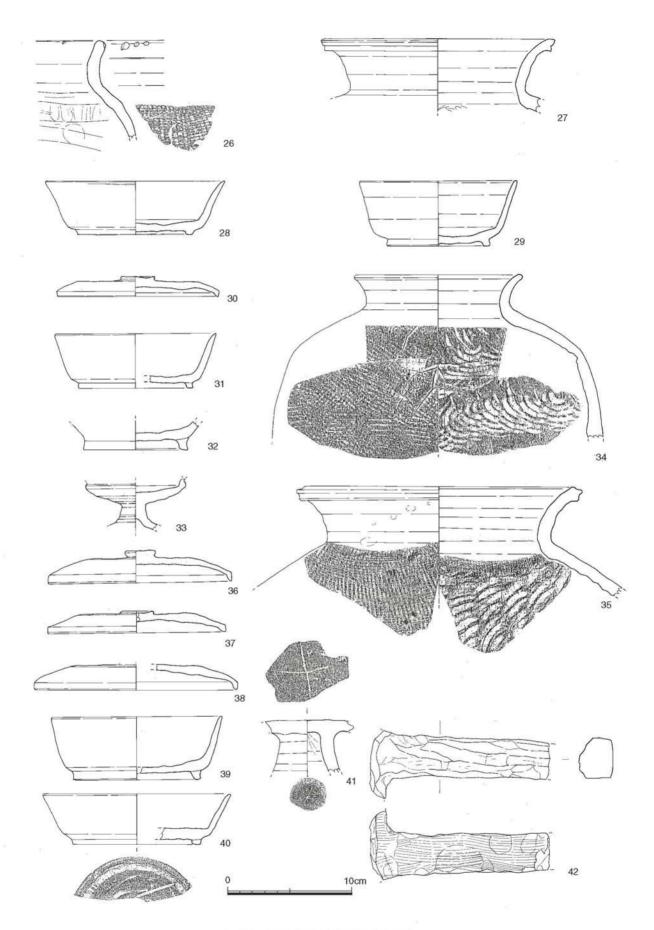


fig.25 出土土器実測図5 (1/3)

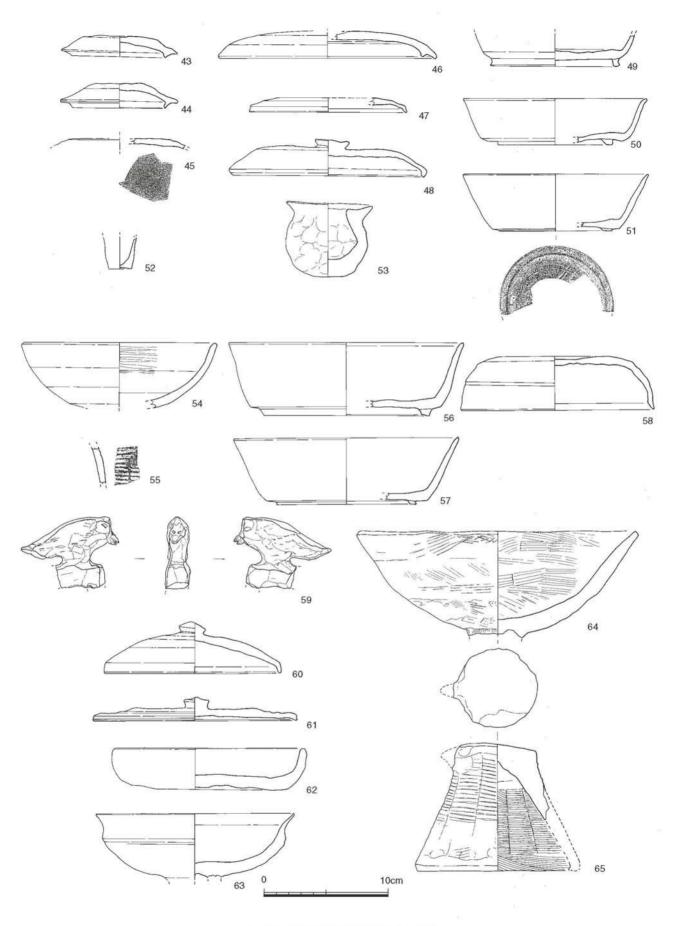


fig.26 出土土器実測図6 (1/3)

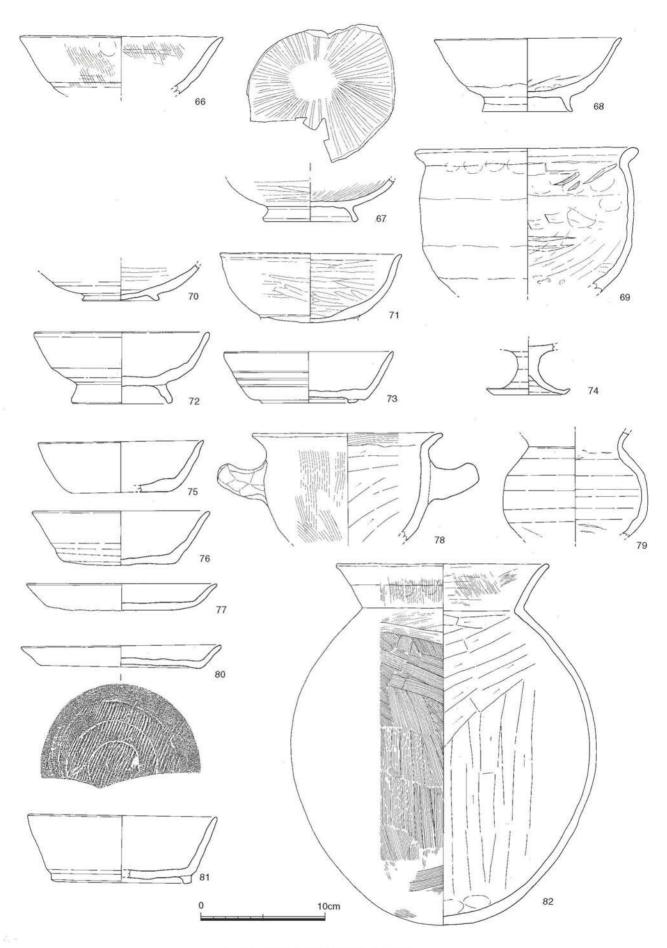


fig.27 出土土器実測図7 (1/3)

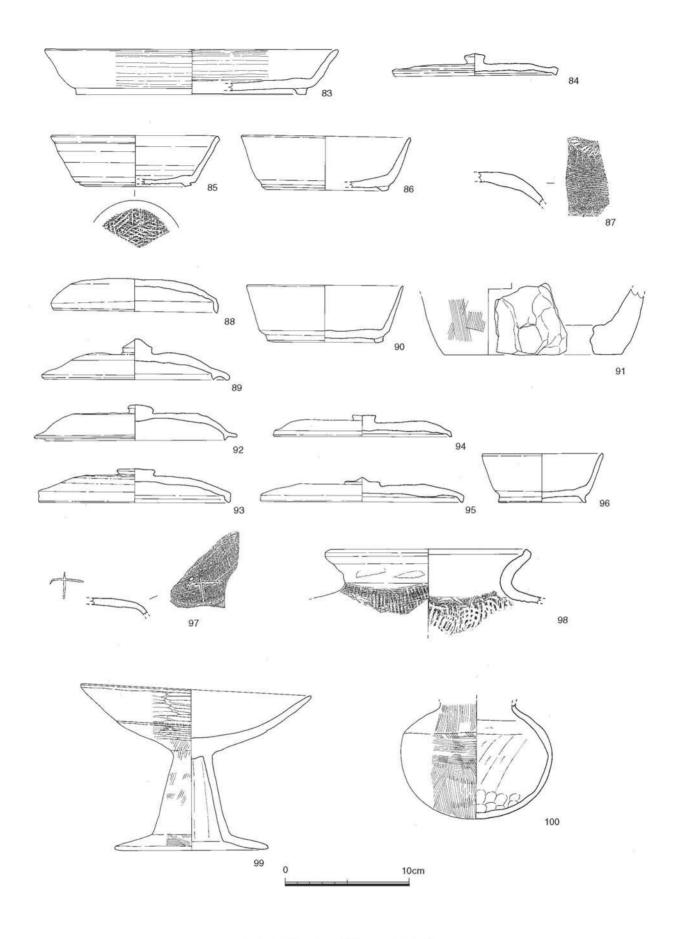


fig.28 出土土器実測図8 (1/3)

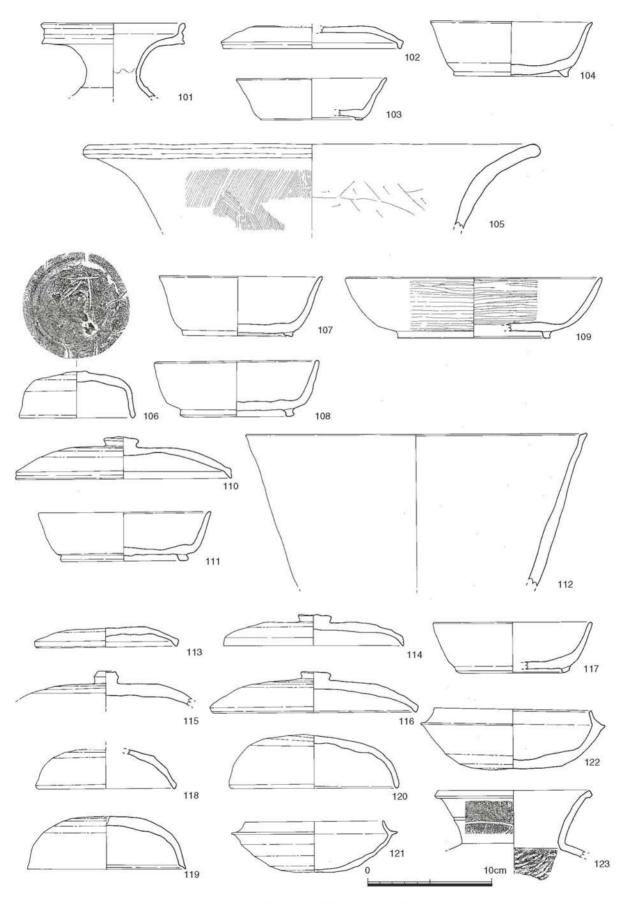


fig.29 出土土器実測図9 (1/3)

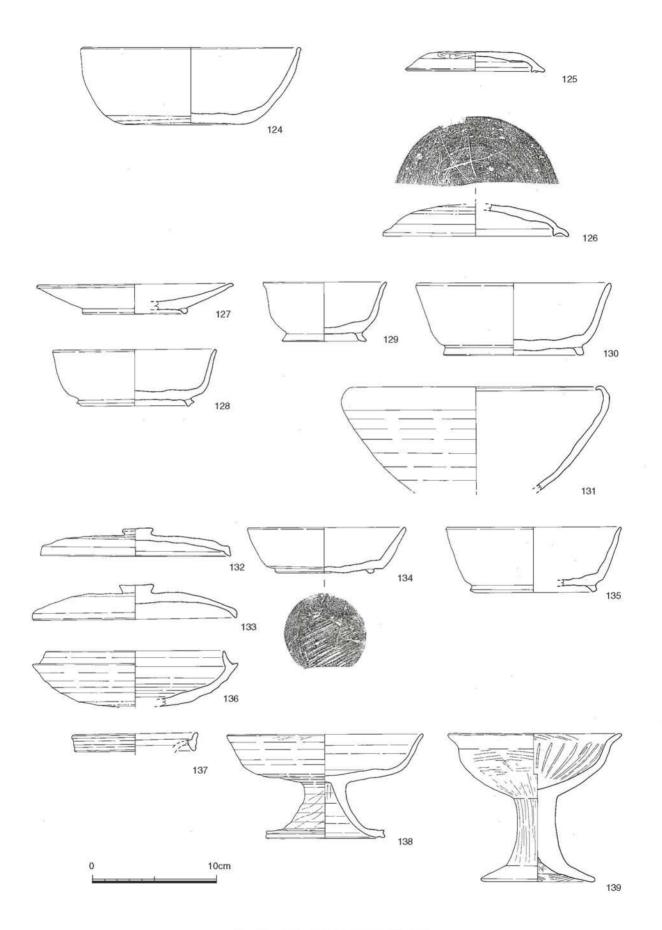


fig.30 出土土器実測図10 (1/3)

内側に短いかえりが付く。

137~158はE-0~8区で出土した。137はE-6区で出土した。須恵質の壷口縁で、上下に拡張した口縁外面には凹線が巡る。138はE-7区で出土した須恵器高坏である。139はE-8区で出土した土師器高坏で、棒状の脚部で、裾で屈曲する。坏部はヘラミガキが施される。140~142はE-0区で検出した。140は越州窯系青磁の皿で、底部は欠損している。141は灰釉陶器の碗の底部である。底部に高台が付く。142は黒色土器A類の碗である。口縁は欠損している。143~146はE-1区で出土した。143、144は須恵器坏蓋で、口縁内側にわずかに段が付く。144は天井部に偏平な撮みが付く。146は須恵器坏蓋で、天井部はヘラ切り未調整で、ヘラ記号がある。147~152はE-2区で出土した。147~149は須恵器坏身で、底部に高台が付く。150は土師器坏蓋で、内外面に横方向のヘラミガキを施す。151は土師器坏で、内面には丁寧なヘラミガキを施す。152は土師器甕で、丸底で口縁はくの字に屈曲する。外面には擬格子目の叩きが施される。153~158はE-3区で出土した。153~156は須恵器坏身で、底部には高台が付く。154はハの字形の高い高台がつく。156は底部にヘラ記号が施される。底部にはハの字形の高台が付く。

SC004出土遺物 (Fig.32)

1. 2は須恵器坏蓋で、天井部に撮みが付く。口縁内側はわずかに段が付く。3は土師器鉢である。 器壁は厚く、丸底の浅いもので、口縁は若干屈曲する。内面はヘラケズリを施す。4は土師器甕で底 部は欠損している。口縁はくの字形に屈曲する。内面はヘラケズリを施す。

SX025出土遺物 (Fig.33)

1は須恵器皿である。2は越州窯系青磁碗で、底部に高台が付く。高台畳付けには目跡が残る。3は須恵器壷で、底部は若干上げ底となる。4は須恵器坏蓋で、天井部には偏平な撮みが付く。5~7は須恵器坏蓋で、底部には低い高台が付く。体部は直線的に立ち上がる。8は須恵器皿で、底部は欠損している。9は須恵器短頸壷で、底部は欠損している。10は須恵器壷で、体部は欠損している。 墨書土器、刻書土器他(Fig.34~39)

今回の調査では80点あまりの墨書土器が出土した。これらの多くはSX001、002の埋土より出土した ものである。ここでは判読できたものを中心に、主な資料を紹介する。

1~3は「案主」銘の墨書土器である。いずれも須恵器坏身の底部に墨書される。2、3は「主」の一部が欠けている。案主は寺院や公私諸機関で文書・記録をつかさどる下級役人を指し、平安・鎌倉時代には衛府、検非違使、国郡、院司、家司、荘園などに置かれたとされる。4~9は「乙猪」銘の墨書土器である。4、5は須恵器坏蓋の天井部、6は須恵器皿の底部、7~9は坏身の底部に墨書される。4、7は「猪」の一部が、5は「乙」の一部が欠損する。人名とも考えられるが、複数出土していることに注意される。10は須恵器坏蓋の天井部に2字墨書があり、双方欠損しているが、「鳥もしくは嶋足」と判読される。字の配置は後者の方が整っているようである。11は須恵器坏蓋の天井部に2字墨書があり、1字目は欠損で判読が難しい。2字目は「万」と判読される。12は須恵器皿の底部に2字墨書が残る。1字目は欠損で判読が難しい。2字目は「万」と判読される。13は須恵器本蓋の内側に2字墨書が残る。一部欠損しているが、「鞍手」と判読される。地名とも人名とも考えられるが、確定することはできない。今回出土した墨書土器では内面に墨書のある数少ない資料である。14は須恵器坏妻の底部に墨書があるが、欠損しており判読が難しい。「嶋」の一部とも考えられる。15は須恵器坏身の底部に墨書があるが、欠損しており判読が難しい。「嶋」の一部とも考えられる。15は須恵器坏身の底部に墨書されたもので、「常石田」と判読される。この銘のものはもう1点出土している。地名を意味するものか。16~18は「刀山」もしくは「刀山下」と墨書されたものである。

16は須恵器坏蓋の天井部に墨書があり、「刀山」の下にもう1字あるが、判読できない。17は「刀山 下」の下にもう1字あるが、判読できない。18は須恵器坏蓋の天井部に「刀山下」と墨書される。調 査区西側の山の名称が「戸山」であり、それらと関連が注目される。19は須恵器坏蓋の天井部に「長 山」と墨書される。20は須恵器坏身の底部に2字墨書があり、1字目は「山」と判読される。2字目 は欠損のため、判読が難しい。21は須恵器皿の底部に2字墨書があり、2字目は「山」と判読される。 1字目は判読が難しい。22は須恵器坏身の底部に1字墨書があり、「山」か。23は須恵器坏身の底部に 2字墨書があり、1字目は「田」と判読される。2字目は欠損で判読が難しい。24は須恵器坏身の底 部に2字墨書があり、「道作」と判読される。25、26は須恵器坏身の底部に1字墨書があり、欠損して いるが、「道」と考えられる。27は須恵器坏身の底部に1字墨書があるが、欠損しており、しんにゅう のようにも見えるが、判読できない。28は須恵器坏身の底部に1字墨書があり、「関」か。29は須恵器 坏身の底部に墨書されたもので、墨書した文字の回りを丸く囲っていると考えられる。墨書は「加水 作」もしくは「架作」と考えられる。30、31は須恵器坏蓋に墨書されたもので、「字」と判読される。 32、33は須恵器蓋と皿で、それぞれ天井部と底部に「善」と墨書される。34は須恵器坏身の底部に墨 書があり、「善」か。35は須恵器坏蓋の天井部に2字墨書があり、欠損して判読が難しいが、「作善」 とも読める。作善は仏教用語で、「善根をなすこと。仏像・堂塔の造営、写経・僧への施しなど。」(広 辞苑)を意味する。今回の調査では経文が書かれた木簡も出土しており、それらとの関連も注目され る。36、37は須恵器坏身の底部に墨書されたもので、「依」と判読される。37は文字の上半が欠損して いる。38は須恵器坏蓋の天井部に2字墨書があり、1字目は「福」と判読される。2字目は欠損のた め、判読できない。39は須恵器皿の底部に四字墨書があり、「日日日日」か。40は須恵器皿の底部に、 「の」と墨書される。ひらがなとするか記号とも考えられる。41は須恵器坏身の底部に墨書されたも ので、墨はよく残るが、判読が難しい。42は須恵器坏蓋の天井部に1字墨書があり、「守」と判読され る。43は須恵器坏身の底部に1字墨書があり、「桑」か。44は須恵器坏身の底部に2字墨書があり、「大 口」か。45は須恵器坏身の底部に1字墨書があり、「夫」もしくは「夷」か。46は須恵器坏身の底部に 1字墨書があり、「秦」か。47は須恵器坏身の底部に1字墨書があり、下半が欠損しているため、判読 は難しいが、「少」か。48~59は須恵器蓋の天井部もしくは坏身の底部に墨書が見られるが、欠損等の ため、判読は困難であるものである。52の文字は小さいが、「古」の1字が判読できる。60~64は文字 風の墨痕があるものである。文字でない可能性もある。65~72は部分的に墨痕が見られるものである。 73~79は刻書土器である。74以外は焼成前のものであるが、文字として判読できるものは少ない。74 は須恵器坏身の底部に「廿」の刻書が、76は土師器坏の体部外面に「申」の刻書が見られる。78は 「大」にも見えるが、ヘラ記号の可能性もある。79は土師器の坏底部につぼみ風の線刻が見られる。 内面には墨痕が見られる。

硯 (Fig.40~42)

1はSX002から出土した中空円面硯の把手である。硯の海部、陸部は欠損している。把手は中空で、上側が開口する。長さ約5cm を測る。中空円面硯は本遺跡群では第7次、第31次調査地点で出土している。2はSD044の上層の7世紀後半~8世紀にかけての層から出土した獣脚硯である。脚部は欠損しているが、脚部の剥落部分の位置から四脚と推測される。外縁径16.8cm、陸部径10.8cmを測る。3~37は転用硯である。主にSX001、SX002から出土した。須恵器坏蓋もしくは坏身を利用したものである。蓋の内面を利用したものは全面に墨が付着するものと中央に集中するものとが見られる。3は口縁の内側に短いかえりが付くもので、このタイプの蓋を利用した転用硯はほとんど無い。

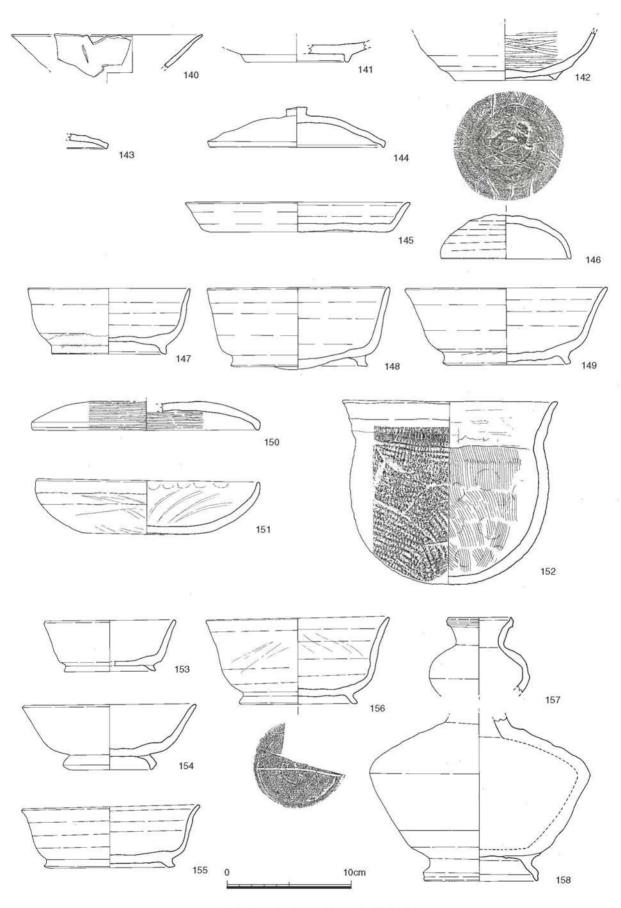


fig.31 出土土器実測図11 (1/3)

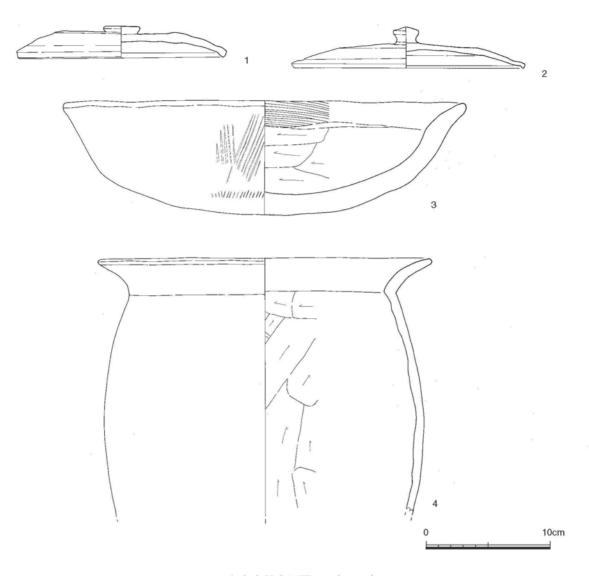


fig.32 出土土器実測図12(1/3)

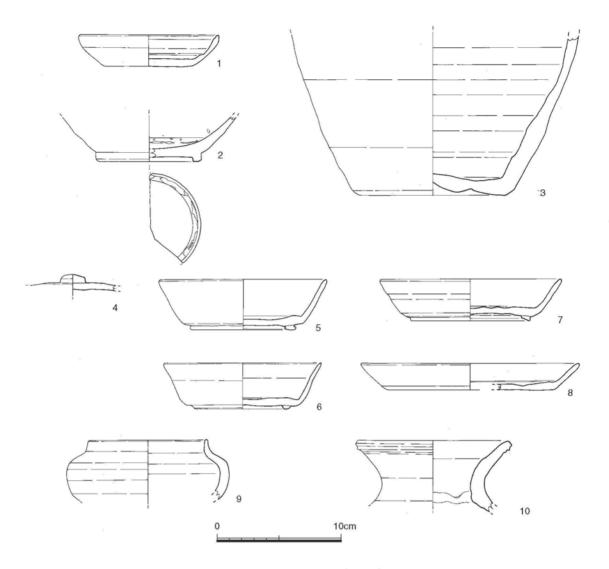


fig.33 出土土器実測図13 (1/3)

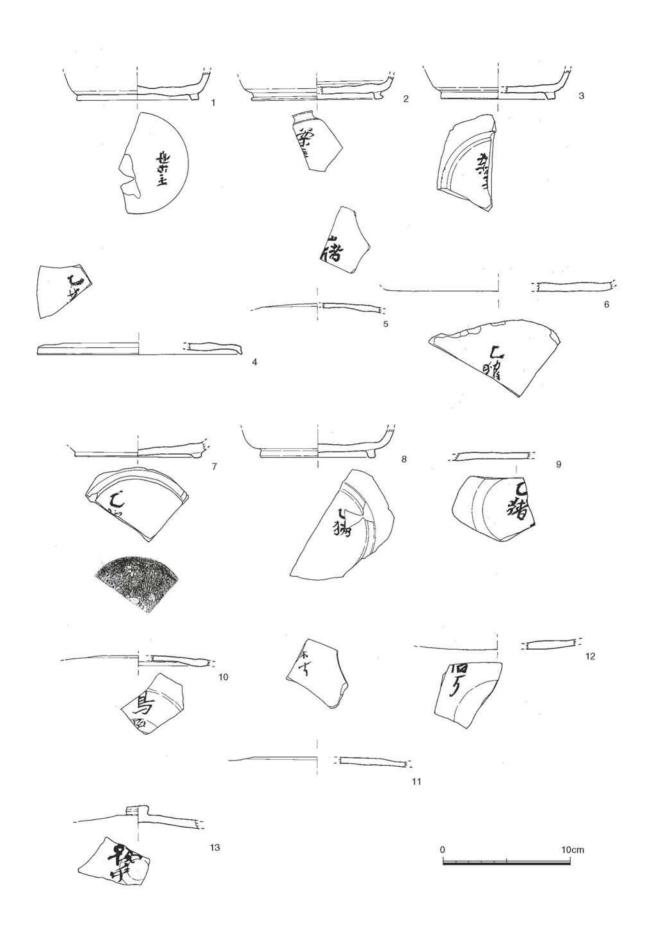


fig.34 出土墨書土器実測図1 (1/3)

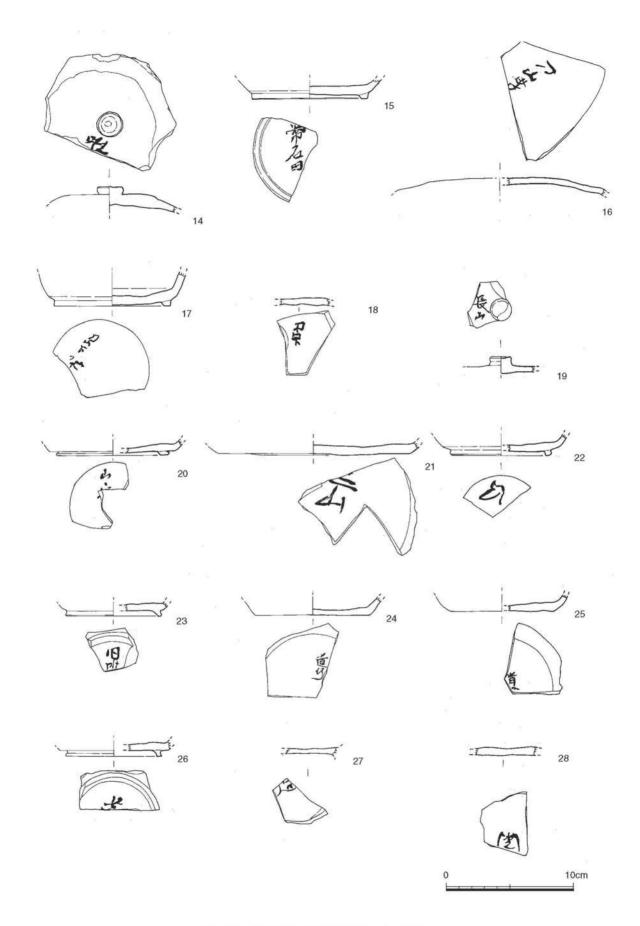


fig.35 出土墨書土器実測図2 (1/3)

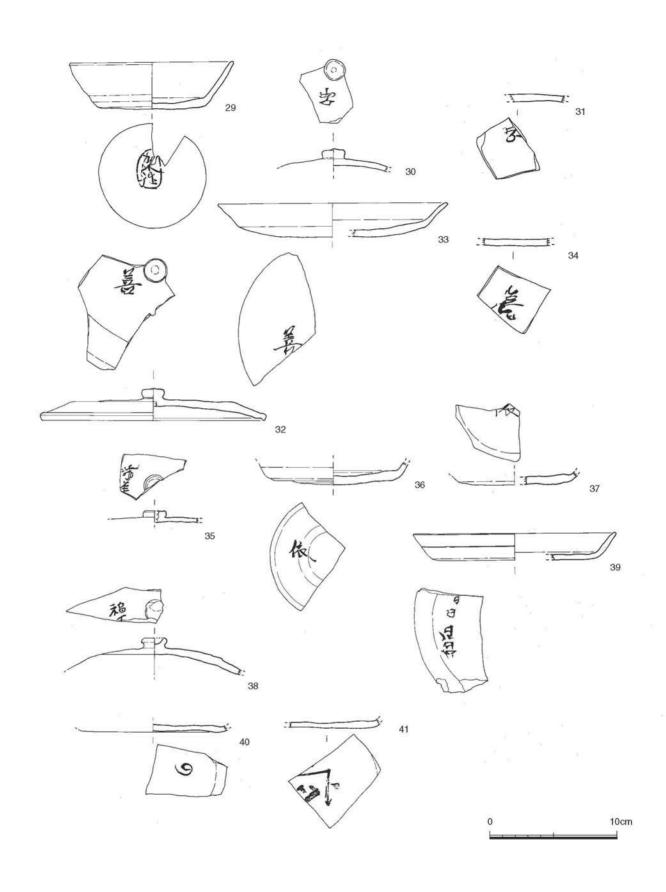


fig.36 出土墨書土器実測図3 (1/3)

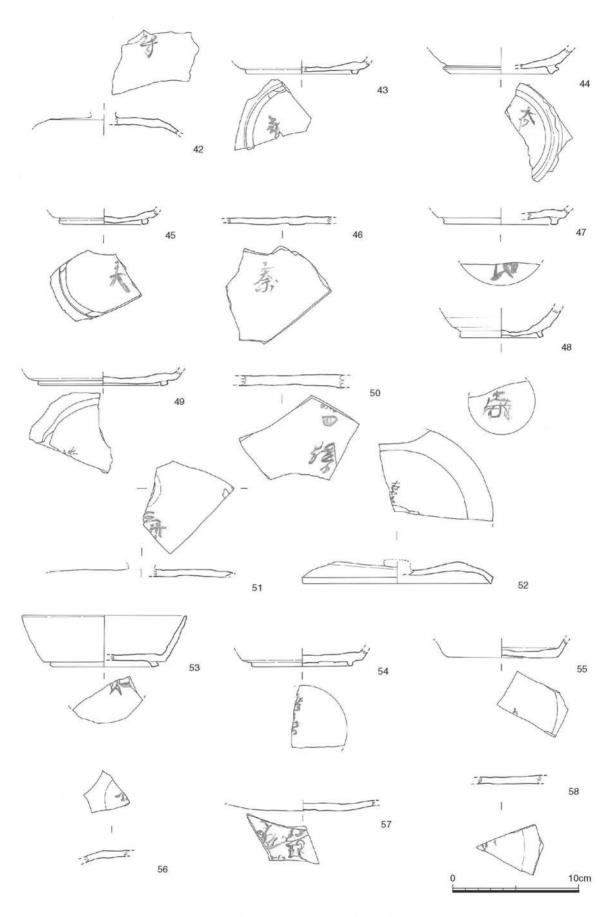


fig.37 出土墨書土器実測図4 (1/3)

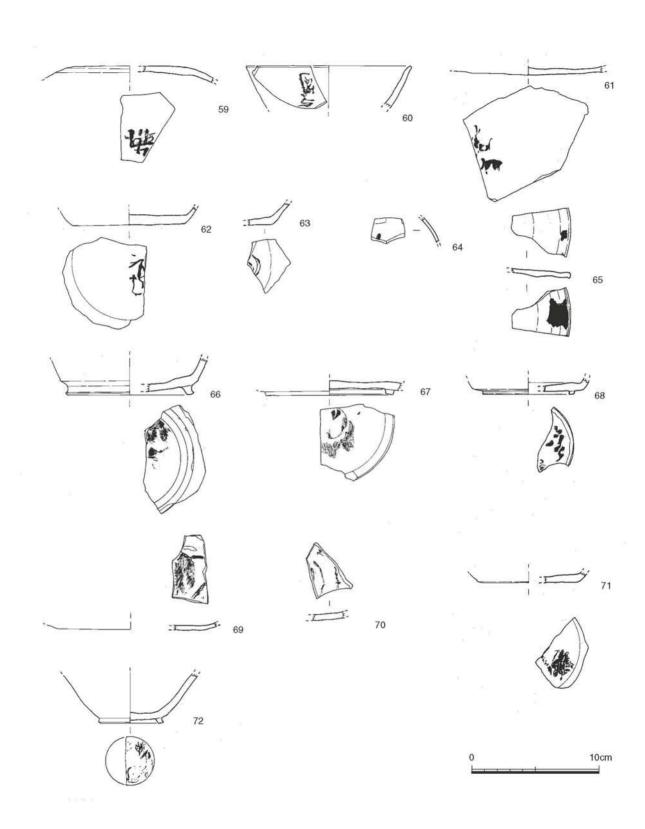


fig.38 出土墨書土器実測図5 (1/3)

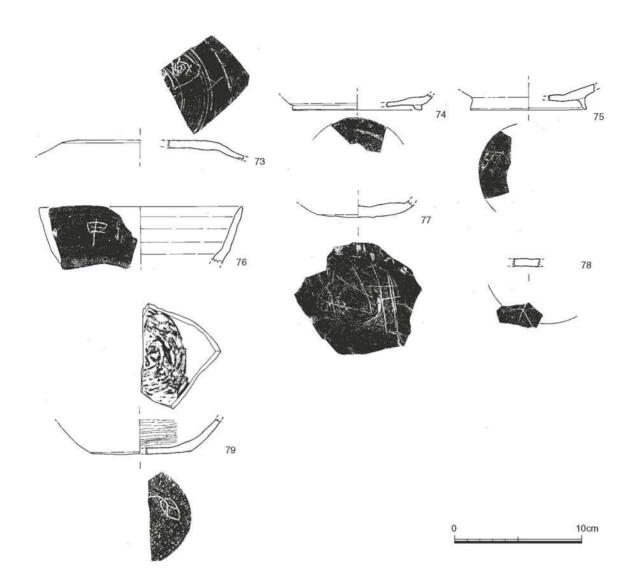
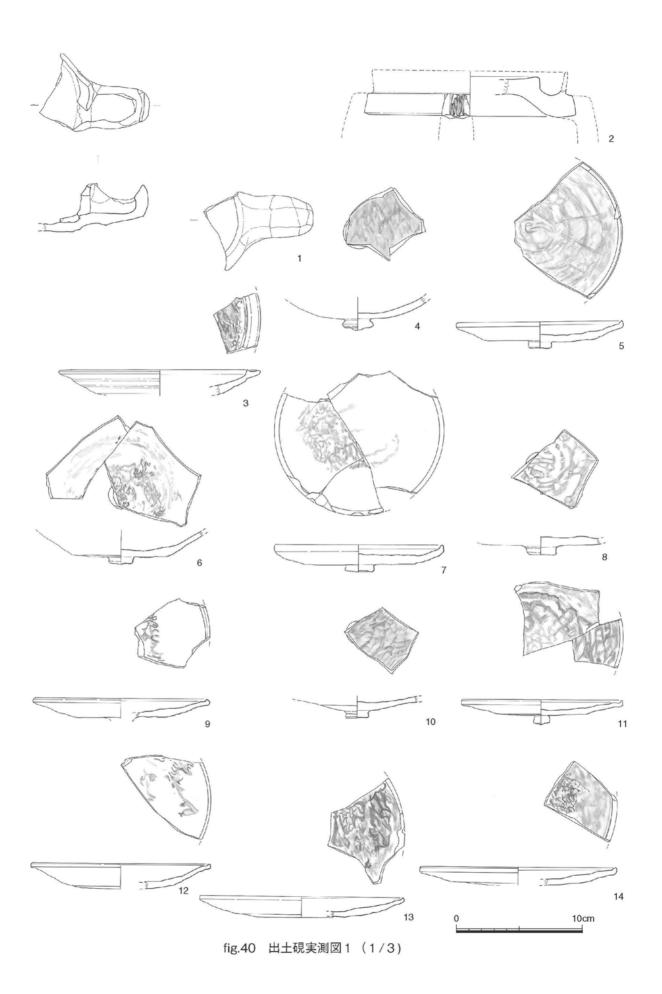


fig.39 出土墨書土器実測図6 (1/3)



-57-

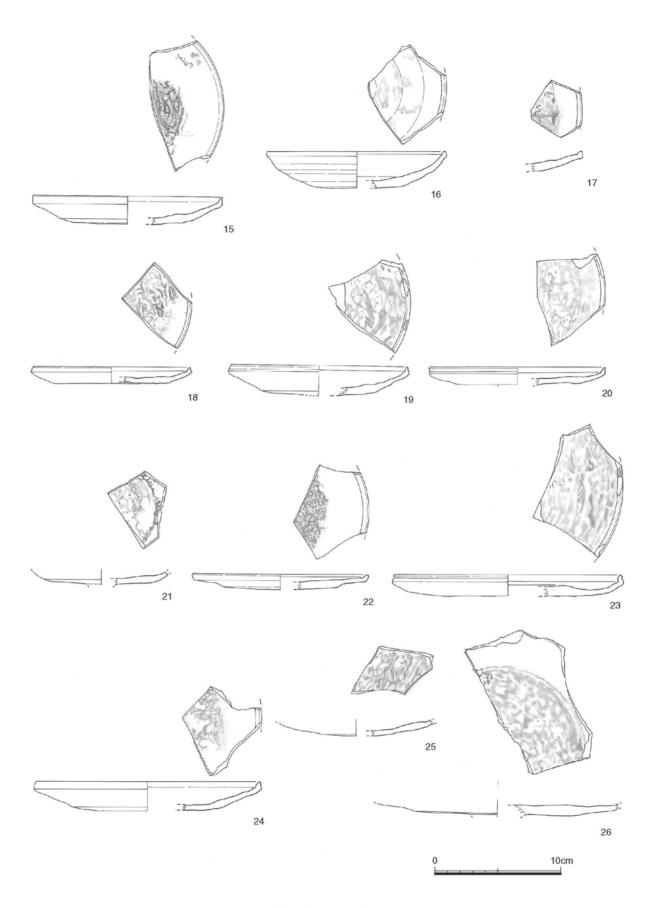


fig.41 出土硯実測図2 (1/3)

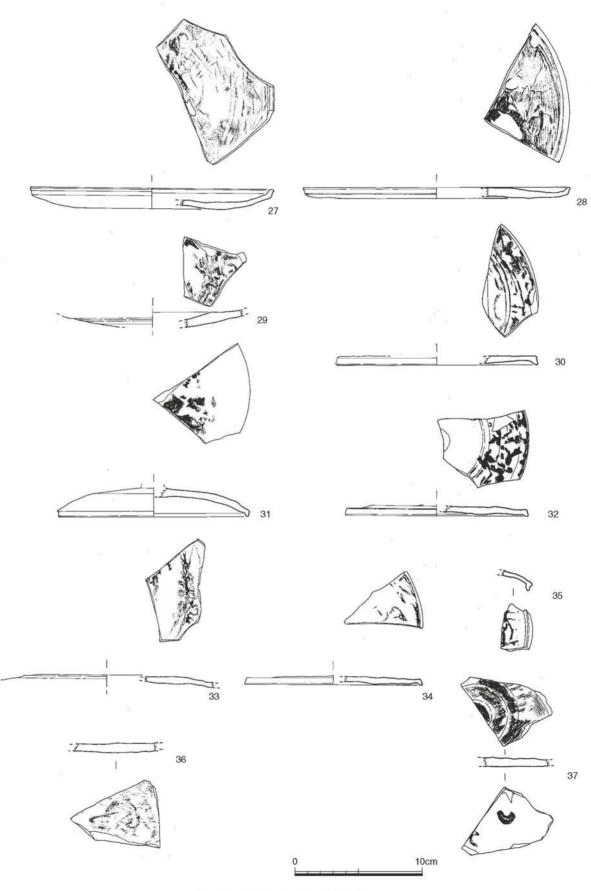


fig.42 出土硯実測図3 (1/3)

木製品 (Fig.43~49)

ここに掲載した木製品はSX001から出土したものの一部である。ここからは工具(刀子柄)、農具(鋤、杵)、紡織具(糸巻、紡錘車、機打具)、服飾具(櫛、下駄)、容器(挽物、刳物、曲物桶、蓋板、栓)、食事具(杓子)、遊戯具(琴柱)、丸木弓、祭祀具(舟形、人形、男根形)等が出土している。

1~5十字形の糸巻きの一部である。中央には軸を入れるための孔がある。6~14は火切り臼である。薄い板材を利用したもので、複数回利用したことがわかる。15、16は刳り貫きの容器で、15は長方形を呈する。16は楕円形を呈する。中央の穴は欠損と考えられる。19は琴柱である。上面には糸で擦れた痕跡が見られる。18は横櫛で、片側は欠損している。19~21は下駄である。歯は削り出しによって作られる。23~44は舟形木製品である。舟形は芯持ちの細い丸木材を用いたものが多く、樹皮の残したものも見られる。形態は船首方向が船尾より尖るような表現で丸木材の両端を削る。中央は削り出して、屋形船風の側面観を呈するものが多い。また、少数であるが、内側を削り込むものもある。22、24は丸木材を用いた屋形舟様の舟形である。加工は両端と上面の屋形の削りだし、底面を平坦にする削りを施すが、それ以外の部分は樹皮を残す。23は上面の両端近くに切り込みを入れ、屋形を表現する。25も同様の加工であるが、片側は2ヶ所切り込みを入れている。26~29、31は甲板面が傾斜をもつ。30、32の甲板面は平坦をなす。33は板材を利用したもので、屋形の表現はあるが、両端を尖らせる加工はない。36は薄い板を加工したもので、屋形の表現があり、舟形とした。39~44は丸木材の内側を削り込み、平坦に加工する。屋形の表現はないが、未加工部分を残すなど、他のものと共通点が見られる。

45は男根形木製である。丸木材を利用したものである。

46は人形と考えられる木製品である。こけしのような形態で、丸木材を加工し、頭部と脚部を表現 する。木の節の部分の盛り上がりが目や鼻の部分に対応しているように見える。

47~66は横槌形の木製品である。大きさは約14~25cm 程で、丸木材を利用し、端部の一方を削り出し、グリップ状に加工する。もう一方は平坦もしくは丸みを持たせるよう加工する。それ以外の部分は樹皮を残したものが大半である。側面の状態などは横槌のように使用した痕跡は見られず、他の部分も明瞭な使用痕は見られない。今回、このタイプの木製品はSX001から20点以上出土しており、別の用途も考慮したい。グリップの表現を頭とするならば、45のようなこけし風の人形の可能性も考えられる。

67~69は鳴鏑である。67は側面に4ヶ所を小孔が開けられる。

木簡 (Fig.50、51)

木簡は総数37点が出土している。2003年の概報2で木簡の釈文は報告したが、その後保存処理等により、文字は判読されたものもあり、修正の必要が生じた。ただ、今回は報告に間に合わなかったこともあり、出土木簡の主なものを紹介するのみにとどめたい。

この調査地点で出土した木簡の特徴を概述すると以下のようになる。

紀年銘木簡

紀年銘木簡は3点出土した。8号木簡は大寶元年(701)、1、26号木簡は延暦四年(785)の紀年銘が見られる。8号木簡は上端の一部を欠くが、ほぼ完形の荷札木簡。表側には「六人部□□」の人名が記される。裏側は三行にわたる。1行目の「太寶元年辛丑」(七○一)の年紀は干支との併用で、大宝令施行直後の状況を示す資料と言えよう。2行目の「鮑廿四連代税」が木簡を付けた品物を示していると考えられる。三行目の「官川内□」については人名、「黒毛馬胸□」は運搬に使用した馬の特徴を示すものであろうか。1号木簡の「□帳」の「□」は計か。計帳作成に関わるものと考えられる。

26号は2片に折損しているが、同一個体と考えられる。上端は丸く仕上げられる。表側は上端近くに「献上」と記され、やや下ったところに文字が見られるが、判読できない。下方に「延暦四年十月十四日真成」と年紀と人名を記している。

② 地名木簡

地名を記した木簡には「嶋郡」銘や郡内の郷名が見られる。4号は下端が欠損している。「嶋郡赤敷 里」は『和名類聚抄』所載の筑前国志麻郡内の七郷のひとつ、「明敷」をさすものと考えられる。32号 は下端を欠く。「登志郷」は志麻郡内の郷名である。33号は「郷明」の文字から郡内の郷名の「明敷 郷」を指すものと考えられる。

③ 人名木簡

人名を記した木簡は多く見られた。8、4号では六人部、川内、難波部が見られ、10号は上端を欠損、下端は切断されている。「建部根足」の人名が記される。この他、久米部、大神部、己西部、中臣部、額田部等が見られる。

④ 祭祀に関わる木簡

13号は一方を尖らせるもので、上端に「道塞」と記される。道祖神の信仰に関わる¹⁾と考えられるものである。12号は池状遺構の上層での出土であり、九世紀以降に下る可能性がある。ほぼ完形品の幅広の木簡で文字は三行にわたり、経文の一部を記す。上端には切り込みは入り、中央付近に穿孔が見られる。

今回出土した木簡を概観すると、時期的には8世紀前半代と後半代の二つに分けられる。内容については年紀を記したもの(大宝元年、延暦四年)、地名(赤敷里(明敷郷)、登志郷など)、貢納に関わるもの(鮑廿四連、献上など)、税に関わるもの(出挙、計帳、税官など)、祭祀に関わるもの(道塞など)、人名(難波部、額田部など)などがあるが、律令制下の地域支配に関わるものといえる。現状では木簡に関しては製鉄に関わるものは確認されていない。

なお、木簡の釈読にあたって、狩野久氏、坂上康俊氏、佐藤信氏、柴田博子氏、田中史生氏、田中 正日子氏、舘野和己氏、東野治之氏、永山修一氏、馬場基氏、平川南氏、森公章氏、八木充氏、吉川 聡氏、渡辺晃宏氏をはじめとした多くの方々に資料を見て頂き、検討していただいた。

註1

平川南「道祖神信仰の源流―古代の道の祭祀と陽物形木製品から―」

『国立歴史民族博物館研究報告』第133集2006

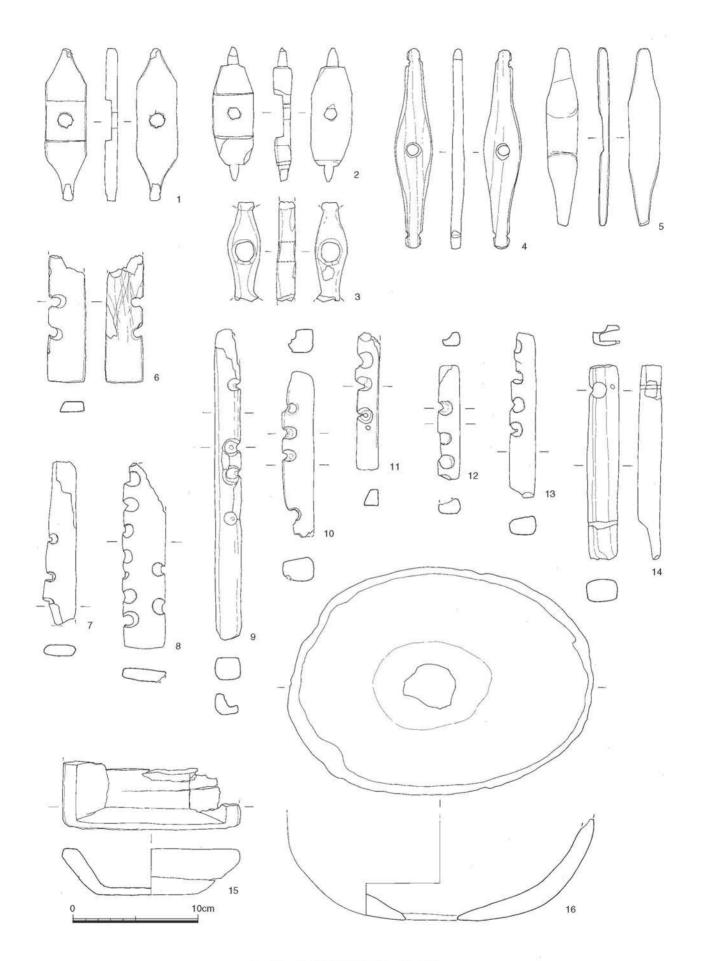


fig.43 出土木器実測図1 (1/3)

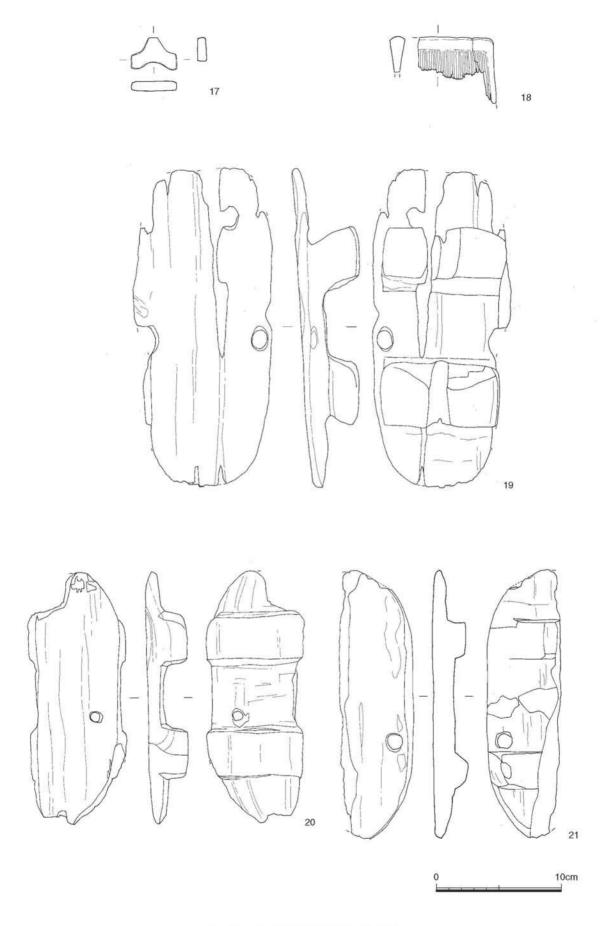


fig.44 出土木器実測図2 (1/3)

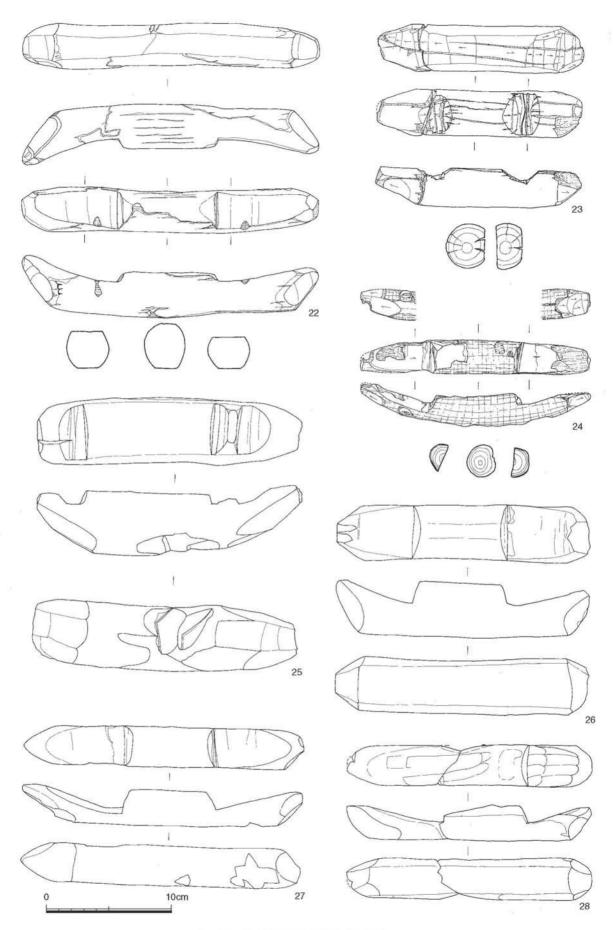


fig.45 出土木器実測図3 (1/3)

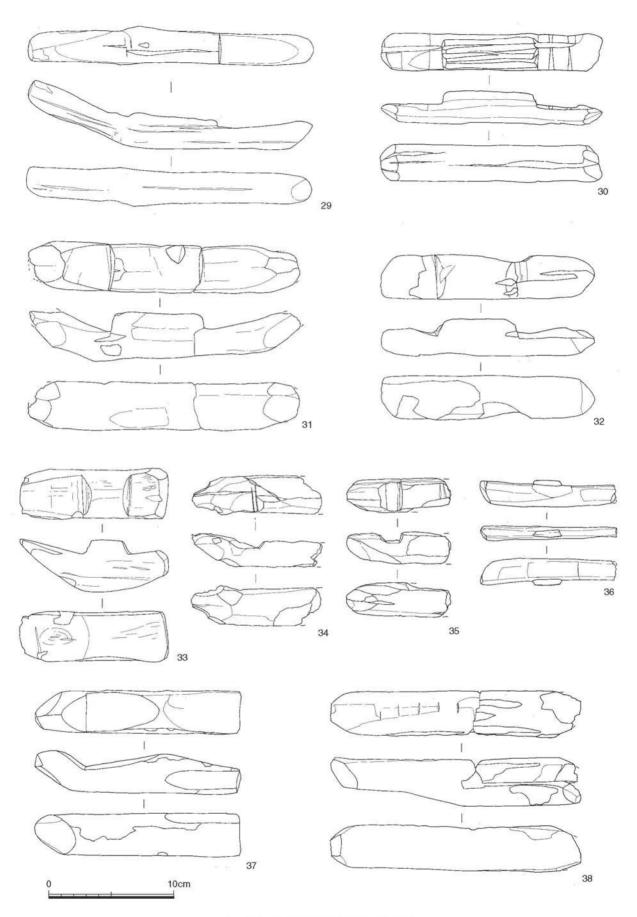


fig.46 出土木器実測図4 (1/3)

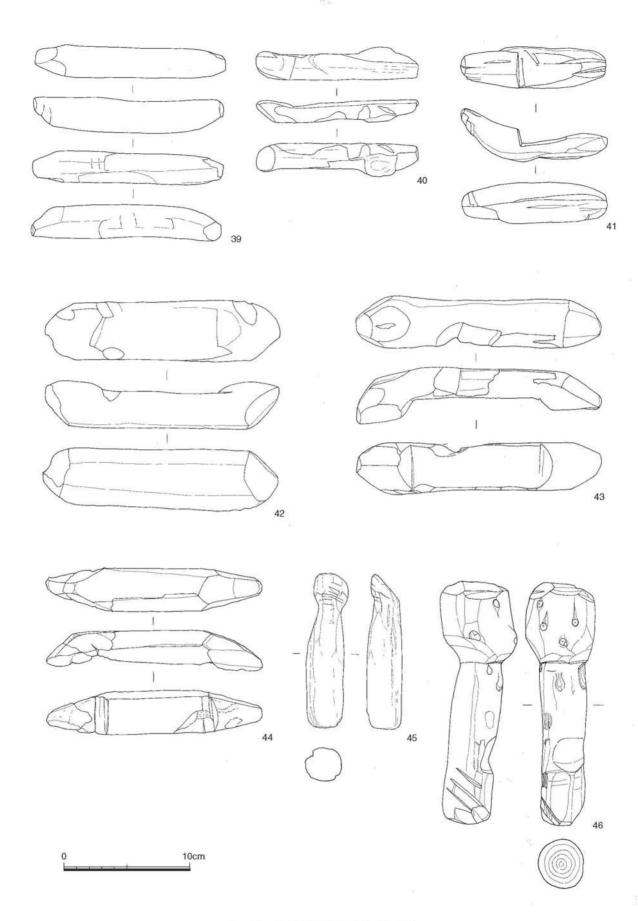


fig.47 出土木器実測図5 (1/3)

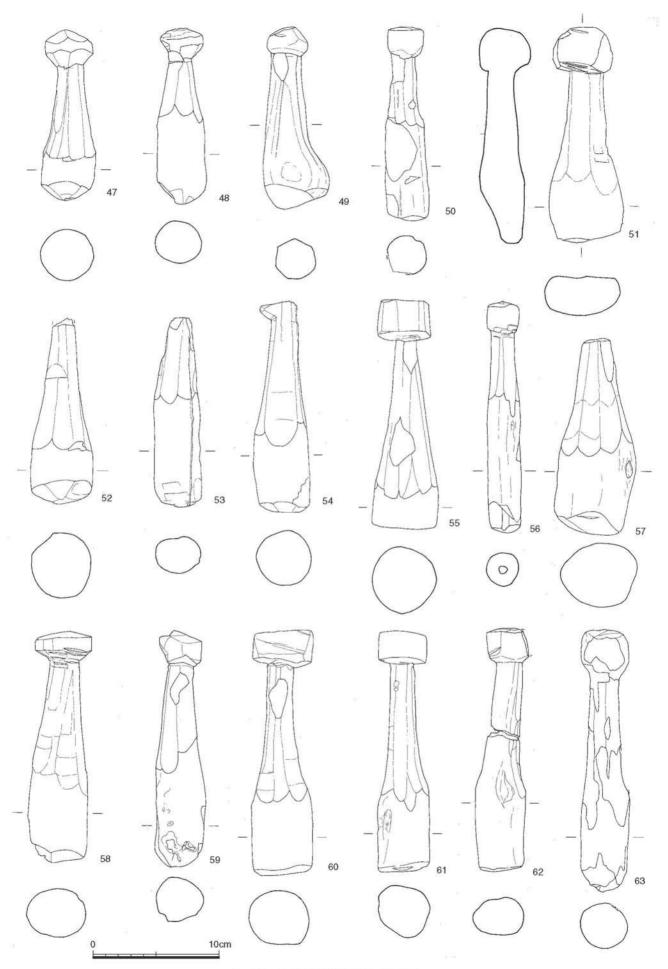


fig.48 出土木器実測図6 (1/3)

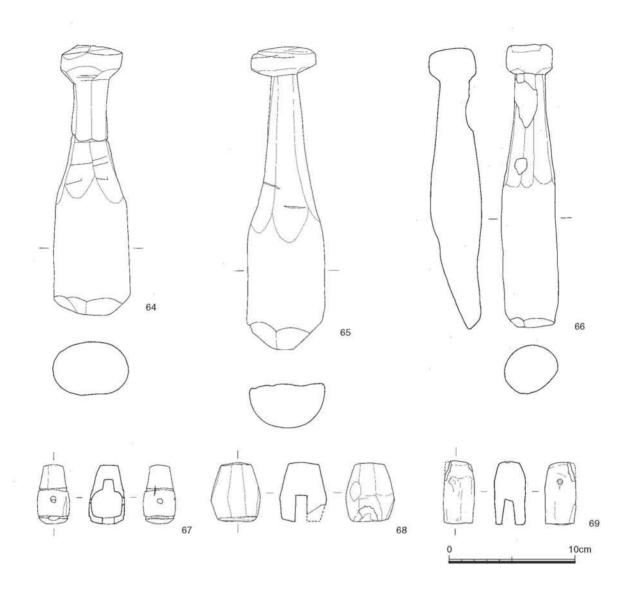


fig.49 出土木器実測図7 (1/3)

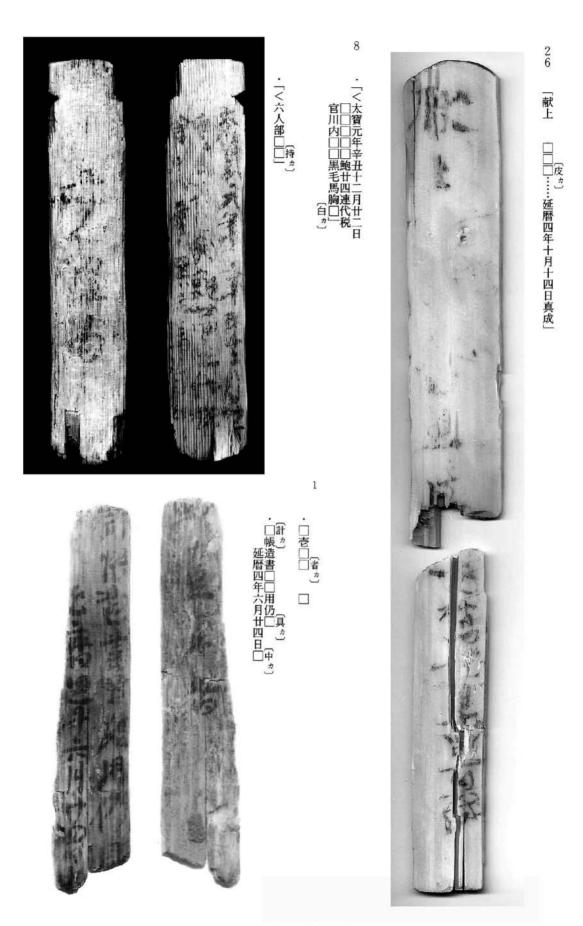


fig.50 出土木簡 1

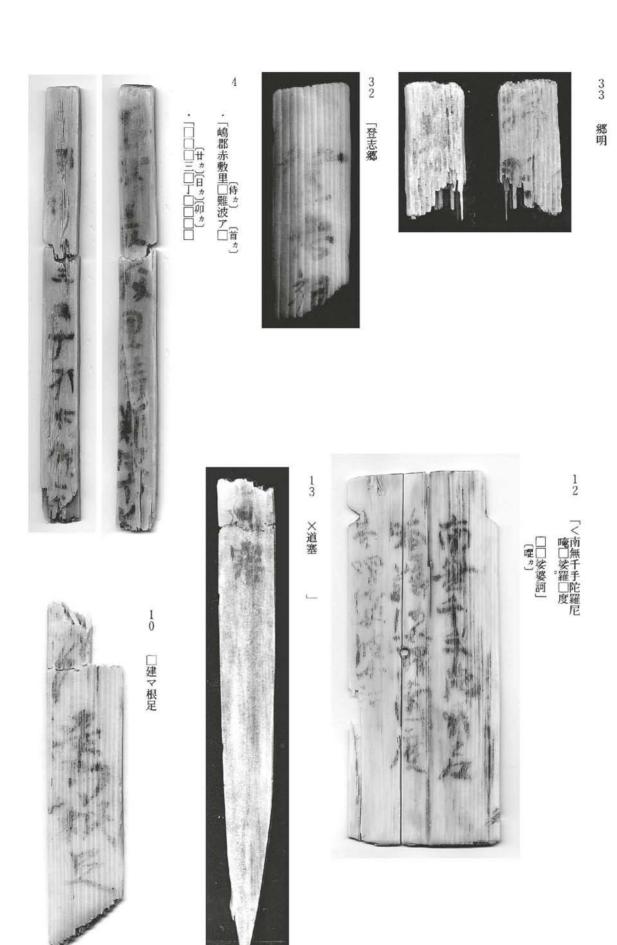


fig.51 出土木簡 2

金属製品 (Fig.52~56)

ここでは古代の遺構、包含層から出土したものを中心に掲載した。

1~4は銅製の帯金具で、池状遺構001及び流出部より出土した。共伴遺物からいずれも8世紀代に位置づけられるものと考える。1、2は丸鞆、3、4は巡方である。1は長辺3.9cm、短辺2.6cm、厚さ0.8cmを測る。鋲は3本で、側面には塗布された漆が残存する。2は長辺2.3cm、短辺1.5cm、厚さ0.1cmを測る。鋲は3本である。3は裏金具も残存する。長辺2.3cm、短辺1.5cm、厚さ0.1cmを測る。鋲は4本で、裏金具の孔は2個である。4は長方形を呈する。長辺3.1cm、短辺1.5cm、厚さ0.6cmを測る。鋲は3本で、側面に塗布された漆が残存する。

5は銅製の権衝で、池状遺構001の流出部より出土した。共伴遺物から8世紀代に位置づけられる。 傘部は六角形を呈し、円形の台が付く。底部にえぐられた痕跡があり、重さを調整したものか。高さ 2.8cm、幅3.0~3.4cm、重さ97gを測る。権衝はこれ以外に石製のものの出土している。

6、7は銅碗の一部で、口縁内側は肥厚する。6は外面に沈線が巡る。8、9は銅製の蓋か。10は 鋲で留められた銅製品である。 $11\sim13$ は素材と考えられる銅製の板である。14は銅製の刀装具と考え られる。15、16は銅釧である。断面は偏平な楕円形を呈する。

17~37は鉄鏃である。17、18は有茎柳葉式、19~22は有茎斧箭式の鉄鏃である。36、37は有茎雁股式の鉄鏃で、37はハート形の透かしが開けられる。38~47は刀子である。38は木製の柄が装着された状態で出土した。柄は長さ約14.5cm で、やや湾曲している。刃部は約4cm を測るが、研ぎ減りか非常に短い。48~52は鎌である。53~84は釘である。断面方形を呈し、頭部はつぶれている。85は斧形の鉄製品で、一方を折り曲げて、袋部を作る。器壁が2mm程度と非常に薄く、実用品とは考えにくい。86は薄い刃の小刀である。87~92は不明品である。88は細い鍵形のものである。先端は鋭い。94、95は耳環で、銅芯で表面を金箔で覆う。

陶磁器類他 (Fig.57~61)

ここでは主に包含層から出土した国産、輸入陶磁器を掲載した。

 $1 \sim 11$ は緑釉陶器である。1、2は碗の口縁である。 $3 \sim 10$ は高台の付く碗の底部である。11は壷の肩部である。

12~22は灰釉陶器である。12~21は碗である。底部には高台が付く。22は蓋で、天井部には渦巻き 文様が見られる。

23~65は越州窯系青磁碗である。高台は31~36のような蛇の目高台、37~56のような輪状高台、57~65のような上げ底気味の高台のものがある。見込みや畳付けに目跡が残る。66~68は青磁碗で、輪花状の口縁を呈する。69、70は青磁の高台付皿で、腰で折れて開く。73は褐釉陶器の壷の把手の部分である。

74~79は白磁碗である。74~77は小さな玉縁口縁を呈する。79は蛇の目高台の碗底部である。80、81は白磁壷である。体部で把手が付く。

82~85は黒色土器B類の碗である。丁寧なヘラミガキが施される。

85~92は楠葉型の瓦器碗である。口縁の内側に沈線が巡り、内面には丁寧なヘラミガキが施される。この他、巻頭カラーで記した緑釉陶器はSX044の上層の7世紀後半~8世紀にかけての層から出土した。大きさ約3cm四方の破片で、器形の特徴から蓋の天井部分と考えられる。器面には濃緑色の釉薬がかかり、外面には3条、2条一単位の沈線が巡る。胎土は灰白色を呈し、やや硬質である。共伴する遺物の時期や形態的な特徴から統一新羅のものと考えられる。

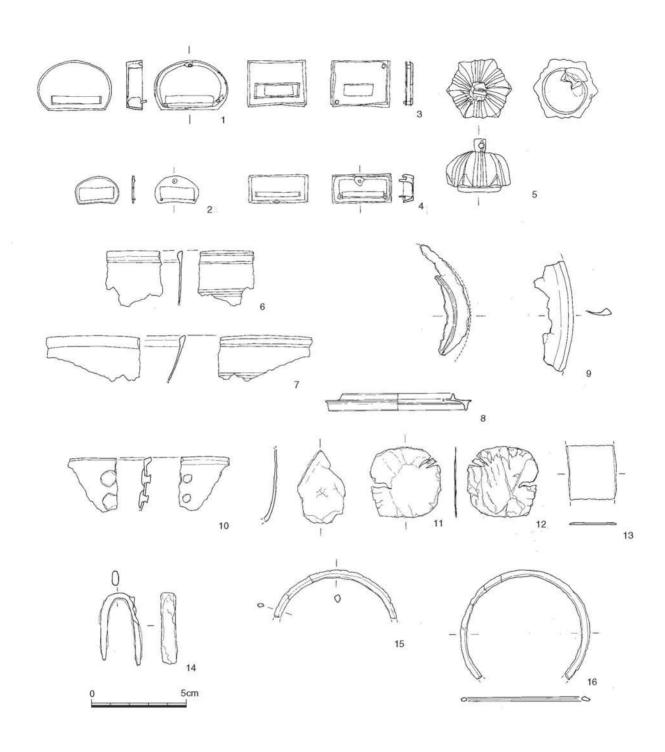


fig.52 出土金属器実測図1 (1/2)

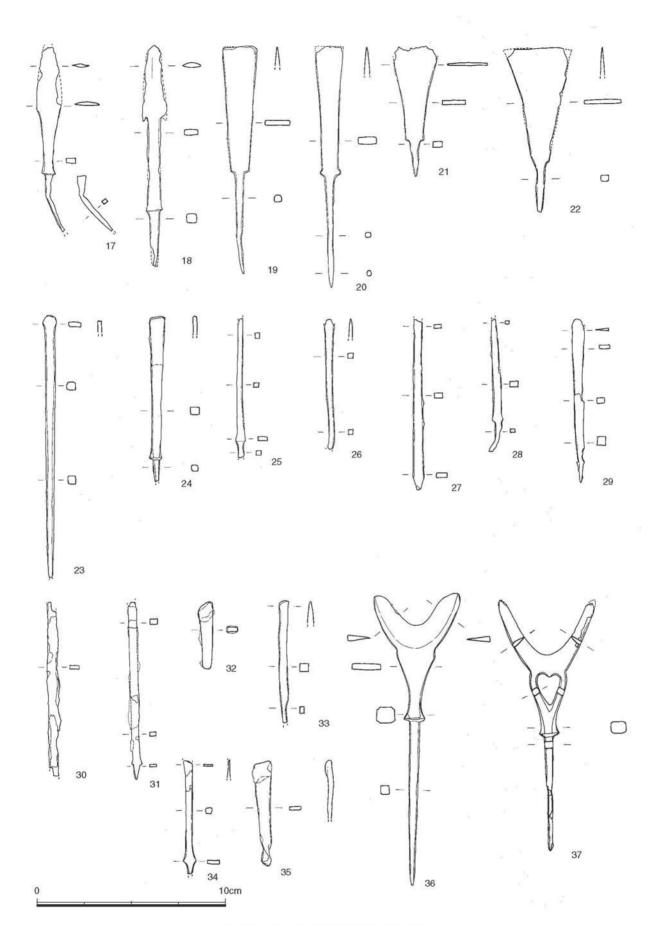


fig.53 出土金属器実測図2 (1/2)

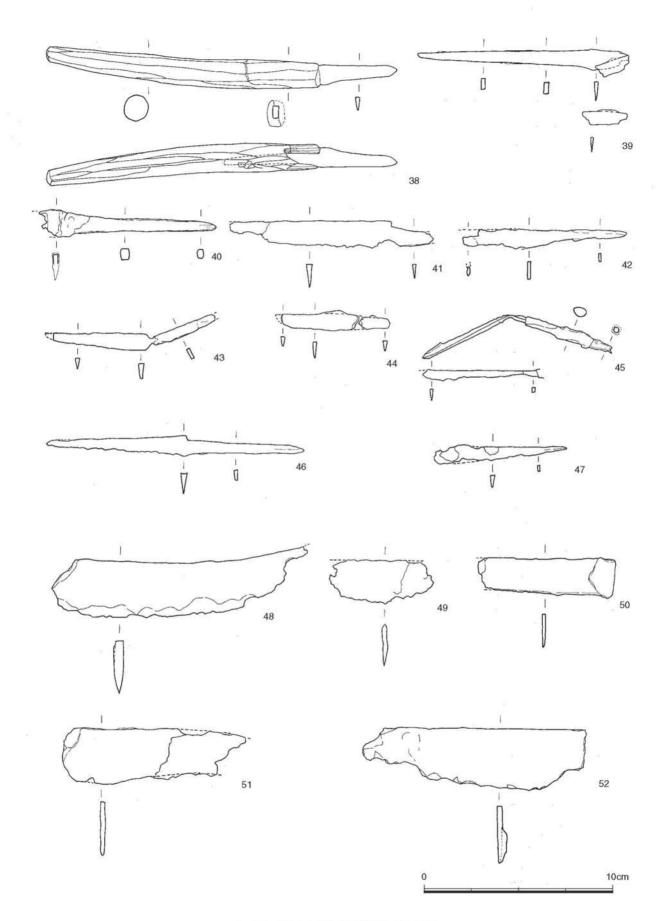


fig.54 出土金属器実測図3 (1/2)

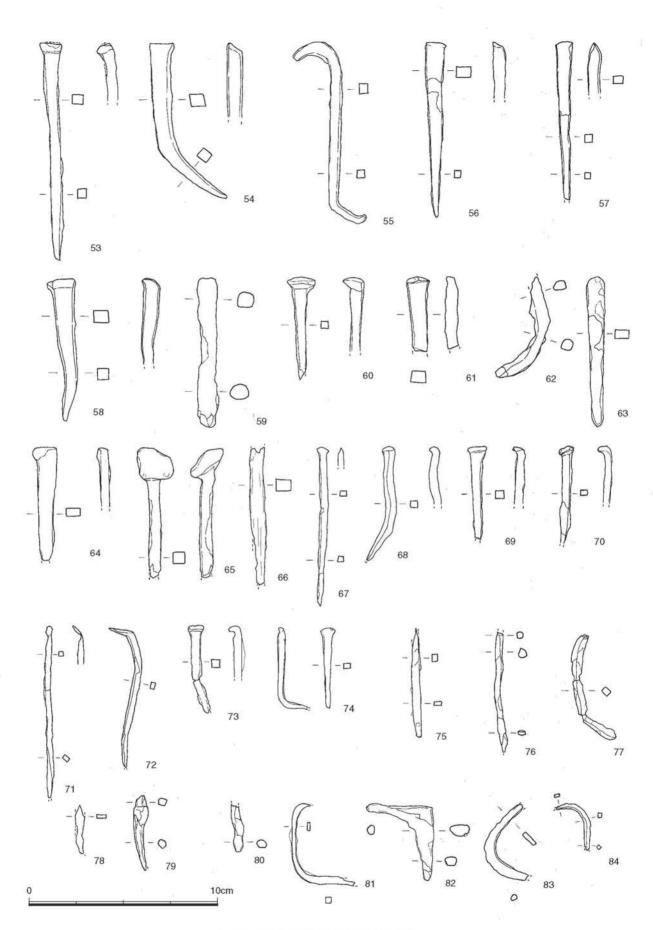


fig.55 出土金属器実測図4 (1/2)

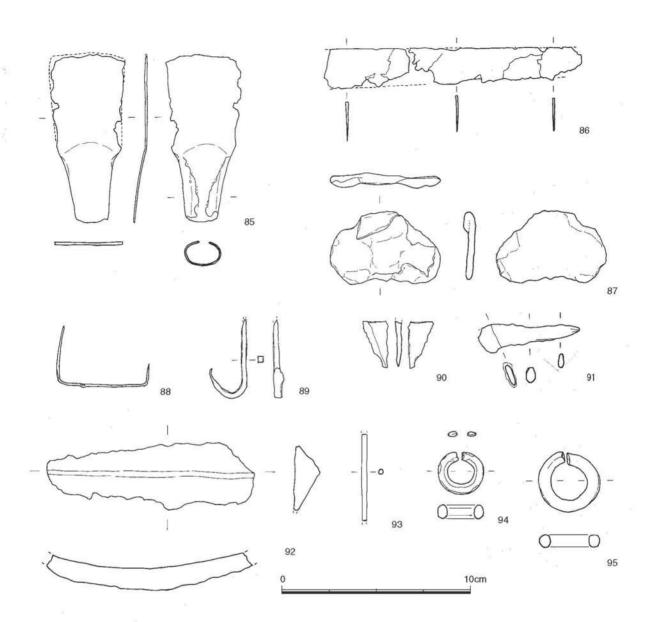


fig.56 出土金属器実測図5 (1/2)

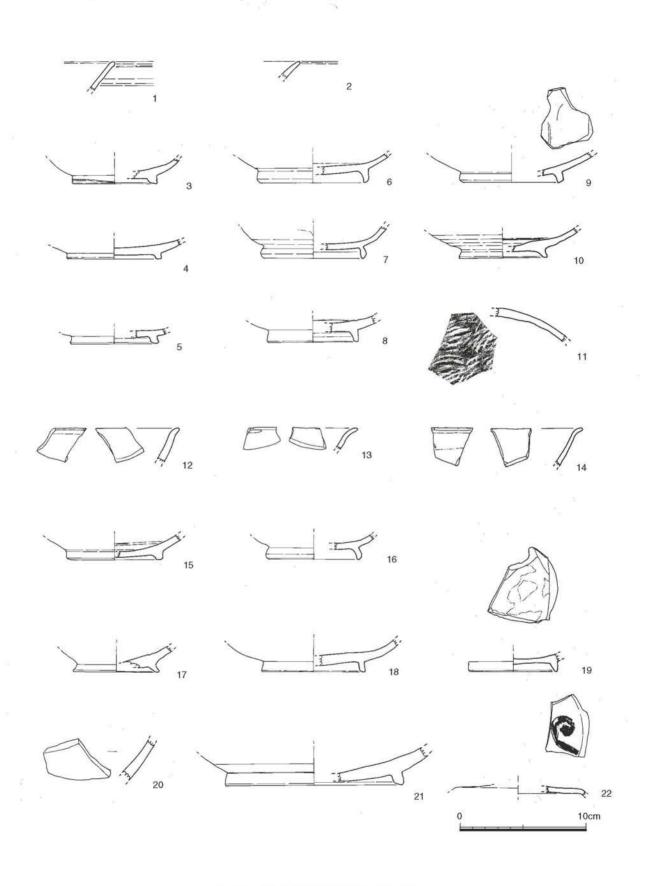


fig.57 出土陶磁器実測図1 (1/3)

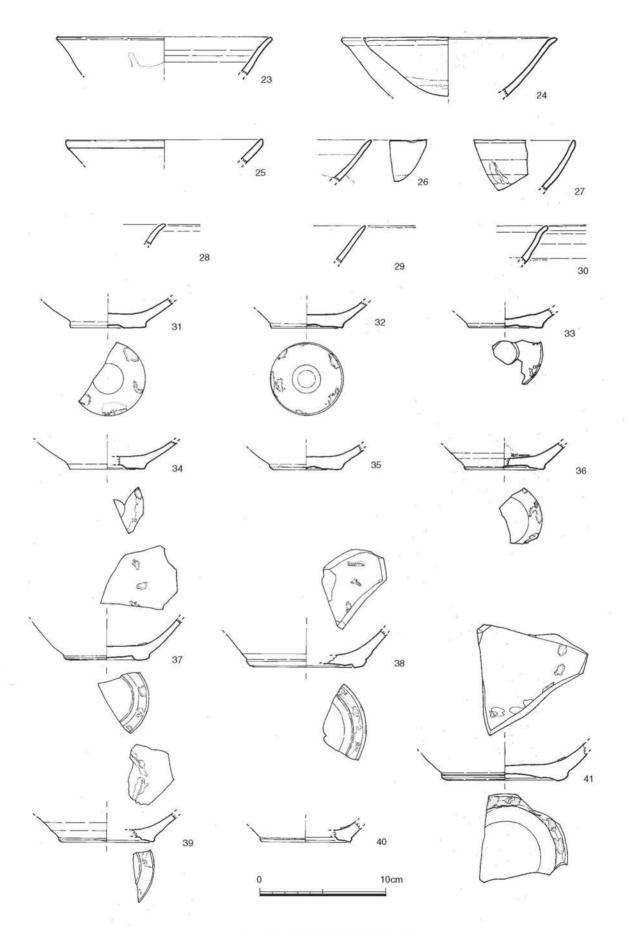


fig.58 出土陶磁器実測図2 (1/3)

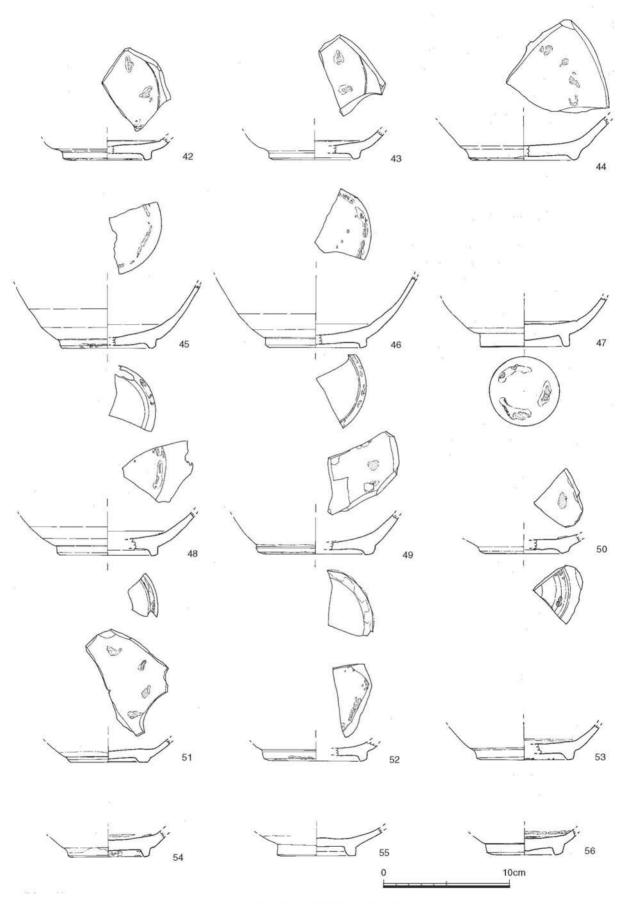


fig.59 出土陶磁器実測図3 (1/3)

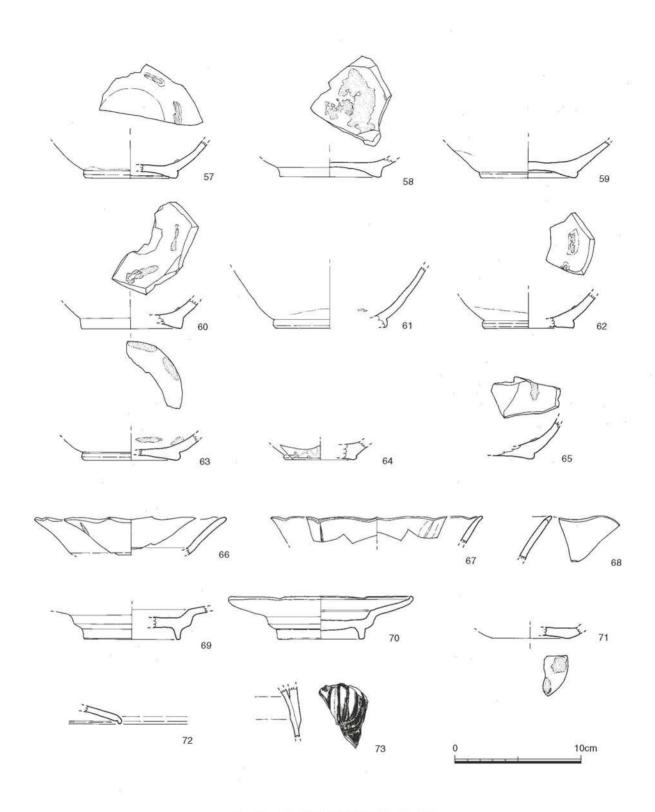


fig.60 出土陶磁器実測図4 (1/3)

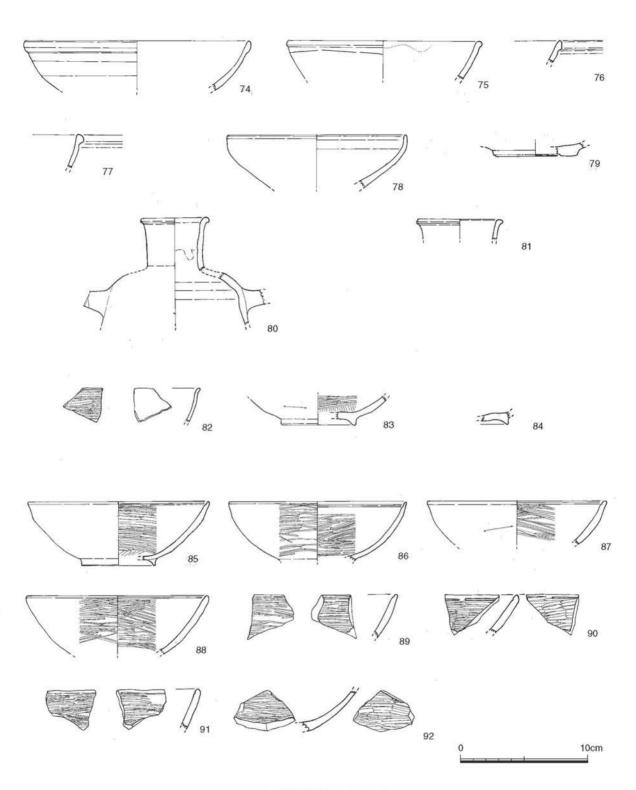


fig.61 出土陶磁器実測図5 (1/3)

tab.4 土器観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		地	区・層位・遺構	遺物の種類	器形	法量(器高/口径/ 底径 (cm))	特徵
21		1	E3区	001	西側整地層	須恵器	高坏	-/-/9.5	坏部欠損、色調暗灰色
21		2	E 2区	001	西側土器群 NO.1	須恵器	高坏	-/-/10.8	坏部欠損、色調灰色
21		3	E2区	001	西側整地層	土師器	ш	3.5/17.5	5/6残存、色調赤橙色
21		4	E 2区	001	西側整地層	土師器	坏	4.8/17.8	5/6残存、色調橙色
21		5	E 4区	001	西側整地層	須恵器	坏蓋	3.9/13.5	1/2残存、色調灰色
21		6	E3区	001	西側整地層	須恵器	坏蓋	3.2/13.8	ほぼ完形、色調灰赤色
21		7	E 2区	001	西側整地層	須恵器	蓋	-/15.8/-	3/4残存、色調灰褐色
21		8	E 3区	001	西側整地層	須恵器	坏蓋	3.7/15.6	2/3残存、色調暗灰色
21		9	E 2 🗵	001	西側整地層	須恵器	坏蓋	3.4/16.6	3/4残存、色調灰褐色
21		10	E3区	001	西側整地層	須恵器	坏蓋	-/-/-	口緣欠損、色調淡灰色
21		11	E3区	001南トレン チ整地層	GL-40cm	須恵器	蓋	5.2/17.2	1/2残存、色調灰色
21		12	E3区	001	西側整地層	須恵器	坏	2.6/7.6	ほぼ完形、色調灰黒色
21		13	E3区	001	西側整地層	須恵器	高坏	-/10.6/-	1/2残存、脚部欠損、色調 灰白色
21		14	E 2区	001	暗灰砂土GL-40~50cm	須恵器	坏	3.3/7.2/6.0	1/2残存、色調灰色
21		15	E3区	001	西側整地層	須恵器	ш	1.8/7.1	ほぽ完形、色調灰色、外面 にヘラ記号
21		16	E3区	001	西側整地層	須恵器	踸	-/-	口縁欠損、色調灰色
21		17	E2区	001	西側土器群 NO.2	須恵器	壺	-/-/9.0	口縁欠損、色調灰黒色
21		18	E 2 🗵	001	西側整地層	須恵器	壷	2.2/10.6	口緣欠損、色調暗灰褐色
21		19	E2⊠	001	西側土器群 NO.3	須恵器	壺	-/-/-	口縁、底部欠損、色調灰色
22		20	E0区	001	西側整地層	須恵器	壺	18.5/11.0	1/2残存、色調灰色
22		21	E2区	001	西側整地層	須恵器	横瓶	29.6/10.4	1/2残存、色調灰色
23		22	E1区	001	暗灰砂土GL-60 ⁻ 70cm	須恵器	横瓶	-/-	口縁欠損、色調灰黒色
23		23	E2区	001	西側土器群	須恵器	甕	-/-/-	色調淡灰色
24		24	E 2区	001	西側整地層	須恵器	甕	-/20.2	1/2残存、色調灰色
24		25	E 2区	001	西側土器群	須恵器	甕	-/21.8	2/3残存、色調暗灰色
25		26	C00区	001	暗灰砂土GL-20cm	土師器	甕	-/-/-	口縁片、色調橙色
25		27	C00区	001	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	甕	-/17.6	口縁片、色調灰白色
25		28	C1区	001	暗灰砂土GL-50cm	須恵器	坏	4.3/14.0/9.2	1/3残存、色調灰白色
25		29	C 2 🗵	001東半	青灰粗砂GL-50~70cm	須恵器	坏	5.2/12.4/8.2	5/6残存、色調灰色
25		30	C3区	001東半	青灰粗砂GL-30~40cm	須恵器	坏蓋	1.6/12.6	1/4残存、色調灰色
25		31	C3区	001東半	青灰粗砂GL-30 ⁻ 40cm	須恵器	坏	4.4/12.6/9.1	1/3残存、色調灰色
25		32	C3区	001東半	青灰粗砂GL-40cm	土師器	碗	-/-/8.2	底部片、色調暗褐色
25		33	C3区	001東半	青灰粗砂GL-50cm	須恵器	高坏	-/-/-	脚部片、色調黒灰色
25		34	C3区	001東半	青灰粗砂GL-40~50cm	須恵器	甕	-/12.6	口線1/4残存、色調黑灰色
25		35	C3区	001	暗灰砂土GL-60 ⁻ 70cm	須恵器	坏蓋	2.5/14.4	1/3残存、色調暗灰色
25		36	C3区	001	暗灰砂土GL-60~70cm、 GL-80cm	須恵器	坏蓋	1.7/13.8	1/2残存、色調灰色
25		37	C3区	001	暗灰砂土GL-60~70cm	須恵器	甕	-/21.0	口縁1/4残存、色調灰黒色
25		38	C3区	001	暗灰砂土GL-80cm	須恵器	坏蓋	-/15.8	1/3残存、色調灰色
25		39	C3区	001	暗灰砂土GL-80cm	須恵器	坏	5.0/11.4/10.1	1/2残存、色調淡灰色
25		40	C3区	001	暗灰砂土GL-80cm	須恵器	坏	4.0/16.6/10.0	1/3残存、色調灰色
25		41	C3E	001	暗灰砂土GL-80cm	土師器	高坏	-/-/-	脚部片、色調淡赤橙色、内 側にヘラ記号

tab.5 土器観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		t	TAD.5 工品银祭 也区·曆位·遺構	遺物の種類	器形	法量(器高/口径 /底径(cm))	特徵
25		42	C3区	001	暗灰砂土GL-80cm	土師器	甑	-/-/-	底部片、色調黒褐色
26		43	C4区	002南半	暗灰砂土GL-60cm	須恵器	蓋	1.6/7.3	1/2残存、色調灰黑色
26		44	C 4 🗵	002南半	暗灰砂土	須恵器	蓋	1.9/7.2	1/2残存、色調黒褐色
26		45	C 4区	002東半	暗灰砂土GL-60cm	須恵器	坏蓋	-/-/-	天井部片、色調暗灰色、内 面へラ記号
26		46	C4区	002東半、北 半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏蓋	-/17.2	3/4残存、色調褐色
26		47	C4区	002東半	暗灰砂土GL-80cm	須恵器	坏蓋	-/12.4	1/8残存、色調暗灰色
26		48	C 4 🗵	002東半	暗灰砂土GL-50cm	須恵器	坏蓋	2.8/15.0	1/3残存、色調灰黑色
26		49	C 4 🗵	002東半	暗灰砂土GL-80cm	須恵器	坏	-/-/10.2	1/3残存、色調暗灰色
26		50	C 4 🗵	002東半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏	3.7/14.3/9.0	1/4残存、色調灰色
26		51	C 4 🗵	002東半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏	4.5/14.5/8.8	1/2残存、色調灰色、底部 にヘラ記号
26		52	C 4 🗵	002北半	暗灰砂土GL-80cm	土師器	鉢	-/-/-	1/2残存、色調淡灰褐色
26		53	C 4 🗵	002北半	暗灰砂土GL-70cm	土師器	壷	5.8/6.8/-	ほぼ完形、色調灰色
26		54	C 5 ⊠	002北東半	暗灰砂土GL-50cm	土師器	碗	-/15.0/-	5/6残存、色調灰白色
26		55	C5区	002	暗褐色土	須恵器	壷	-/-/-	色調灰色、外面タタキ
26		56	C5区	002	黒色粘	須恵器	坏	5.8/18.4/13.0	1/4残存、色調暗茶褐色
26		57	C 5区	002	黑色粘	須恵器	坏	5.3/17.6/11.0	1/3残存、色調灰色
26	1,1	58	C 5区	002南東半	暗灰粘GL-90cm	須恵器	**	4.2/15.2	3/4残存、色調灰色
26		59	C 5 🗵	002	暗灰砂土	須恵器	平瓶	-/-/-	色調灰色
26		60	C6区	002	暗灰砂土GL-30cm	須恵器	坏蓋	4.0/13.8	1/2残存、色調灰黑色
26		61	C 7区	002	暗灰砂土GL-30cm	須恵器	坏蓋	1.9/15.9	1/3残存、色調灰色
26		62	C6区	002東半	暗灰砂土GL-50cm	須恵器	ш	3.3/13.9	1/2残存、色調灰色
26		63	C 5区	002南東半	暗灰粘GL-90cm	土師器	高坏	-/13.5/-	脚部欠損、1/2残存、色調 淡褐色
26		64	C 5区	002南半	暗灰粘GL-80cm	土師器	高坏	-/22.2/-	1/2残存、色調灰白色
26		65	C6区	002	出土土器	弥生土器	器台	10.2/6.2/12.8	脚部欠損、色調灰白色
27		66	D00区	西半	暗褐粘GL-40cm	土師器	高坏	-/16.0/-	脚部欠損、色調淡黄橙色
27		67	D00区	001西半	暗褐粘GL-50cm	黑色土器	碗	-/-/6.8	口縁欠損、色調黒色
27		68	D00区	001西半	暗灰砂土GL-60cm	黑色土器	碗	5.8/14.6/7.2	
27		69	D00区	001東半	暗灰砂土GL-60cm	土師器	甕	-/16.8/-	1/2残存、色調褐色、外面 に煤付着
27		70	D0区	001	暗褐粘GL-40 ⁻ 60cm	黑色土器	碗	-/-/6.0	口縁欠損、色調黒色
27		71	D0区	001	暗褐粘GL-40 ⁻ 60cm	黒色土器	碗	5.5/14.4	5/6残存
27		72	D0区	001	暗褐粘GL-40 ⁻ 60cm	土師器	碗	5.7/13.5/7.8	1/2残存、色調明褐色
27		73	D0区	001	暗褐粘GL-40~60cm	須恵器	坏	4.1/12.3/7.4	1/2残存、色調灰色
27		74	D0区	001東半	暗灰砂土	須恵器	高坏	-/-/5.6	坏部欠損、色調灰白色
27		75	D1区	001東壁中	東壁中、暗灰砂土	須恵器	坏	4.0/12.8/7.7	1/4残存、色調明褐色
27		76	D1区	001東壁中	暗灰砂土	須恵器	坏	4.4/13.8/8.8	1/3残存、色調淡灰色
27		77	D1区	001東壁中	東壁中、暗灰砂土	須恵器	ш	2.2/14.8	1/4残存、色調暗灰色
27		78	D1区	001東壁中	暗灰砂土	土師器	甑	-/14.8	1/4残存、色調明褐色
27		79	D0区	001東半	暗灰砂±GL-60 ⁻ 80cm	須恵器	壷	-/-	口縁底部欠損、色調灰色
27		80	D2区	001	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	ш	1.7/15.6/12.7	1/2残存、色調暗灰色、内 面に煤付着
27		81	D2区	001	暗灰砂土GL-110cm	須恵器	坏	5.3/14.6/11.1	1/2残存、色調暗褐色
27		82	D2区	001	暗灰砂土GL-100~110cm	土師器	甕	28.5/16.6	1/2残存、色調灰褐色

tab.6 土器観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		地	[AD.6 工态银] 区·層位·遺構	遺物の種類	器形	法量(器高/口径/ 底径(cm))	特徵
28		83	D3区	001	暗灰砂土GL-70~80cm	土師器	ш	3.6/22.9/18.1	1/4残存、色調淡褐色
28		84	D3区	001	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏蓋	1.8/12.6	2/3残存、色調黑灰色
28		85	D3区	001	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏	4.1/13.0/8.6	1/3残存、色調灰色
28		86	D3区	001	暗灰砂土GL-70~80cm	須恵器	坏	4.4/13.2/8.4	1/4残存、色調灰色
28		87	D3区	001	暗灰砂土GL-70~80cm	須恵器	坏蓋	-/-/-	天井部片、色調灰黒色
28		88	D3区	001	暗灰砂土GL-90cm	須恵器	坏蓋	2.6/12.8	1/2残存、色調灰色
28		89	D3区	001	暗灰砂土GL-90cm	須恵器	坏蓋	3.2/14.7	1/2残存、色調暗灰色
28		90	D3区	001	暗灰砂土GL-90cm	須恵器	坏	4.5/12.3/9.2	1/3残存、色調灰色
28		91	D1区	001	暗灰砂土GL-90cm	土師器	甑	-/-/14.0	1/12残存、色調茶褐色
28		92	D3区	001北	暗灰砂土GL-100cm	須恵器	坏蓋	2.8/16.0	1/4残存、色調灰黒色
28		93	D3区	001北	暗灰砂土GL-100cm	須恵器	坏蓋	2.7/14.9	1/4残存、色調茶褐色
28		94	D3区	001北	暗灰砂土GL-100cm	須恵器	坏蓋	1.7/14.0	1/2残存、色調灰色
28		95	D3区	001北	暗灰砂土GL-100cm	須恵器	坏蓋	2.0/16.0	1/2残存、色調暗灰色
28		96	D3区	001北	暗灰砂土GL-100cm	須恵器	坏	3.9/9.5/6.8	1/4残存、色調暗灰色
28		97	D3区	001北	暗灰砂土GL-100cm	須恵器	坏蓋	-/-/-	天井部片、色調暗灰色、へ ラ記号
28		98	D3区	001	暗灰砂土GL-110cm	須恵器	甕	-/15.2	口縁片、色調灰白色
28		99	D3区	001東北隅	青灰砂中	土師器	高坏	13.2/18.6/12.2	
28		100	D3区	001東北隅	青灰砂中	土師器	壷	-/-	口緣欠損、色調淡灰褐色
29		101	D4区	002南半	暗灰砂土GL-30cm	須恵器	壺	-/11.4	口緣片、色調灰色
29		102	D4区	002	暗灰砂土GL-50cm	須恵器	坏蓋	-/-/7.0	1/2残存、色調灰黒色
29		103	D4区	002南半	暗灰砂土GL-50cm	須恵器	坏	3.3/11.8/8.0	1/4残存、色調暗灰色
29		104	D4区	002南半	暗灰砂土GL-50cm	須恵器	坏	4.3/12.7/9.0	1/2残存、色調灰色
29		105	D4区	002南半	暗灰砂土GL-50cm	土師器	甕	-/36.0	1/4残存、色調褐色、内面 に煤付着
29		106	D4区	002南半	暗灰砂土GL-60cm	須恵器	盖	3.7/9.0	1/3残存、色調灰色、天井部へラ記号
29		107	D4区	002南半	暗灰砂土GL-60cm	須恵器	坏	4.7/12.8/8.6	1/7残存、色調灰色
29		108	D4区	002南半	暗灰砂土GL-60cm	須恵器	坏	4.4/12.7/9.0	1/2残存、色調灰色
29		109	D4区	002南半	暗灰砂土GL-60cm	土師器	坏	4.8/20.0/12.0	1/3残存、色調褐色
29		110	D4区	002南半	暗灰砂土GL-60cm	須恵器	坏蓋	3.3/16.9	1/2残存、色調淡灰色
29		111	D4区	002南半	暗灰砂土GL-60cm	須恵器	坏	3.9/13.6/10.0	1/2残存、色調黒褐色
29		112	D4区	002	暗灰砂土GL-60cm	須恵器	鉢	-/27.0/-	1/4残存、色調灰色
29		113	D4区	002南半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏蓋	1.5/11.0	1/2残存、色調灰黑色
29		114	D4区	002南半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏蓋	2.4/14.1	1/3残存、色調灰色
29	5-	115	D4区	002南半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏蓋	-/-/-	口縁欠損、色調茶褐色
29		116	D 4区	002南半	暗灰砂土GL-30cm	須恵器	蓋	3.2/16.0	1/2残存、色調褐色
29		117	D4区	002南半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏	4.0/12.4/8.0	1/2残存、色調淡灰色
29	E 1	118	D4区	002南半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏蓋	-/10.7	天井部欠損、色調暗褐色
29		119	D4区	002南半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏蓋	4.2/12.5	1/2残存、色調灰黒色
29		120	D4区	002南半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏蓋	4.2/13.0	1/3残存、色調暗灰色
29		121	D4区	002南半	暗灰砂土GL-80cm	須恵器	坏	4.0/10.8	1/2残存、色調茶褐色
29		122	D4区	001	暗灰砂土GL-110cm	須恵器	坏	4.8/12.5	1/4残存、色調灰褐色
29		123	D4区	001	暗灰砂土GL-110cm	須恵器	壷	-/12.0/-	口縁1/4残存、色調黒褐色

tab.7 土器観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		地	2区・層位・遺構		遺物の種類	器形	法量(器高/口径/ 底径(cm))	特徵
30		124	D4区	002北半	暗灰砂土GL-40cm		須恵器	坏	6.1/17.0/9.8	1/3残存、色調暗褐色
30		125	D4区	002北半	GL-60cm		須恵器	蓋	1.5/11.0	1/2残存、色調暗褐色
30		126	D4区	002北半	暗灰砂土GL-60cm		須恵器	坏蓋	3.0/14.6	1/2残存、色調明褐色、天井部へラ記号
30		127	D 5区	002	暗褐粘		灰釉陶器	坏	2.4/15.5/8.2	1/4残存、色調釉色黄褐色
30		128	D 5 🗵	002	暗褐粘		須恵器	坏	4.5/12.8/8.4	1/2残存、色調灰色
30		129	D5区	002	暗灰砂土		須恵器	坏	4.7/9.7/6.6	1/2残存、色調黒褐色、内 面に煤付着
30		130	D5区	002	暗灰砂土		須恵器	坏	5.7/15.2/11.1	1/3残存、色調灰色
30		131	D5区	002	暗灰砂土、木簡周辺		須恵器	鉢	-/20.0	1/4残存、色調灰色
30		132	D6区	002	暗灰砂土GL-20cm		須恵器	坏蓋	2.2/14.9	1/2残存、色調灰色
30		133	D6区	002	暗褐粘、下層		須恵器	坏蓋	2.7/15.9	1/3残存、色調灰色
30		134	D6区	002	暗褐粘下層		須恵器	坏	3.6/12.4/7.8	3/4残存、色調灰色
30		135	D6区	002	暗灰砂土		須恵器	坏	5.2/13.7/9.4	1/2残存、色調灰色、内面 に煤付着
30		136	D 7区	002	黑色粘GL-40cm		須恵器	坏	4.4/14.0	1/2残存、色調灰色
30		137	E6⊠		遺構面		須恵器	壺	-/-/10.0	口緣片、色調灰色
30		138	E7区	002	暗褐粘GL-10cm		須恵器	高坏	8.2/15.6/9.3	1/3残存、色調橙色、赤烷 須恵器
30		139	E8区	002	黑色粘GL-50cm		土師器	高坏	11.7/13.6/9.0	3/4残存、色調橙色
31		140	E0区	001	暗褐粘GL-10~30cm		越州窯系青磁	ш	-/15.0/-	1/8残存、釉色暗褐色
31		141	E0区	001	暗褐粘GL-10~30cm		灰釉陶器	碗	-/-/8.0	1/4残存、釉色オリーブ色
31		142	E0区	001	暗灰砂土GL-40~50cm		黑色土器	碗	-/-/8.0	口縁欠損、色調黒色
31		143	E1区	001	暗褐粘GL-10~30cm		須恵器	坏蓋	-/-	口縁片、色調暗灰色
31		144	E1区	001	暗褐粘GL-10~30cm		須恵器	坏蓋	3.2/13.7	1/4残存、色調灰色
31		145	E1区	001	暗灰砂土GL-80~90cm		須恵器	ш	2.4/17.6/13.8	3/4残存、色調灰色
31		146	E1区	001	暗灰砂土GL-80~90cm		須恵器	坏蓋	3.5/10.1	1/2残存、色調灰色、天井 部にヘラ記号
31		147	E2区	001	暗灰砂土GL-60 ⁻ 70cm		須恵器	坏	5.2/12.8/9.0	1/2残存、色調黑灰色
31		148	E2区	001	暗灰砂土GL-60 ⁻ 70cm		須恵器	坏	6.5/14.6/10.7	3/4残存、色調淡黄色
31		149	E2区	001	暗灰砂土GL-60~70cm		須恵器	坏	6.1/16.0/11.0	色調灰白色
31		150	E2区	001	西側整地層		須恵器	碗	6.8/14.8/9.3	7/8残存、色調黄灰色
31		151	E2区	001	暗灰砂土GL-60~70cm		土師器	坏	4.2/17.5	3/4残存、色調明黄褐色
31		152	E 2⊠	001	暗灰砂土GL-60 ⁻ 70cm		土師器	甕	14.5/16.8	1/2残存、色調淡赤橙色
31		153	E3区	001	暗灰粘		須恵器	坏	4.0/10.2/7.2	1/2残存、色調灰色
31		154	E3区	001	暗灰砂土GL-100~110cm		須恵器	坏	5.1/13.4/6.5	1/2残存、色調暗灰色
31		155	E3区	001	暗灰砂土GL100~110cm		須恵器	坏	4.6/14.1/10.2	7/8残存、色調黒灰色
31		156	E3区	001	暗灰砂土GL-100~110cm		須恵器	坏	6.7/14.5/9.3	1/2残存、色調灰色
31		157	E3⊠	001	暗灰粘		須恵器	壺	-/5.0	底部欠損、色調暗灰色
31		158	E3区		暗褐粘		須恵器	壷	-/-/9.0	口縁欠損、色調暗灰色
32	E	1	G10区	0 0 4		NO. 1	須恵器	坏蓋	2.5/18.5	8/7残存、色調淡灰色
32		2	G10⊠	0 0 4		NO.2	須恵器	坏蓋	3.3/18.4	ほぼ完形、色調淡灰色
32		3	G10⊠	0 0 4		NO.3	土師器	鉢	9.1/31.6	ほぼ完形、色調淡黄褐色
32		4	G10⊠	004		NO. 4	土師器	甕	-/26.2	底部欠損、色調橙色

tab.8 土器観察表

				2000 III 2000 X								
挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号			地区・層位・遺構	遺物の種類	器形	法量(器高/口径/ 底径(cm))	特徵			
33		1	E00区	025		須恵器	ш	2.5/11.0/7.0	1/2残存、色調暗灰色			
33		2	E00⊠	025		越州窯系青磁	碗	-/-/8.2	1/3残存、釉色灰オリーブ 色			
33		3	E00⊠	025	11	須恵器	壷	-/-/11.6	底部、色調淡灰色			
33		4	D00区	025	II	須恵器	坏蓋	-/-/-	天井部片、色調淡灰色			
33		5	D00区	025	Ш	須恵器	坏	4.0/13.2/8.2	1/2残存、色調黒灰色			
33		6	D00区	025	П	須恵器	坏	3.7/12.5/7.5	1/2残存、色調灰色			
33		7	D00区	025	п	須恵器	坏	3.4/14.4/9.4	2/5残存、色調淡灰色			
33		8	D00区	025	I	須恵器	ш	2.1/17.2/13.2	1/10残存、色調淡灰色			
33		9	D00区	025	II	須恵器	壺	-/9.4	小片、色調淡灰色			
33		10	D00区	025	П	須恵器	壺	-/12.2	口縁片、色調淡灰褐色			

墨書土器観察表

-						1年几元3人			-
挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		地	区・層位・遺構	遺物の種類	器形	法量(器高/口径/ 底径(cm))	特徵
34	82	1	C4区	002東半	GL-80cm	須恵器	坏	-/-/9.6	底部片、色調灰色、底部墨書「案主」
34	82	2	D 5区	002	暗褐粘	須恵器	坏	-/-/10.3	底部片、色調灰色、底部墨書「案主」
34	82	3	D6区	002	暗褐砂土GL-30cm	須恵器	坏	-/-/9.0	底部片、色調灰色、底部墨書「案主」
34	82	4	D4区	002南半	暗灰砂土GL-40cm	須恵器	坏蓋	-/16.0	天井部片、色調灰色、天井 部墨書「乙猪」
34	82	5	D3~4 間		ベルト2層	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調暗灰色、天 井部墨書「乙猪」
34	82	6	D4区	002北半	暗灰砂土GL-40cm	須恵器	ш	-/-/-	底部片、色調灰色、底部墨 書「乙猪」
34	83	7	C3区	001	暗灰砂土GL-80cm	須恵器	坏	-/-/10.0	底部片、色調灰色、底部墨 書「乙□」
34	83	8	D4区	002南半	暗灰砂土GL-60cm	須恵器	坏	-/-/9.0	底部片、色調暗灰色、底部 墨書「乙猪」
34	83	9	C5区	002	暗灰砂土	須恵器	坏	-/-/-	底部片、色調淡灰色、底部 墨書「乙猪」
34	83	10	D6区	002	暗灰砂土	須恵器	坏蓋	-/-/-	天井部片、色調灰色、天井 部墨書「嶋足」
34	83	11	C6区	002	暗灰砂	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調淡灰色、天 井部墨書「□万」
34	83	12	D6区	002	暗灰砂土	須恵器	ш	-/-/-	底部片、色調淡灰色、底部 墨書「□万」
34	83	13	C6区	002	暗灰砂土	須恵器	坏蓋	-/-/-	天井部片、色調灰色、内面 墨書「鞍手」
35	84	14	C5区	002南東半	暗灰砂土GL-50cm	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調淡灰色、天 井部墨書「嶋カ」
35	84	15	D6区	002	暗灰砂土	須恵器	坏	-/-/9.0	底部片、色調灰色、底部墨書「常石田」
35	84	16	E1⊠	001	暗灰砂土GL-80~90cm	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調灰色、天井 部墨書「刀山□」
35	84	17	C6区	002	GL-30cm	須恵器	坏	-/-/9.2	底部片、色調灰色、底部墨 書「刀山下□」
35	84	18	D6区	002	暗灰砂	須恵器	坏蓋	-/-	底部片、色調灰色、底部墨書「刀山下」
35	85	19	D7区		暗褐粘	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調灰色、天井 部墨書「長山」
35	85	20	C4区	002東半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏	-/-/8.9	底部片、色調灰色、底部墨 書「山□」
35	85	21	E7区		遺構面、暗褐粘	須恵器	ш	-/-/15.2	底部片、色調黄褐色、底部 墨書「□山」
35	85	22	D4~5 間		ベルト2層	須恵器	坏	-/-/8.0	底部片、色調灰色、底部墨書「山」
35	85	23	E0区		鉄滓だまり	須恵器	坏	-/-/7.6	底部片、色調灰色、底部墨 書「田□」
35	85	24	C1区	001	暗褐粘GL-10~30cm	須恵器	坏	-/-/9.0	底部片、色調灰色、底部墨 書「道作」
35	85	25	C 5区	002	暗灰砂	須恵器	坏	-/-/8.0	底部片、色調灰色、底部墨書「道」
35	85	26	D5区		暗灰砂土	須恵器	坏	-/-/7.6	底部片、色調暗灰色、底部 墨書「道カ」
35	86	27	D 5区	002	暗褐粘	須恵器	坏	-/-/-	底部片、色調暗灰色、底部 墨書「□」
35	86	28	D5区		暗灰砂	須恵器	坏	-/-/-	底部片、色調灰色、底部墨書「関」

tab.9 墨書土器観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		爿	也区・層位・遺構	遺物の種類	器形	法量(器高/口径/ 底径(cm))	特徵
36	86	29	D 0 ~ 0 0 間		ベルト中4層、暗青灰砂 GL-100cm	須恵器	坏	3.7/12.9/8.0	底部片、色調灰色、底部墨書「加水作」
36	86	30	H16⊠	044	GL-50cm	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調灰色、天井 部墨書「字」
36	86	31	H15⊠	044	GL-50cm	須恵器	坏蓋	-/-	底部片、色調淡灰色、底部 墨書「字」
36	86	32	D2区	001	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏蓋	2.6/17.8	天井部片、色調灰色、天井 部墨書「善」
36	86	33	D3区	001	暗灰砂土GL-80cm	須恵器	ш	-/2.7	底部片、色調濃灰色、底部墨書「善」
36	87	34	D6区	002	暗褐粘	須恵器	坏	-/-/-	底部片、色調灰色、底部墨書「善力」
36	87	35	D8区		GL-40 ⁻ 50cm	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調灰色、天井 部墨書「作善力」
36	87	36	D6区	002	暗灰砂土	須恵器	坏	-/-/-	底部片、色調淡灰色、底部 墨書「依」
36	87	37	D6区	002	暗灰砂	須恵器	坏	-/-/9.0	底部片、色調灰色、底部墨書「依」
36	87	38	D6区	0021?	暗灰砂土GL-20cm	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調淡灰色、天 井部墨書「福□」
36	87	39	D5区	13-132 Galate 1493	暗褐粘	須恵器	ш	2.1/16.0/13.0	底部片、色調暗灰色、底部
36	87	40	C6区	002	暗灰砂	須恵器	坏	-/-/-	底部片、色調灰色、底部墨書「の」
36	87	41	D5区	002	暗褐粘	須恵器	坏	-/-/-	底部片、色調灰色、底部墨書不明
37	88	42	D5区	002	暗褐粘	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調暗灰色、天 井部墨書「守」
37	88	43	C6区	002	暗灰砂	須恵器	坏	-/-/8.6	底部片、色調灰色、底部墨書「桑」
37	88	44	C 7区	002	暗灰砂土	須恵器	坏	-/-/8.0	底部片、色調淡赤褐色、底 部墨書「太□」
37	88	45	E1区	001	暗灰砂土GL-80~90cm	須恵器	坏	-/-/7.0	底部片、色調灰色、底部墨書「夷カ」
37	88	46	C 5 🗵	002	黑色粘	須恵器	ш	-/-/-	底部片、色調灰色、底部墨書「奈」
37		47	C4区	002北半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏	-/-/9.0	底部片、色調灰色、底部墨 書「少カ」
37		48	D6区	002	暗褐粘下層	須恵器	杯	-/-/7.0	底部片、色調灰色、底面墨 書不明
37		49	D5⊠	002	暗褐粘	須恵器	坏	-/-/10.2	底部片、色調灰色、底部墨書「□」
37	88	50	D3~4 問		ベルト3層	須恵器	ш	-/-/-	底部片、色調灰色、底部墨書不明
37	88	51	E1区	001	暗灰砂土GL-80~90cm	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調灰色、天井 部墨書「三□」
37		52	D5区		暗灰砂	須恵器	坏蓋	-/14.8	天井部片、色調灰色、天井 部墨書「古□□」
37		53	D6区	002	暗褐粘下層	須恵器	坏	4.1/13.0/8.6	底部片、色調暗灰色、底部 墨書不明
37		54	D6区	002	暗灰砂土GL-30cm	須恵器	坏	-/-/8.0	底部片、色調灰色、底部墨書不明
37		55	D4区	002北半	暗灰砂土GL-40cm	須恵器	坏	-/-/8.8	底部片、色調灰色、底部墨痕
37		56	E1区	001	暗灰砂土GL-60 ⁻⁷ 0cm	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調暗灰色、天 井部墨書「□」
37		57	C6区	002	暗灰砂土GL-30cm	須恵器	坏	-/-/-	底部片、色調灰色、底部墨書不明
37		58	D6区	002	暗褐粘	須恵器	坏	-/-/-	底部片、色調灰色、底部墨痕
38		59	D8区	002	暗褐粘GL-40~50cm	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調灰色、天井 部墨書「□」
38		60	D5区	002	暗褐粘	須恵器	坏	-/13.0/-	口縁片、色調灰白色、外面墨痕
38		61	C 4 🗵		暗灰砂土GL-60cm	須恵器	ш	-/-/-	底部片、色調灰色、底部墨痕
38		62	E2区	001	暗灰砂土GL-80~90cm	須恵器	坏	-/-/9.0	底部片、色調灰色、底部墨痕
38		63	E4区		遺構面、暗褐粘	須恵器	坏	-/-/-	底部片、色調灰白色、底部 墨書不明
38		64	F 5 ⊠		遺構面	須恵器	壷	-/-/-	色調灰白色、肩部墨痕
38		65	D5区		暗灰砂土	須恵器	坏蓋	-/-	色調灰色、内面墨痕
38		66	D4区	002北半	暗灰砂土GL-40cm	須恵器	坏	-/-/10.2	色調灰色、底部墨痕
38		67	D5区		遺構面、暗褐粘	須恵器	坏	-/-/10.2	色調淡灰色、底部墨痕
38		68	D7区	002	暗灰砂土GL-30~40cm	須恵器	坏	-/-/7.2	色調灰色、底部墨痕
38		69	C 5 🗵	-manyers ⁽¹⁾ ()	暗灰砂土	須恵器	坏	-/-/11.5	底部片、色調灰色、內面墨痕

tab.10 墨書土器·刻書土器観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		k	也区・層位・遺構	遺物の種類	器形	法量(器高/口径/ 底径(cm))	特徵
38		71	C4区	002東半	暗灰砂土GL-50cm	土師器	坏	-/-/8.0	色調黄褐色、内面墨痕
38		72	D3区	001	暗灰砂土GL-80cm	須恵器	坏	-/-/5.1	底部片、色調灰色、底部墨 痕
39	89	73	E3区		池状遺構、暗灰粘	須恵器	坏蓋	-/-	天井部片、色調灰色、天井 部刻書不明
39	89	74	F 9区		遺構面	須恵器	坏	-/-/10.2	底部片、色調灰白色、底部 刻書「カ」
39	89	75	D 4区	002北半	暗灰砂土GL-30cm	須恵器	坏	-/-/9.2	底部片、色調灰色、底部刻 書「□」
39	89	76	F0区	001	暗青灰粘GL-30cm	土師器	坏	-/16.0/-	口縁片、色調黒色、外面刻書「申」
39	89	77	D3区	001	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏	-/-	底部片、色調淡褐色、底部 刻書「□」
39	89	78	D6区		暗灰砂	土師器	坏	-/-/-	底部片、色調黄褐色、底部 刻書「カ」
39		79	D 5区		暗灰砂土	土師器	坏	-/-/8.0	色調黄褐色、内面墨痕、底 部へラ描

硯観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		H	也区・層位・遺構	遺物の種類	器形	法量(器高/口径/ 底径 (cm))	特徵
40	90	1	D7区	002	暗灰砂土GL-30 ⁻ 40cm	須恵器	砚	-/-/-	取手部、色調暗灰色
40	90	2	H13⊠	044	GL-120cm	須恵器	硯	-/16.8	1/4残存、脚部欠損、色調暗灰色
40		3	E3区	001	暗灰粘	須恵器	坏蓋	-/16.0	色調灰色、内面墨痕
40		4	D5区		暗灰砂土	須恵器	坏蓋	-/-	色調明灰色、内面墨痕
40		5	D5区		暗灰砂土	須恵器	坏蓋	2.1/13.2	色調灰色、内面墨痕
40		6	D6区	002	暗褐粘	須恵器	坏蓋	-/-	色調灰色、内面墨痕と赤色 顔料
40	90	7	D4区	002南半	暗灰砂土GL-40cm	須恵器	坏蓋	2.2/13.4	色調灰色、内面墨痕
40		8	C4区	002東半	暗灰砂土GL-80cm	須恵器	坏蓋	-/-	色調暗灰色、内面墨痕
40		9	D5区		暗褐粘	須恵器	坏蓋	-/14.0	色調灰色、内面墨痕
40		10	D5区	002	暗褐粘	須恵器	坏蓋	-/-	色調暗灰色、内面墨痕
40		11	C 4 🗵	002東半	暗灰砂土GL-60cm	須恵器	坏蓋	2.0/13.0	色調暗灰色、内面墨痕
40		12	C3区	001東半	青灰粗砂GL-50cm	須恵器	坏蓋	-/14.2	色調灰色、内面墨痕
40		13	C5区	002南半	暗褐粘	須恵器	坏蓋	-/16.2	色調暗灰色、内面墨痕
40		14	C6⊠	002	暗灰砂土	須恵器	坏蓋	-/15.6	色調淡灰色、内面墨痕
41		15	D5区		暗灰砂土	須恵器	坏蓋	-/15.0	色調暗灰色、内面墨痕
41		16	E7⊠		遺構面	須恵器	坏蓋	-/14.2	色調淡灰色、内面墨痕
41		17	E7⊠		遺構面	須恵器	坏蓋	-/-	色調灰色、内面墨痕
41		18	D 4区	002北半	暗灰砂土GL-40cm	須恵器	坏蓋	-/12.7	色調灰色、内面墨痕
41		19	C5区	002南半	暗灰砂土GL-70cm	須恵器	坏蓋	-/14.2	色調灰色、内面墨痕
41		20	D3~4 間		ベルト3層	須恵器	坏蓋	-/14.0	色調灰色、内面墨痕
41		21	C5区	002	暗灰砂土	須恵器	坏蓋	-/-	色調灰色、内面墨痕
41		22	D5区	002	暗褐粘	須恵器	坏蓋	-/13.9	色調暗灰色、内面墨痕
41	90	23	D5区		暗褐粘	須恵器	坏蓋	-/18.4	色調灰黒色、内面墨痕
41		24	D5区		暗灰砂土	須恵器	坏蓋	-/18.0	色調暗灰色、内面墨痕
41		25	D5区	002	暗褐粘	須恵器	坏蓋	-/-	色調暗灰色、内面墨痕
41		26	D4区	002南半	暗灰砂土GL-60cm	須恵器	坏蓋	-/-	色調淡灰色、内面墨痕
42		27	D 5区		暗褐粘	須恵器	坏蓋	-/19.2	色調灰色、内面墨痕
42		28	C3区	001	暗灰砂土GL-60 ⁻ 70cm	須恵器	坏蓋	-/21.0	色調灰黒色、内面墨痕
42		29	E 7区		遺構面	須恵器	坏蓋	-/-	色調淡灰色、内面墨痕

tab.11 硯観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		Ħ	也区・層位・遺構	遺物の種類	器形	法量(器高/口径/ 底径(cm))	特徵
42		30	D4区	002北半	暗灰砂土GL-40cm	須恵器	坏蓋	-/16.0	色調灰色、天井部墨痕
42		31	C5区	002	暗灰砂土	須恵器	坏蓋	-/15.2	色調暗灰色、内面墨痕
42		32	E 7⊠		遺構面	須恵器	坏蓋	-/14.6	色調灰色、天井部墨痕
42		33	D5区		暗灰砂土	須恵器	坏蓋	-/-	色調暗灰色、内面墨痕
42		34	C7区	002	暗灰砂土GL-30~40cm	須恵器	坏蓋	-/14.0	色調淡灰色、天井部墨痕
42		35	C6区	002東半	暗褐粘	須恵器	坏蓋	-/-	色調灰黒色、内面墨痕
42		36	D 4区	002北半	暗灰砂土GL-40cm	須恵器	坏	-/-/-	色調灰白色、底部墨痕
42		37	D5区	002北半	暗灰砂土GL-30cm	須恵器	ш	-/-/-	色調灰色、内面墨痕

陶磁器類観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		北	セ区・層位・遺構	遺物の種類	器形	法量(器高/口径/ 底径 (cm))	特徵
57		1	C6区	002	暗灰砂土GL-30cm	緑釉陶器	碗	-/-/-	口縁片、釉色淡オリーブ色、 胎土灰白色
57	1,	2	E3区		遺構面、暗褐粘	緑釉陶器	碗	-/-/-	口線片、釉色淡緑褐色、胎土淡黄褐色
57		3	D4区	002南半	暗褐粘GL-30cm	緑釉陶器	碗	-/-/6.7	底部片、釉色深緑色、胎土灰色
57		4	E7区		遺構面	緑釉陶器	碗	-/-/7.5	底部片、釉色緑灰色、胎土 淡灰色
57		5	E8⊠		暗褐粘	緑釉陶器	碗	-/-/7.0	底部片、釉色淡緑色、胎土 淡緑色
57		6	E 7区	002	暗褐粘GL-10cm	緑釉陶器	碗	-/-/8.8	底部片、釉色淡緑色、胎土 灰色
57		7	E1区	001	暗灰砂土GL-40°50cm	緑釉陶器	碗	-/-/8.3	底部片、釉色深緑色、胎土 淡灰色
57		8	C7区	002	暗灰砂土GL-30cm	緑釉陶器	碗	-/-/7.2	底部片、釉色淡オリーブ色、 胎土淡灰色
57		9	E8区	002南半	暗褐粘	緑釉陶器	碗	-/-/8.2	底部片、釉色淡オリーブ色、 胎土淡灰色
57		10	E6⊠		遺構面	緑釉陶器	碗	-/-/7.0	底部片、釉色緑色、胎土淡 灰色
57		12	E 5 ⊠		遺構面	灰釉陶器	碗	-/-/-	口縁片、釉色灰色
57		13	F9区		遺構面	灰釉陶器	碗	-/-/-	口縁片、釉色黄灰色、胎土 灰色
57		14	F7区		遺構面	灰釉陶器	碗	-/-/-	口縁片、釉色淡灰緑色、胎 土灰白色
57		15	E4区		遺構面、暗褐粘	灰釉陶器	碗	-/-/7.6	底部片、釉色緑灰色
57		16	E7⊠		遺構面、暗褐粘	灰釉陶器	碗	-/-/7.6	底部片、釉色灰緑色
57		17	E 7⊠		遺構面、暗褐粘	灰釉陶器	碗	-/-/6.8	底部片、釉色明緑色
57		18	E 4⊠		遺構面、暗褐粘	灰釉陶器	碗	-/-/8.0	底部片、釉色灰緑色
57	3	19	F6⊠		遺構面	灰釉陶器	碗	-/-/7.0	底部片、釉色淡灰緑色、胎 土灰白色
57		20	E4区		遺構面、暗褐粘	灰釉陶器	碗	-/-/-	釉色淡灰緑色
57		21	F9区		遺構面	灰釉陶器	鉢	-/-/14.0	底部片、釉色黄緑色
57		22	F9区		遺構面	灰釉陶器	蓋	-/-/-	口縁片、釉色黄緑色、胎土 灰色
58		23	E2区	001	暗灰砂土GL-40~50cm	越州窯系青磁	碗	-/17.0/-	口縁片、釉色淡オリーブ色
58		24	D3区	001	暗褐粘GL-40~50cm	越州窯系青 磁	碗	-/17.0/-	口線片、釉色淡黄緑色
58		25	E7区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青 磁	碗	-/15.6/-	口縁片、釉色灰オリーブ色
58		26	E8区		暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/-	口縁片、釉色緑褐色
58		27	E 7区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/-	口縁片、釉色淡黄褐色
58		28	E3区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/-	口縁片、釉色淡オリーブ色
58		29	E3区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/-	口緣片、釉色緑灰色
58		30	E3区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/-	口縁片、釉色淡灰緑色
58		31	E8区		遺構面	越州窯系青磁	碗	-/-/5.8	底部片、釉色淡緑褐色

tab.12 陶磁器類観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		地区	(-層位·遺構	遺物の種類	器形	法量(器高/口径/ 底径(cm))	特徵
58		32	E7区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/5.7	底部片、釉色淡オリーブ色
58		33	E11⊠		遺構面	越州窯系青磁	碗	-/-/6.0	底部片、釉色灰オリーブ色
58		34	E7⊠ 00	02	暗褐粘GL-10cm	越州窯系青磁	碗	-/-/5.8	底部片、釉色淡オリーブ色
58		35	E4区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/5.7	底部片、釉色灰オリーブ色
58		36	E4区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/6.0	底部片、釉色淡灰色
58		37	F7区		遺構面	越州窯系青磁	碗	-/-/6.7	底部片、釉色灰緑色
58		38	E3区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/9.5	底部片、釉色淡オリーブ色
58		39	E3区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/7.6	底部片、釉色オリーブ色
58		40	E3区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/7.2	底部片、釉色灰オリーブ色
58		41	E6区		遺構面	越州窯系青磁	碗	-/-/10.0	底部片、釉色緑灰色
59		42	E4区		遺構面	越州窯系青磁	碗	-/-/7.0	底部片、釉色緑灰色
59		43	E5区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/7.2	底部片、釉色灰オリーブ色
59		44	E6区		遺構面	越州窯系青磁	碗	-/-/8.6	底部片、釉色緑灰色
59		45	D1⊠ 00	01	暗褐色GL-10~30cm	越州窯系青磁	碗	-/-/7.6	底部片、緑褐色
59		46	E0⊠ 00	01	暗褐粘GL-10~30cm	越州窯系青磁	碗	-/-/8.0	底部片、釉色オリーブ色
59		47	E0区 00	01	暗褐粘GL-10~30cm	越州窯系青磁	碗	-/-/7.2	底部片、釉色灰緑褐色
59		48	D1区 00	01	暗褐粘GL-10~30cm	越州窯系青磁	碗	-/-/8.0	底部片、灰緑色
59		49	E3区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/9.1	底部片、釉色淡オリーブ色
59		50	E8区		暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/7.1	底部片、釉色灰オリーブ色
59		51	E7区		遺構面	越州窯系青磁	碗	-/-/6.4	底部片、釉色淡灰オリーブ 色
59		52	E3区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/8.2	底部片、釉色灰緑色
59		53	C4区 00	02	暗褐粘GL-10~20cm	越州窯系青磁	碗	-/-/7.6	底部片、釉色灰オリーブ色
59		54	E3区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/6.4	底部片、釉色灰オリーブ色
59		55	E4区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/6.2	底部片、釉色灰白色
59		56	E5区		遺構面	越州窯系青磁	碗	-/-/6.0	底部片、釉色灰オリーブ色
60		57	E2⊠ 00	01	暗褐粘GL-10~30cm	越州窯系青磁	碗	-/-/7.4	底部片、釉色黄緑褐色
60		58	E6区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/8.0	底部片、釉色淡緑灰色
60		59	E6区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/7.5	底部片、釉色灰白色
60		60	D5区		暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/8.0	底部片、釉色クリーム色
60		61	E2⊠ 00	01	暗灰砂土GL-40°50cm	越州窯系青磁	碗	-/-/9.0	底部片、釉色淡灰オリーブ 色
60		62	F9区		遺構面	越州窯系青磁	碗	-/-/7.2	底部片、釉色緑褐色
60		63	E3区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/7.8	底部片、釉色淡オリーブ色
60		64	E7区		遺構面	越州窯系青磁	碗	-/-/5.7	底部片、釉色淡オリーブ色
60		65	E6区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/-/-	底部片、釉色灰オリーブ色
60		66	E5区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/15.2/-	口縁片、釉色淡緑灰色
60		67	E 4区		遺構面、暗褐粘	越州窯系青磁	碗	-/16.8/-	口縁片、釉色淡オリーブ色
60		68	F6区		遺構面	越州窯系青磁	碗	-/-/-	口縁片、釉色淡灰オリーブ 色
60		69	D5区		暗褐粘	越州窯系青磁	ш	-/-/7.6	底部片、釉色淡緑褐色
60		70	D4区 00	02南半	暗灰砂土GL-30~40cm	越州窯系青磁	ш	3.5/14.6/6.9	釉色淡オリーブ色
60		71	E8区		暗褐粘	越州窯系青磁	ш	-/-/6.0	底部片、釉色緑褐色
60		72	D4区 00	02南半	暗灰砂土GL-30cm	越州窯系青磁	蓋	-/-/-	口縁片、釉色淡オリーブ色

tab.13 陶磁器類観察表

挿図 図版 (Fig.) (PL.)		番号	地区・層位・遺構			遺物の種類	器形	法量(器高/口径/ 底径(cm))	特徵	
60		73	D6区		暗褐粘	褐釉陶器	壷	-/-/-	楠葉型、色調灰黒色	
61		74	D2区	001	暗褐色GL-10~20cm	白磁	碗	-/18.0/-	口縁片、黄灰色	
61		75	D0区	001	暗褐粘GL-10~30cm	白磁	碗	-/15.4/-	口縁片、灰白色	
61		76	E 3区		遺構面、暗褐粘	白磁	碗	-/-/-	口縁片、釉色黄灰白色	
61		77	D0区	001	暗褐粘GL-10~30cm	白磁	碗	-/-/-	口縁片、青緑色	
61		78	E 5区		遺構面	白磁	碗	-/14.2/-	口縁片、釉色淡灰オリーブ 色	
61		79	E4区		遺構面、暗褐粘	白磁	碗	-/-/6.6	底部片、釉色灰白色	
61		80	E5区		遺構面、暗褐粘	白磁	壷	-/8.5/-	口線片、釉色黄白色	
61		81	E 7区		遺構面、暗褐粘	白磁	壷	-/6.8/-	口縁片、釉色淡灰ベージュ 色	
61		82	E 4 🗵		遺構面、暗褐粘	黒色土器	碗	-/-/-	口線片	
61		83	E5区		遺構面	黒色土器	碗	-/-/6.0	底部片	
61		84	E 4区		遺構面、暗褐粘	黑色土器	碗	-/-/-	底部片	
61		85	D0区	001西半	暗褐粘GL-40cm	瓦器	碗	5.0/14.3/5.8	楠葉型、色調灰黒色	
61		86	D0区	001	暗褐粘GL-10~30cm	瓦器	碗	-/14.0/-	楠葉型、色調灰黒色	
61		87	D0区	001	暗褐粘GL-10~30cm	瓦器	碗	-/14.2/-	楠葉型、色調灰黒色	
61		88	E0区	001	暗褐粘GL-10~30cm	瓦器	碗	-/14.4/-	楠葉型、色調灰黒色	
61		89	E1区	001	暗褐粘GL-10~30cm	瓦器	碗	-/-/-	楠葉型、色調灰黒色	
61		90	E3⊠		遺構面、暗褐粘	瓦器	碗	-/-/-	楠葉型、色調灰黒色	
61		91	E4区		遺構面、暗褐粘	瓦器	碗	-/-/-	楠葉型、色調灰黒色	
61		92	E3区		遺構面、暗褐粘	瓦器	碗	-/-/-	楠葉型、色調灰黒色	

tab.14 木製品観察表

挿図	図版	番号		地区・層位・	tab.14	器形	最き (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存率	備考
(Fig.)	(PL.)	1257/0400	D4区南半	5595	暗灰砂土	100000	500	10 mm	200	ほぼ完形	Nes G
43	91	7		002	GL-60cm 暗灰砂土	糸巻き	12.1	3.2	150000	A STATE OF THE STATE OF T	
43	91	2	C4区北半	002	GL-60cm	糸巻き	10.6	3.2	1.5	ほぼ完形	
43	91	3	D5区	002	暗褐粘	糸巻き	7.5	2.5	1.5	一部欠損	
43	91	4	E1区	001	暗灰砂土 GL-60~70cm	糸巻き	15.9	3.0	0.9	ほぽ完形	
43	91	5	D4区北半	002	暗灰砂土 GL-40cm	糸巻き	14.1	2.5	0.9	完形	
43		6	C~D4⊠	ベルト3層		火鑽臼	(10.2)	3.0	0.8	一部残存	工具痕あり、焼跡 あり
43	91	7	D3区	001	暗灰砂土 GL-110cm	火鑽臼	13.0	2.6	0.9	一部欠損	焼跡あり
43	91	8	?東半	002	暗灰砂土 GL-30cm	火鑽臼	14.7	3.4	1.0	一部欠損	焼跡あり
43		9	D6区	002	?	火鑽臼	24.7	2.2	1.8	一部欠損	焼跡あり
43	91	10	C5区南東半	002	暗灰砂土	火鑚臼	13.1	2.4	1.9	少量欠損	焼跡あり
43		11	C~D4⊠	ベルト3層		火鑽臼	(10.9)	1.7	1.3	一部欠損	120
43	91	12	C7区	002	暗灰砂土 GL-30~40cm	火鑽臼	9.1	0.8	1.2	一部欠損	焼跡あり
43	91	13	D6区	002	暗褐粘 GL-10cm	火鑽臼	13.1	2.0	1.4	ほぼ完形	焼跡あり
43		14	C7区	002	暗灰砂土 GL-30~40cm	火鑽臼	15.4	2.45	1.8	一部欠損	焼跡あり
43	91	15	D2区	001	暗灰砂土 GL-80~90cm	刳物	長径 14.1	短径(5.4)	高さ 3.7	一部残存	形状不明
43		16	C0区	001	暗灰砂土 GL-60~70cm	刳物	長径 24.0	短径 18.0	高さ(8.05)	口縁部欠損	底面に径4.0cmの 穿孔あり
44	92	17	C6⊠	002	暗灰砂土	琴柱	2.6	3.6	0.7	ほぼ完形	
44	92	18	D4区北半	002	暗灰砂土 GL-50cm	櫛	(5.2)	(6.0)	1.3	約1/2残存	櫛目39本
44	92	19	H13⊠	044	GL-100cm	下駄	25.1	10.9	5.2	一部欠損	
44	92	20	E3区	遺構面		下駄	(19.9)	(8.6)	3.2	一部欠損	
44	92	21	D5区	002	暗褐色粘質土	下駄	21.3	(5.9)	2.6	約1/2残存	
45	93	22	D4区	002 (南半)	暗灰砂土 GL-70cm	舟形	23.4	3.2	3.6	完形	
45	93	23	D3~4⊠	ベルト3層		舟形	16.2	4.7	3.0	完形	
45	93	24	D3~4⊠	ベルト3層		舟形	18.1	2.6	2.5	完形	
45	94	25	D4区北半	002	暗灰砂土 GL-60cm	舟形	20.9	5.2	5.1	ほぼ完形	工具による深い削 りあり、樹皮残存
45	94	26	D3区	001	暗灰砂土 GL-100cm	舟形	20.1	4.4	4.5	ほぼ完形	
45		27	D3区	001	暗灰砂土 GL-100cm	舟形	22.2	3.2	3.1	少量欠損	
45	94	28	D4⊠	002	暗灰砂土 GL-70cm	舟形	19.4	3.2	2.9	ほぼ完形	2片接合、樹皮残 存
46	95	29	C5区南東半	002	暗灰砂土 GL-50cm	舟形	22.5	2.9	2.8	完形	樹皮残存
46	95	30	C5区北東半	002	暗灰砂土	舟形	17.5	2.9	2.6	完形	
46	95	31	C1区	001	暗灰砂土 GL-60~70cm	舟形	21.4	3.8	3.9	少量欠損	2片接合、樹皮残 存
46	95	32	D3区	001	暗灰砂土 GL-90cm	舟形	16.9	3.6	3.0	少量欠損	
46	95	33	D3⊠	001	暗灰砂土 GL-80cm	舟形	11.7	4.0	4.1	ほぼ完形	
46		34	D3区	001	暗灰砂土 GL-90cm	舟形	(10.2)	3.15	2.6	一部欠損	
46		35	D3区	001	暗灰砂土 GL-90cm	舟形	(8.2)	2.75	2.55	一部欠損	

tab.15 木製品観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		地区・層位・	遺構	器形	観祭衣 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存率	備考
(Fig.) 46	(PL.)	36	C4区北半	002	暗灰砂土 GL-60cm	舟形	10.8	2,1	1.2	ほぼ完形	10000
46		37	D3区	001	暗灰砂土	舟形	16.2	3.4	3.1	ほぼ完形	樹皮残存
46		38	C2区	001	GL-60~100cm 暗灰砂土 GL-60~80cm	舟形	19.2	3.7	3.7	ほぼ完形	2片接合、樹皮残 存
47		39	C2区	001	暗灰砂土 GL-60~80cm	舟形	15.0	2.7	2.5	ほぼ完形	17
47		40	D3区	001	暗灰砂土 GL-80cm	舟形	12.8	2.7	1.9	一部欠損	2片接合、樹皮残 存
47	95	41	C5区北半	002	暗灰砂土	舟形	11.4	3.3	2.5	ほぽ完形	17
47	96	42	D3区	001	暗灰砂土 GL-90cm	舟形	18.5	4.9	3.8	少量欠損	
47	96	43	E2区	001	暗灰砂土 GL不明	舟形	19.3	4.1	4.5	ほぼ完形	樹皮残存
47		44	D3区	001	暗灰砂土 GL-90cm	舟形	17.0	3.5	3.2	ほぼ完形	2片接合、樹皮残 存
47	96	45	C5区南東半	002	暗灰砂土	男根状木製品	12.3	2.9	2.7	ほぽ完形	
47	96	46	D4⊠	002 (南半)	暗灰砂土 GL-70cm	人形	19.1	6.1	6.1	完形	
48	97	47	E3区	001	暗褐色	横槌状木製 品(人形か)	13.6	4.4	4.1	完形	樹皮残存
48	97	48	E3区	001	暗灰粘	横槌状木製 品(人形か)	14.0	4.0	3.4	少量欠損	
48	97	49	D4区北半	002	暗灰砂土 GL-40cm	横槌状木製 品(人形か)	14.5	5.2	4.1	少量欠損	
48		50	D3区	001	暗灰砂土 GL-80cm	横槌状木製 品(人形か)	15.4	3.4	3.2	ほぽ完形	
48	97	51	C~D4⊠	ベルト4層		横槌状木製 品(人形か)	17.0	5.9	4.0	少量欠損	
48		52	D3区	001	暗灰砂土 GL-90cm	横槌状木製 品(人形か)	(14.8)	7.9	5.2	一部欠損	
48		53	D3区	001	暗灰砂土 GL-90cm	横槌状木製 品(人形か)	15.0	3.7	2.9	一部欠損	
48	97	54	D3区	001	暗灰砂土 GL-90cm	横槌状木製 品(人形か)	16.7	4.4	4.25	少量欠損	
48	97	55	D3区	001	暗灰砂土 GL-100cm	横槌状木製 品(人形か)	18.2	5.3	5.3	少量欠損	2片接合
48	97	56	D4区北半	002	暗灰砂土 GL-40cm	横槌状木製 品(人形か)	18.4	2.6	2.7	一部欠損	
48	97	57	D4区南半	002	暗灰砂土 GL-70cm	横槌状木製 品(人形か)	15.6	6.4	5.1	完形	
48	97	58	C6区	002	暗灰砂土 GL-30cm	横槌状木製 品(人形か)	18.2	4.7	3.8	完形	
48		59	D5⊠	002	暗灰砂土	横槌状木製 品(人形か)	18.7	4.0	3.5	一部欠損	2片接合
48	97	60	D3区	001	暗灰砂土 GL-80cm	横槌状木製 品(人形か)	19.5	4.9	4.3	ほぽ完形	2片接合
48	97	61	D3区	001	暗灰砂土 GL-80cm	横槌状木製 品(人形か)	19.1	4.1	4.2	少量欠損	
48	97	62	D3区	001	暗灰砂土 GL-90cm	横槌状木製 品(人形か)	19.3	4.0	3.0	一部欠損	2片接合
48	97	63	C2区	001	暗灰砂土 GL-60~80cm	横槌状木製 品(人形か)	20.8	3.9	3.6	一部欠損	全体的に表面剥落
49	97	64	D4区南半	002	暗灰砂土 GL-60cm	横槌状木製 品(人形か)	21.4	6.0	4.1	完形	
49	97	65	D4区南半	002	暗灰砂土 GL-70cm	横槌状木製 品(人形か)	24.0	6.1	3.5	ほぼ完形	
49	97	66	D4区南半	002	暗灰砂土 GL-60cm	横槌状木製 品(人形か)	22.4	4.3	3.9	ほぽ完形	
49	92	67	D6区	002	暗褐粘 GL-10cm	鳴鏑	4.7	2.6	2.5	少量欠損	
49	92	68	E4⊠	溝状遺構		鳴鏑	4.7	3.9	3.7	ほぽ完形	
49	92	69	D3区	001	暗褐粘 GL-60cm	鳴鏑	5.0	2.4	2.5	少量欠損	

tab.16 金属器観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号	地区·層位·遺構			遺物の種類	器形	法量(長さ/幅/厚さ (cm))
52	98	1	C4区	002	南半、暗灰砂土	銅製品	丸鞆	3.9/2.6/0.8
52	98	2	E8区	002	暗褐色粘	銅製品	丸鞆	2.3/1.5/0.1
52	98	3	D6区	002	暗褐色粘	銅製品	巡方	3.1/2.3/0.4
52	98	4	D5区	002	暗灰砂土	銅製品	巡方	3.1/1.5/0.6
52	98	5	D5区	002	暗灰砂土	銅製品	権	2.8/3.4/97g (重さ)
52	98	6	C4区	002	南半、暗灰砂土 GL-50cm	銅製品	銅鋺	3.0/3.0/0.3
52	98	7	E 5 ⊠		柱穴中	銅製品	銅鏡	-/-
52		8	E6⊠		遺構面	銅製品	蓋 (銅製品)	-/9.0
52		9	C6区	002	暗灰砂土	銅製品	銅製の蓋	-/17.4
52	98	10	E1区	001	暗褐粘 GL-10~30cm	銅製品	不明銅製品	2.8/2.7/0.1
52	98	11	C3区	001	東半、青灰粗砂 GL-50cm	銅製品	不明銅製品	3.9/2.5/0.2
52	98	12	C3区	001	東半、青灰粗砂 GL-50cm	銅製品	飾金具?	3.8/3.8/0.1
52		13	C3区	001	暗灰砂土 GL-80cm	鉄製品	不明鉄製品	2.9/2.5/0.1
52	100	14	C5区	002	南東半、暗灰砂土 GL-50cm	銅製品	刀装具	3.8/0.8/0.4
52	98	15	C3区	001	暗灰砂土 GL-80cm	銅製品	銅釧	6.8/0.4/0.2
53	98	16	C4区	002	東半、暗灰砂土 GL-80cm	銅製品	銅釧	6.5/0.4/0.3
53		17	E2区		暗褐粘 GL-30cm	鉄製品	鉄鏃	13.2/1.3/0.2
53	99	18	D3区	001	暗褐色粘 GL-40~50cm	鉄製品	鉄鏃	11.6/1.3/0.2
53	99	19	C2区	001	暗灰砂土 GL-60~80cm	鉄製品	鉄鏃	12.0/1.8/0.2
53	99	20	D4区	002	南半、暗灰砂土	鉄製品	鉄鏃	12.7/1.4/0.3
53		21	D5区		暗褐粘	鉄製品	鉄鏃	6.9/2.2/0.2
53	99	22	D5区	002	暗褐色粘	鉄製品	鉄鏃	8.7/3.2/0.2
53	99	23	C3区	001	暗灰砂土 GL-60~70cm	鉄製品	鉄鏃	14.0/0.7/0.5
53	99	24	D5区	001	暗褐色粘	鉄製品	鉄鏃	8.7/0.8/0.4
53		25	D4区	002	北半、暗灰砂土 GL-50cm	鉄製品	鉄鏃	7.4/0.3/0.3
53		26	D4区	002	暗灰砂土 GL-60cm	鉄製品	鉄鏃	6.9/0.3/0.3
53		27	D5区	002	暗灰砂土 GL-70cm	鉄製品	鉄鏃	9.1/0.5/0.3
53		28	C4区	002	東半、暗灰砂土 GL-50cm	鉄製品	鉄鏃	7.1/0.5/0.3
53		29	C4区	002	南半、暗灰砂土 GL-60cm	鉄製品	鉄鏃	8.7/0.4/0.3
53		30	D5区		暗褐粘	鉄製品	鉄鏃	9.2/0.5/0.2
53		31	E3区		池状遺構、暗褐粘	鉄製品	鉄鏃	9.4/0.4/0.3
53		32	C6区	002	暗灰砂土 GL-30cm	鉄製品	鉄鏃	3.6/0.6/0.3

tab.17 金属器観察表

挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		地区・層	Service for similarity and the Service	定偶	器形	法量 (長さ/幅/厚さ (cm))
53	2810708	33	C5区	002	南半、暗灰砂土 GL-70cm	鉄製品	鉄鏃	6.5/0.5/0.5
53		34	C4区	002	北半、暗灰砂土 GL-80cm	鉄製品	鉄鏃	6.3/0.5/0.3
53		35	C4区	002	東半、暗灰砂土 GL-50cm	鉄製品	鉄鏃	5.6/0.7/0.2
53	99	36	D1区	001	暗褐色粘 GL-10cm	鉄製品	鉄鏃	15.4/4.6/0.3
53	99	37	D3区	001	遺構面	鉄製品	鉄鏃	13.2/5.0/0.3
54	99	38	D4区	002	南半	鉄製品	刀子	18.4/1.5/1.3
54	99	39	D5区	002	暗灰砂土	鉄製品	刀子	11.6/1.0/0.2
54		40	D6区	002	暗灰砂土	鉄製品	刀子	9.3/1.4/0.5
54	99	41	D3区	001	暗灰砂土 GL-90cm	鉄製品	刀子	10.8/1.2/0.3
54	99	42	C4区	002	南半、暗灰砂土 GL-60cm	鉄製品	刀子	8.7/1.0/0.2
54		43	C5区	002	北半、暗灰砂土	鉄製品	刀子	9.4/0.8/0.3
54		44	C 5 🗵	002	北半、暗灰砂土	鉄製品	刀子	5.7/0.9/0.2
54	99	45	C6区	002	暗灰砂土 GL-20cm	鉄製品	刀子	10.9/0.7/0.5
54	99	46	C3区	001	暗灰砂土 GL-80cm	鉄製品	刀子	13.6/1.1/0.3
54	99	47	D2区	001	暗褐粘 GL-40cm	鉄製品	刀子	7.1/0.7/0.2
54		48	E2区	001	暗灰砂土 GL-60~70cm	鉄製品	鎌	13.6/2.8/0.4
54		49	D3区	001	暗灰砂土 GL-120cm	鉄製品	刀子	5.5/2.2/0.3
54		50	C4~5間		ベルト、4層	鉄製品	含薬	7.3/2.0/0.2
54		51	D4~5間		ベルト、2層	鉄製品	金藤	9.7/2.9/0.3
54		52	D5⊠		暗灰砂土	鉄製品	л	11.9/3.1/0.3
55	100	53	D5区		暗褐色粘	鉄製品	\$T	11.6/0.6/0.5
55	100	54	D4区	002	南半、暗褐粘	鉄製品	釘	8.3/0.8/0.7
55	100	55	D4区	002	南半、暗灰砂土 GL-50cm	鉄製品	\$T	9.6/0.4/0.4
55	100	56	D4区	002	南半、暗灰砂土 GL-30cm	鉄製品	\$T	9.3/0.8/0.4
55		57	E2区	001	試掘トレンチベルト	鉄製品	釘	8.3/0.5/0.4
55	100	58	D4区	002	南半、暗褐粘	鉄製品	\$T	7.6/0.8/0.7
55	100	59	E8区	002	GL-50cm	鉄製品	\$T	7.9/1.0/0.8
55	100	60	D4区	002	南半、暗灰砂土 GL-50cm	鉄製品	釘	5.4/0.4/0.4
55	100	61	D3~4間		ベルト、1層	鉄製品	釘	4.0/0.7/0.6
55	100	62	C4区	002	東半、暗灰砂土 GL-50cm	鉄製品	釘	5.4/0.7/0.6
55	100	63	D4区		暗褐粘	鉄製品	釘	8.0/0.8/0.5
55	100	64	E 4⊠		遺構面、暗褐粘	鉄製品	\$T	6.0/0.8/0.4

tab.18 金属器観察表

G Second	Carpon 100		T		tab.18 ∄	企偶 在	T	1
挿図 (Fig.)	図版 (PL.)	番号		地区・	層位・遺構	遺物の種類	器形	法量 (長さ/幅/厚さ (cm))
55	100	65	E4区		遺構面、暗褐粘	鉄製品	釘	6.9/0.6/0.6
55	100	66	F 5 🗵		遺構面	鉄製品	ŝŢ	7.3/0.8/0.6
55		67	E1⊠	001	暗灰砂土 GL-80~90cm	鉄製品	釘	8.4/0.4/0.3
55	100	68	D 4区	002	南半、暗褐粘 GL-30cm	鉄製品	釘	6.0/0.4/0.4
55	100	69	D4区	002	南半、暗褐粘 GL-30cm	鉄製品	釘	4.9/0.5/0.5
55	100	70	D4区	002	南半、暗褐粘 GL-30cm	鉄製品	釟	5.1/0.3/0.3
55	100	71	D5区	002	南半、暗褐砂土	鉄製品	釘	9.1/0.3/0.3
55	100	72	D2区	001	暗灰砂土 GL-80cm	鉄製品	ŝŢ	7.4/0.4/0.3
55	100	73	D4区	002	南半、暗褐粘 GL-30cm	鉄製品	釘	4.7/0.4/0.4
55	100	74	D4区	002	北半、暗灰砂土 GL-40cm	鉄製品	釘	4.4/1.0/0.4
55	100	75	D4区	002	北半、暗灰砂土 GL-40cm	鉄製品	\$T	5.8/0.4/0.2
55		76	D6区	002	暗灰砂土 GL-20cm	鉄製品	釘	6.7/0.5/0.5
55	100	77	C5区	002	暗灰砂土	鉄製品	釘	5.1/0.4/0.3
55		78	C4区	002	南半、暗灰砂土 GL-70cm	鉄製品	\$ T	2.8/0.5/0.2
55		79	E4区	001	暗灰砂土 GL-20~30cm	鉄製品	釘	4.0/0.4/0.4
55		80	C4区	002	東半、暗灰砂土 GL-50cm	鉄製品	釘	2.5/0.5/0.4
55	100	81	D4区	002	北半、暗灰砂土 GL-40cm	鉄製品	\$T	4.3/0.3/0.3
55	100	82	E 5 ⊠		遺構面、暗褐粘	鉄製品	釟	4.0/1.1/0.6
55	100	83	D6区	002	暗灰砂土 GL-30cm	鉄製品	釘	4.1/0.4/0.4
55		84	C4区	002	東半、暗灰砂土 GL-50cm	鉄製品	\$T	2.5/0.2/0.2
56	100	85	C3区	001	暗灰砂土 GL-100cm	鉄製品	鉄斧形模造品	8.8/3.9/0.1
56		86	C3区	001	暗灰砂土 GL-60~70cm	鉄製品	刀子形模造品	13.6/2.1/0.1
56		87	C6区	002	暗灰砂土	鉄製品	不明鉄製品	5.8/3.8/0.4
56	100	88	D3区	001	暗灰砂土 GL-70cm	鉄製品	不明鉄製品	8.8/0.1/0.1
56	100	89	D4区	002	北半、暗褐粘	鉄製品	不明鉄製品かぎ状	4.2/0.3/0.4
56		90	D4区	001	土手、北側杭列付近出 土鉄器	鉄製品	不明鉄製品	2.5/1.4/0.3
56		91	E4区		遺構面、001西側遺構 面	鉄製品	刀子	5.4/0.7/0.3
56		92	D 5区	002	暗褐粘	鉄製品	不明鉄製品	11.0/3.6/1.3
56	100	93	D7区	002	暗褐粘	鉄製品	棒状不明品	4.6/0.3/0.3
56		94	E 5区		遺構面、暗褐粘	銅製品	耳環	2.2/0.5/0.7
56		95	18区		遺構面	鉄製品	耳環	3.2/0.5/0.6

6. 小 結

今回の報告では整理の関係から、古代の遺構(掘立柱建物跡、池状遺構)・遺物を中心に報告した。 古墳時代以前については次刊で報告し、今回報告分を含めて総括するが、ここでは古代の遺構、遺物 の概要を簡単に触れ、小結としたい。

古代の遺構

古代の主な遺構は池状遺構SX001と掘立柱建物跡(倉庫)である。倉庫群は東側の浅い谷部と西側の丘陵に挟まれた幅約30m程の整地面の上に造られており、南側についてはSX001より上流には配置されない。北側は削平のため、不明確だが、南北長60m程度の範囲に約30棟余りが分布する。遺構の配置状況などから東側の谷部分を堰きとめて流路を更に東側にずらし、西側の丘陵裾を削ってそれ以前の居住域を埋め立てて倉庫群を配置したと考えられる。倉庫群を区画する溝や柵等は検出されていないが、倉庫群はある程度柱筋を揃えて、2~3の列状を呈している。柱筋の方向や柱穴の切り合い関係から同時並存ではなく、数時期に亘るものと考えられる。周辺の出土遺物の状況から概ね8世紀代のものと考えられる。倉庫の構造・規模は2×2間の総柱建物、床面積約9~15㎡のものが大半である。規模は古墳時代に見られる高床倉庫に類似するものであるが、律令期に位置づけられるものであり、集落の倉庫とは異なる性格であろう。周辺の出土遺物に木簡や帯金具、硯等の遺物が多数出土しており、何らかの官衙的性格を持つものと考えられる。8世紀代は本地域には多数の製鉄遺構が見られるようになり、国家規模の鉄生産が行なわれた可能性も指摘されており、これらの倉庫群もそのことに無関係とは言えないであろう。しかし、製鉄との関連については結びつける確証はなく、今のところは検討課題である。

池状遺構SX001は谷を幅約3m、長さ約14mの築堤により堰きとめたもので、長さ約35m、幅約20m、深さ約50~80cmを測る。築堤の中央部分では木材を埋め込んだ排水用の施設を確認した。池状遺構の存続時期は紀年銘資料(大宝元(701)年、延暦四(785)年)から8世紀を前後する時期から約100年間機能したものと考えられる。池状遺構の性格としては前述した倉庫設置に関わるものが考えられる。また、池状遺構からは多数の土器、木製品が出土したが、この中には舟形木製品や道祖神信仰に関わる木簡等の祭祀関連遺物があり、この場所で何らかの祭祀が行われていたと考えられる。

この他、調査区西側の丘陵斜面では古代の製鉄炉3基、鍛冶遺構数基、焼土坑数基を検出した。これまで製鉄遺構は7次、12次、18次、24次などで多数検出されているが、この時期には各所で製鉄関連作業が行われていたことが分かった。

出土遺物

遺物の総量は各時期でコンテナ約2000箱出土したが、古代の遺物も多数含まれる。中でも官衙関連 遺物としては丸鞆、巡方等の帯金具、銅製権衝、硯等の多さは注目される。

遺物で特筆されるものは木簡で37点が出土した。本遺跡群では木簡はこれまで第7次、第15次、第18次調査地点で出土している。

7次調査地点では木簡は樹枝状に枝分かれた谷の最奥部の貯水遺構から出土した。なお文字関連資料としては木簡のほかに墨書土器 1点(判読不明)や箆書土器「坏」、硯 3 点などがある。三点の木簡は貯水遺構の下層で出土し、8世紀前半以前の遺物と考えられる。1号木簡は「壬辰年韓鐡□□」と記された荷札形式のもので、出土層位や干支年などから持統 6(692)年と考えられる。2号木簡は「里長」、「嶋里」等の文字が見られ、郡符木簡の可能性がある。

15次調査地点では木簡は大規模製鉄遺構が検出された12次調査から連なる谷部の最下層で検出され

た。木簡は折敷底板を転用したものが十数点に破断していた。出土層位から8世紀前半以前と考えられる。木簡は本来の半分程度の遺存とみられるが、片面に三行約70文字が読みとられる。その内容は古代の「解除(祓)」に関連するものであり、祓に用いる祓具の品目と数量を記している。祓具は記載分だけで15種類に及び、それぞれの数量も多い。またこのうち6品には合点が付されている。

18次調査地点では調査地点では7世紀代に、谷奥を中心に大規模な造成を伴う倉庫群が造られ、木 簡、権、墨書土器や特殊な木製品が多数出土した。木簡は谷部で1点検出した。木簡は下部に切り込 みをもつもので、上方は欠けている。文字は片側に「都か」の文字が見られる。共伴する遺物の時期か ら7世紀後半代に位置づけられるものと考えられる。前出の7次調査と遺構の様相も類似しており、 何らかの公的施設と考えられる。

本地点の木簡は7世紀末に構築された池状遺構及びその流出部より出土した。出土した木簡は共伴 した土器や記載されていた年紀から8世紀代に位置付けられ、特徴として次のような点があげられる。

- ①木簡には年紀を記したものが3点あり、8号木簡の「太寶元年」(西暦701年)と1号木簡、26号木 簡の「延暦四年」(西暦785年)である。
- ②地名を示すものとして、4号木簡の「嶋郡赤敷里」、32号木簡の「登志郷」があり、『和名類聚抄』 所載の志麻郡内の七郷(明敷、韓良、久米、登志、鶏永、川辺、志麻)の「明敷」、「登志」と考えられる。
- ③今回出土した木簡には人名が多く見られ、「難波部」、「額田部」、「久米部」、「建部」、「中臣部」、「己西部」等がある。これらの人名は嶋郡川辺里の戸籍にも見ることができる。
- ④祭祀に関わる木簡として、13号木簡の「道塞」は道祖神の信仰に関わるものが挙げられる。木簡が出土した池からは男根形、舟形、人形木製品等の祭祀関連遺物が多数出土しており、それらとの関連も注目される。当地域は対外交渉の要衡でもあり、これらの祭祀は外国使節等の来着に伴い、疫病等の侵入を意識したものと考えられる。

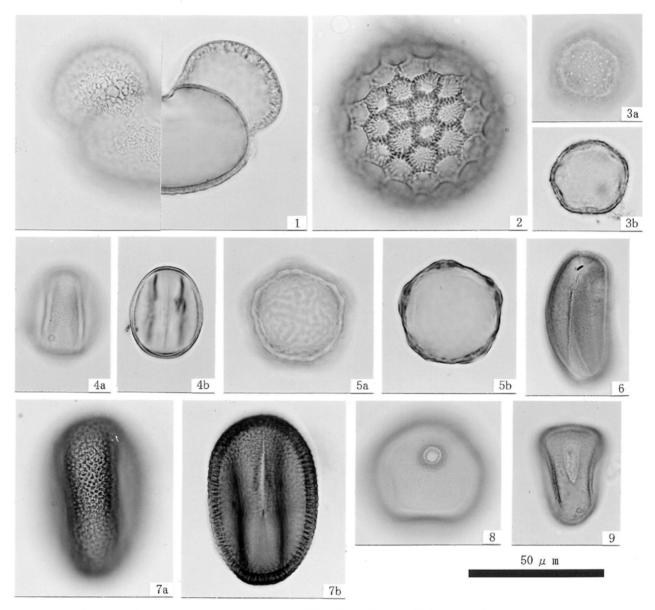
また、文字資料として、80点余りの墨書土器も出土した。墨書土器は遺跡群内では第7次調査、第18次調査で出土しており、いずれも木簡も出土している。しかし、点数は1~2点と少なく、本地点の量は群を抜いている。墨書の内容は役職を示す「案主」、人名と考えられる「乙猪」、「嶋足」、地名と考えられる「刀山下」、「常石田」、祭祀に関わると考えられる「善」、「依」、「稲奉」等があり、他の遺物等の内容とも符合していることが分かる。

この他、今回出土した新羅産緑釉陶器は器形としては大阪市立東洋陶磁美術館所蔵李乗昌コレクションの盒子に類似する。国内での新羅産緑釉陶器の出土例は奈良県明日香村石神遺跡(坏)、大官大寺跡(壷)、豊浦寺跡(長頸壷)、奈良市平城宮東院(瓶)、大阪市東中学校跡地(長頸壷)等の畿内地域の他、千葉県富津市野々間古墳(長頸壷、蓋)、字都宮市前田遺跡(蓋)に見られるが、九州地域での出土例は初例と考えられる。本地点では古墳時代においても半島系遺物が少なからず、見られるが、先に触れた祭祀も含めて、半島との関連を考えていかなければならないだろう。

さいごに

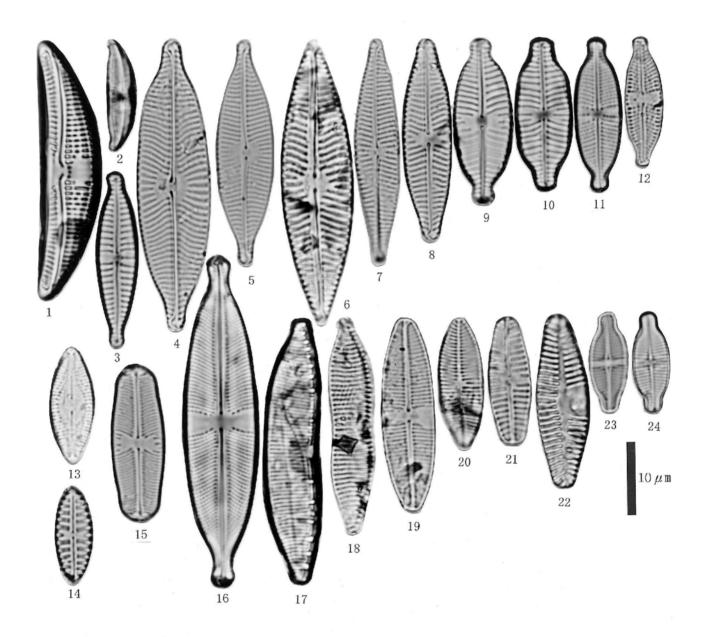
遺跡の変遷を簡単にまとめると、古墳時代を通じて集落が営まれた本地点は、当該地域でも拠点となる場所であったと考えられる。その後、8世紀を前後する時期に集落域を整地し、何らかの官衙施設が置かれたことは地域の再編として注目される。また、8世紀代の鉄生産増加の現象との関連も検討しなければならない。今回の報告は非常に中途半端なものとなったが、次刊で予定される古墳時代以前の資料と含めて、今回触れられなかった部分は改めて報告したい。

図版1 珪藻化石



- 1. マツ属(SX-001;2)
- 3. オモダカ属(SX-001;2)
- 5. ニレ属-ケヤキ属(SX-001;2)
- 7. ソバ属(SX-001;2)
- 9. カヤツリグサ科(SX-001;2)
- 2. サナエタデ節-ウナギツカミ節(SX-001;2)
- 4. コナラ属アカガシ亜属(SX-001;2)
- 6. ミズアオイ属(SX-001;4)
- 8. イネ科(SX-001;2)

図版 2 花粉化石



- 1. Amphora affinis (SX-001;5)
- 3. Gomphonema parvulum (SX-001;5)
- 5. Navicula gregaria (SX-001;5)
- 7. Navicula cryptocephala (SX-001;5)
- 9. Navicula elginensis (SX-001;2) 11. Navicula kotschyi (SX-001;5)
- 13. Navicula confervacea (SX-001;4)
- 15. Sellaphora pupula (SX-001;5)
- 17. Hantzschia amphioxys (SX-001;4)
- 19. Achnanthes hungarica (SX-001;4)
- 21. Achnanthes lanceolata (SX-001;4)
- 23. Achnanthes exigua (SX-001;1)

- 2. Amphora montana (SX-001;2)
- 4. Navicula viridula var. rostellata (SX-001;5)
- 6. Navicula notanda (SX-001;3)
- 8. Navicula veneta (SX-001;2)
- 10. Navicula elginensis var. neglecta (SX-001;4) 12. Navicula paramutica (SX-001;5)
- 14. Navicula capitata var. elliptica (SX-001;5)
- 16. Stauroneis anceps (SX-001;4)
- 18. Nitzschia angustata (SX-001;3)
- 20. Achnanthes hungarica (SX-001;4) 22. Achnanthes lanceolata (SX-001;4)
- 24. Achnanthes exigua (SX-001;1)



1 調査前現況(北から)



2 調査区全景(南から)

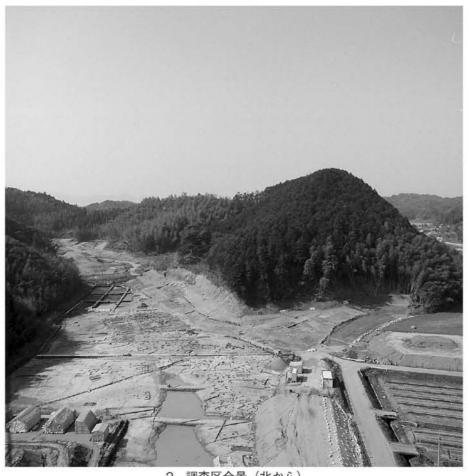




2 調査区北側全景(南から)



1 調査区全景(北から)



2 調査区全景(北から)



1 調査区全景(西から)



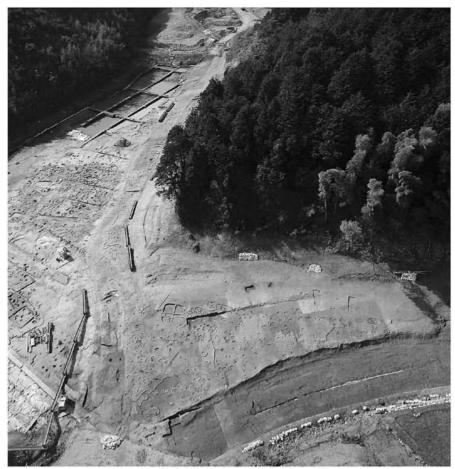
2 調査区全景(西から)



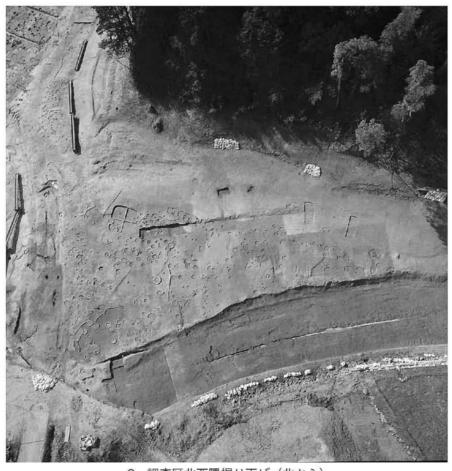
1 調査区西側掘り下げ(東から)



2 調査区西側掘り下げ(北から)



1 調査区北西隅掘り下げ(北から)



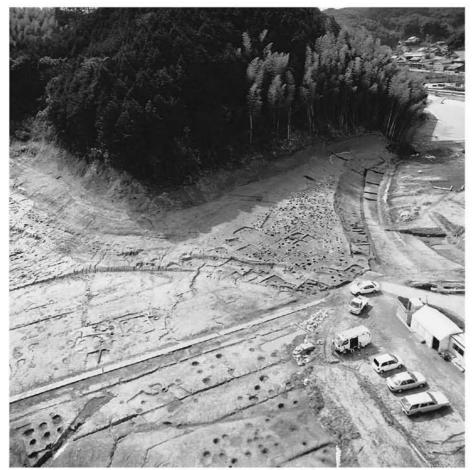
2 調査区北西隅掘り下げ(北から)



1 調査区北西隅全景 (北から)



2 調査区北西隅全景(北から)





2 調査区全景(北から)



1 調査区全景(北から)

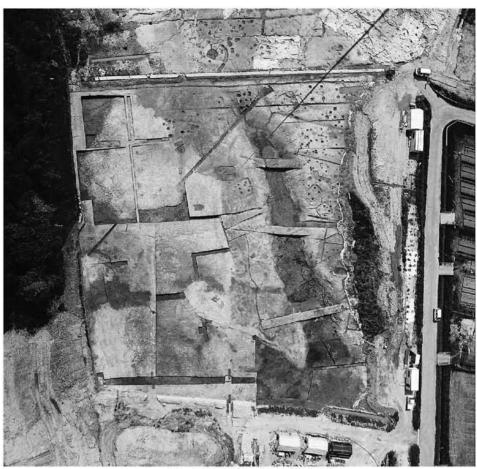




1 調査区全景(南から)



2 12~19区調査区全景(北から)



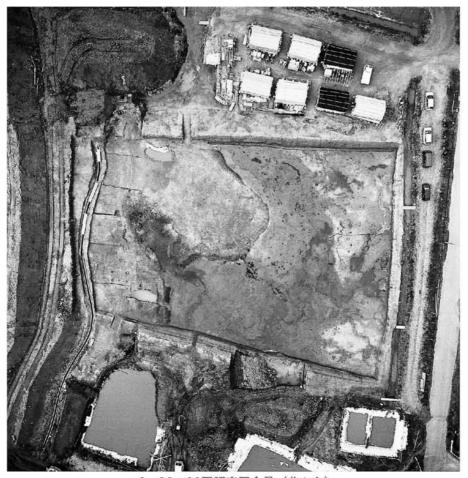
1 11~18区調査区全景(北から)



2 調査区全景(北東から)



1 22~24区全景(東から)



2 22~26区調査区全景(北から)



1 調査区全景(南から)



2 倉庫群分布状況 (南から)



1 倉庫群分布状況(東から)



2 倉庫群分布状況 (西から)



1 倉庫群検出状況(北から)



2 11~12区掘立柱建物址、竪穴住居址完掘(北から)



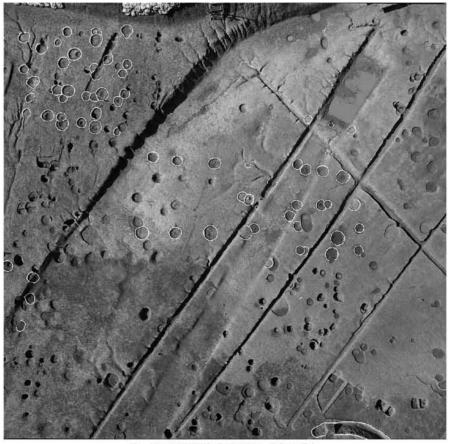
1 10~12区掘立柱建物址、竪穴住居址完掘(北から)



2 北西隅建物分布状況(北から)



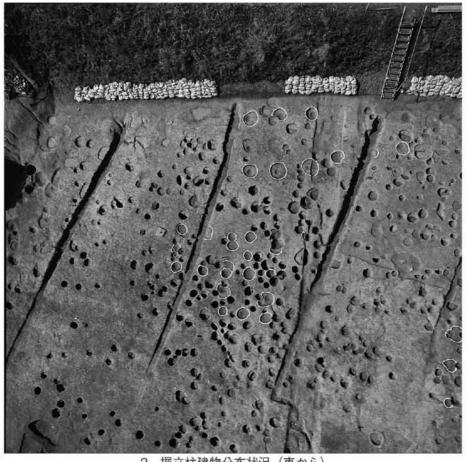
1 北西調査区建物分布(北から)



2 掘立柱建物分布状況 (東から)



1 掘立柱建物分布状況(東から)



2 掘立柱建物分布状況 (東から)



1区SB141周辺完掘(西から)



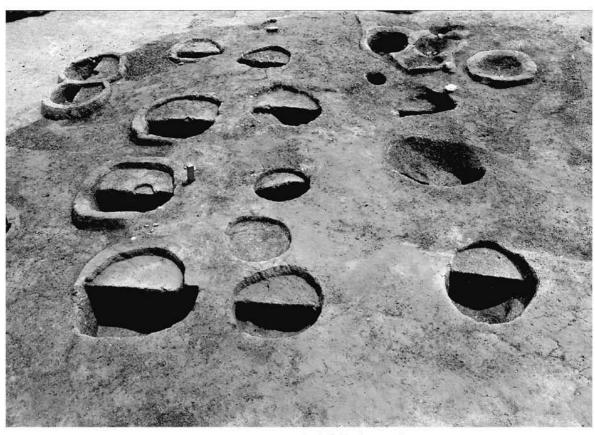
2 F-1区SB141完掘(西から)



E-2区SB026柱穴半裁(北から)



2 F-2区SB119完掘(西から)



1 F-3区SB139柱穴半裁(北から)



2 F-3区SB140柱穴半裁(東から)



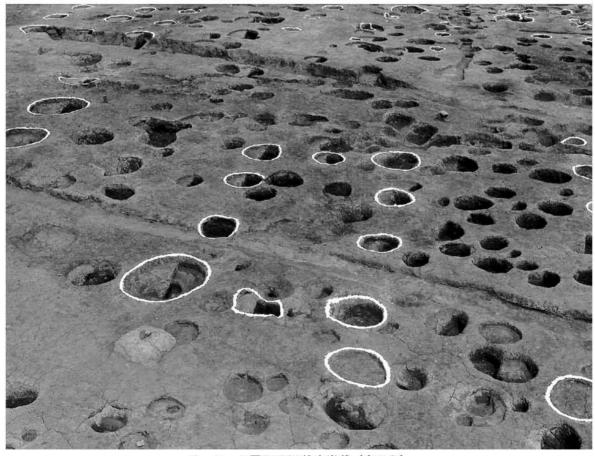
1 G-4区SB148柱穴半裁(西から)



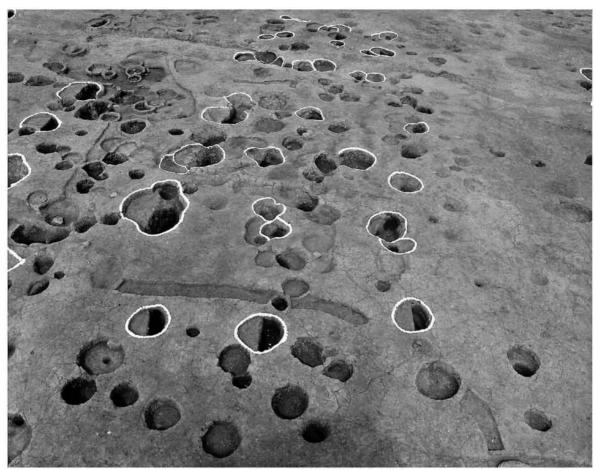
2 G-4区SB149柱穴半裁(西から)



1 E-5区SB015完掘(東から)

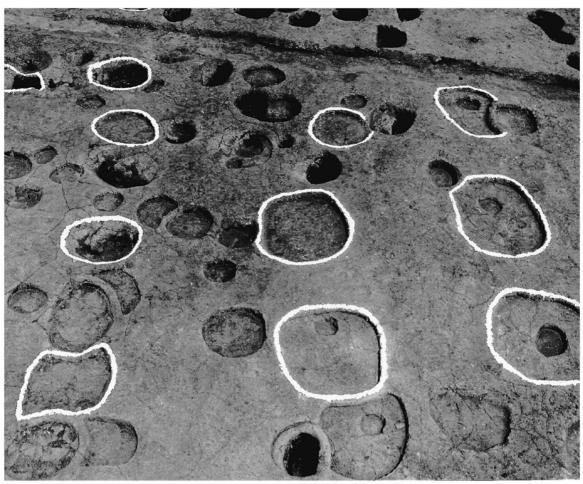


2 E-5区SB028柱穴半裁(南から)



1 E-5区SB153柱穴半裁(南から)





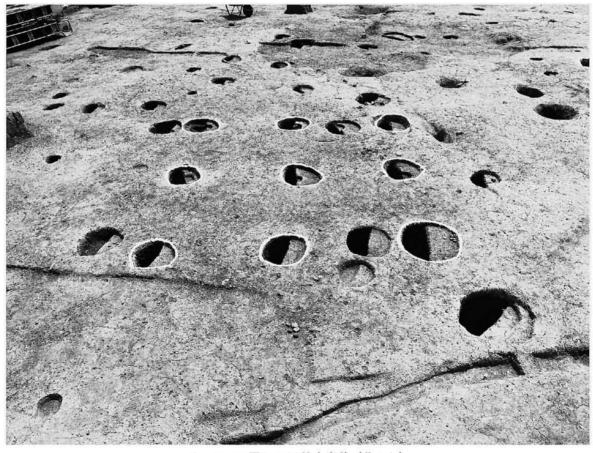
1 E-5区SB156検出状況(南から)



2 E-5区SB158柱穴半裁(南から)



1 E-5区SB159柱穴完掘(南から)



2 E-5区SB160柱穴半裁(北から)



1 E-6区SB037 (南から)



2 E-6区SB037完掘(南から)



1 G-5区SB029柱穴半裁(南から)



2 G-6区SB147 (南から)



1 G-6区SB150柱穴半裁(北から)

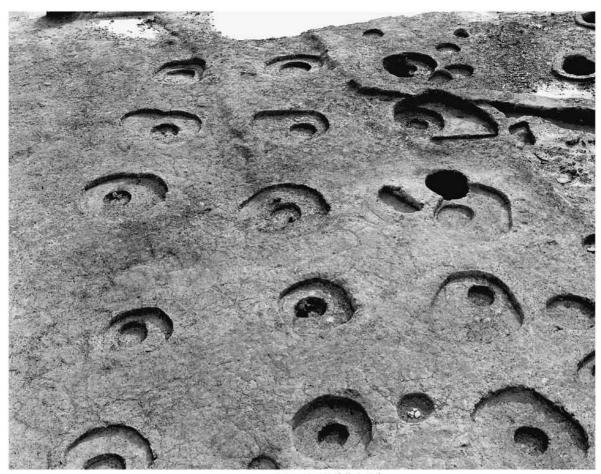


2 E-7区SB041 (北から)



E-7区SB041柱穴半裁(北から)





1 E-7区SB042 (北から)



2 E-7区SB042柱穴半裁(北から)



E-7区SB151柱穴半裁(北から)





1 F-7区SB036柱穴半裁(北から)



2 F-7区SB152柱穴半裁(北から)



1 F-7区SB154柱穴半裁(北から)



2 G-7区SB030~033柱穴半裁(北から)



- 7区SB030柱穴半裁(北から)



2 G-7区SB033柱穴半裁(北から)



1 E-8区SB045 (東から)



2 E-8区SB045柱穴半裁(東から)



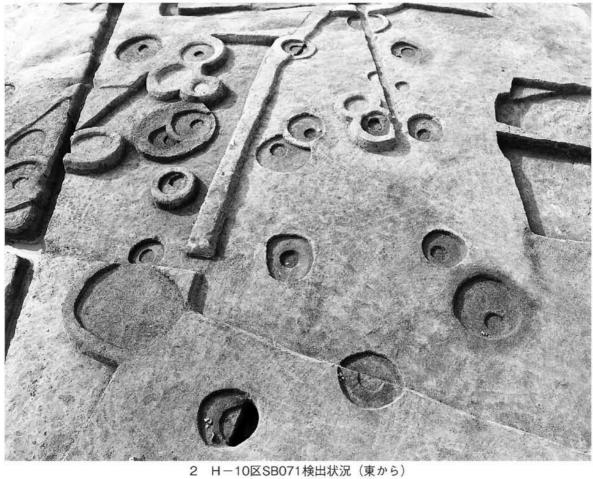
1 E-8区SB046半掘(西から)



2 G-8区SB039柱穴半裁(東から)

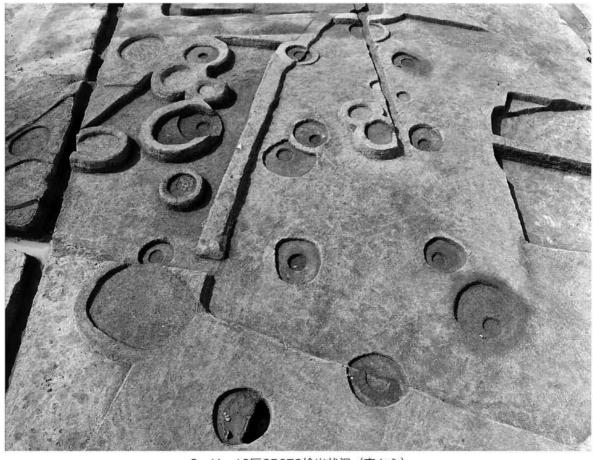


1 G-8区SB085柱穴半裁(東から)





1 H-10区SB071柱穴半裁(東から)



2 H-10区SB072検出状況(東から)



1 H-10区SB080柱穴半裁(東から)



2 G-11区SB091柱穴半裁(北から)



1 I-11区SB092柱穴半裁(北から)



2 J-11区SB093柱穴半裁(北から)



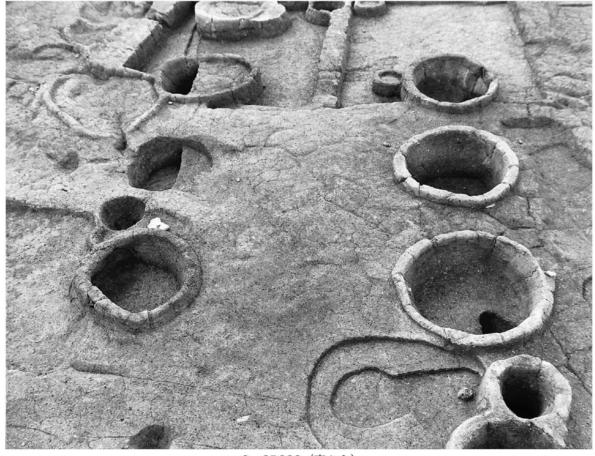
I-12区SB094柱穴半裁(北から)



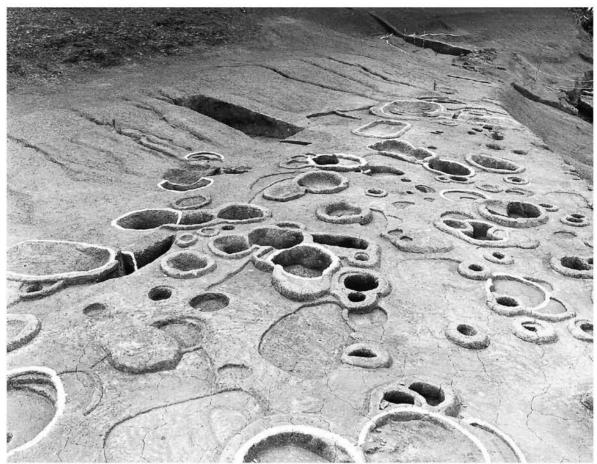
2 J-16区SB099完掘(北から)



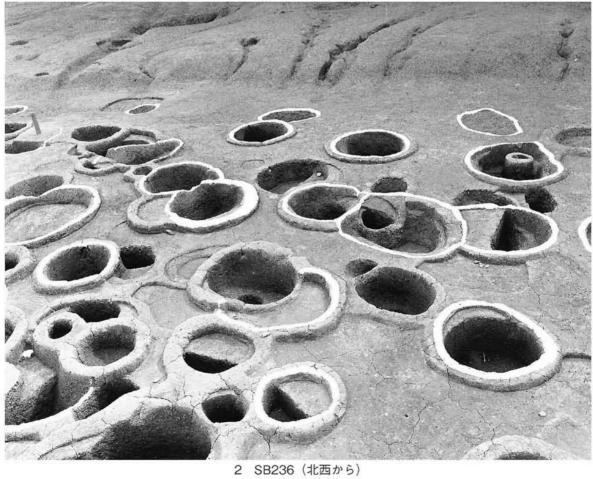
1 SB215 (南から)



2 SB222 (東から)



SB235 (東から)

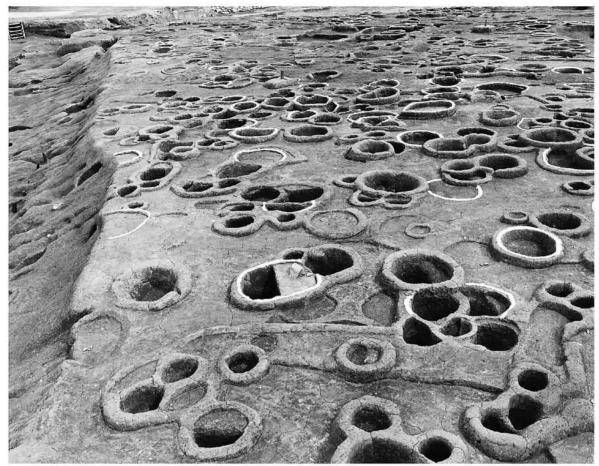




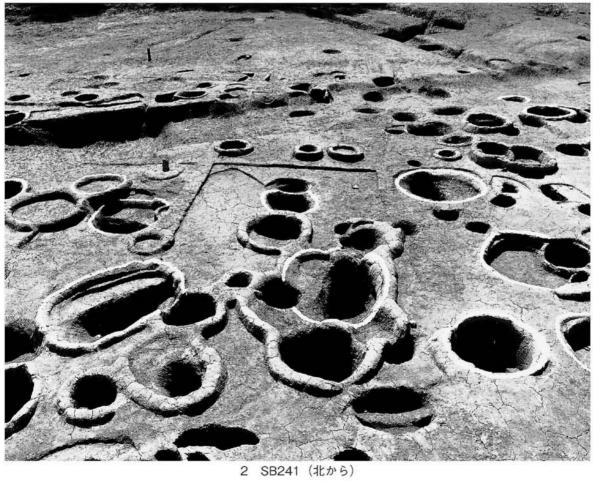
1 SB237 (北から)



2 SB237 (東から)



1 SB240 (西から)

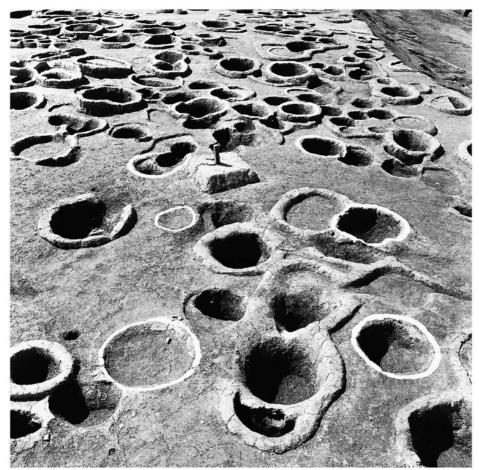




1 SB243 (東から)



2 SB244 (東から)



1 SB244 (東から)



2 SB245、SB246 (北から)



1 池状遺構001完掘(東から)



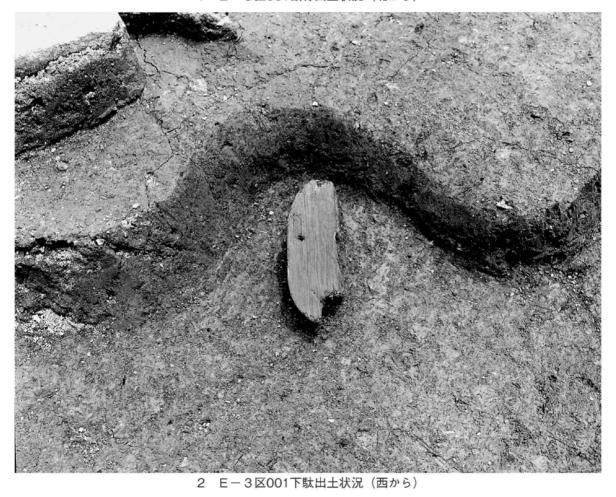
2 E-3区001杭列検出状況(南から)



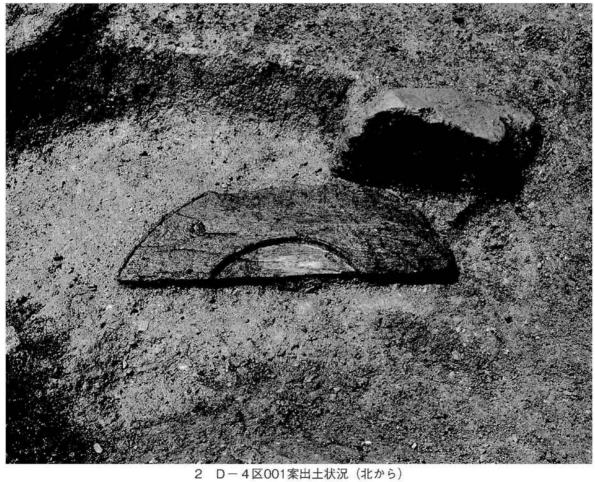




1 E-3区001獣骨出土状況(北から)











2 E-4区001出土木製容器(北から)



1 D-3~4区001ベルト出土舟形木製品(北から)



2 D-4区001暗渠内槽出土状況(西から)





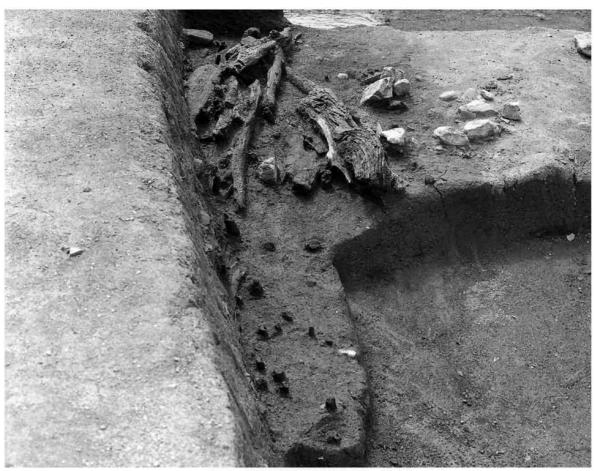
2 D-3区001出土木簡(北から)



D-4区001土手状遺構検出状況(西から)



2 D-4区001土手状遺構上炭化物(西から)



1 D-4区001土手状遺構内暗渠掘り下げ(北から)

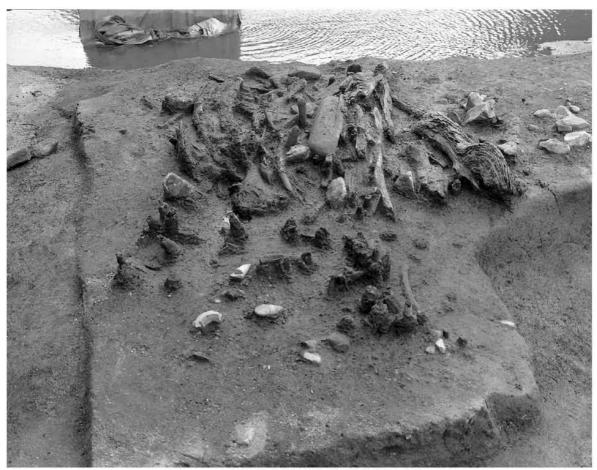


2 D-4区001土手状遺構内暗渠掘り下げ(西から)



1 C~D-4区001土手状遺構検出状況(西から)





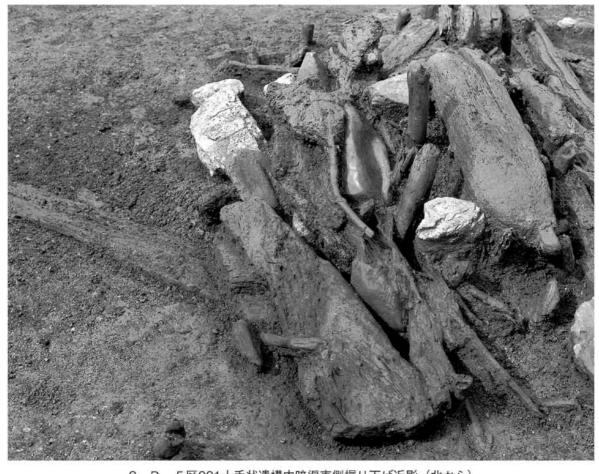
1 D-4区001土手状遺構内暗渠(北から)



2 D-5区001土手状遺構内暗渠検出状況(西から)



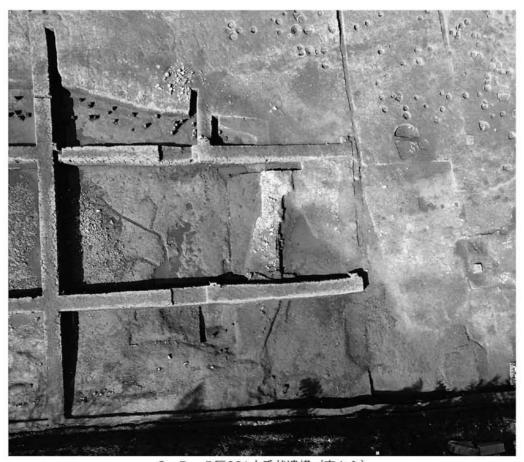
1 D-5区001土手状遺構内暗渠掘り下げ近影(西から)



2 D-5区001土手状遺構内暗渠東側掘り下げ近影(北から)



1 D-5区001土手状遺構内暗渠基底部状況(北から)



2 D-5区001土手状遺構(東から)

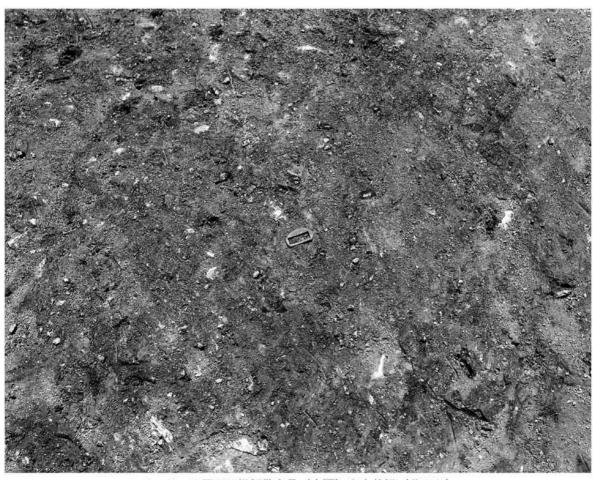


1 D-4区001土層堆積(西から)

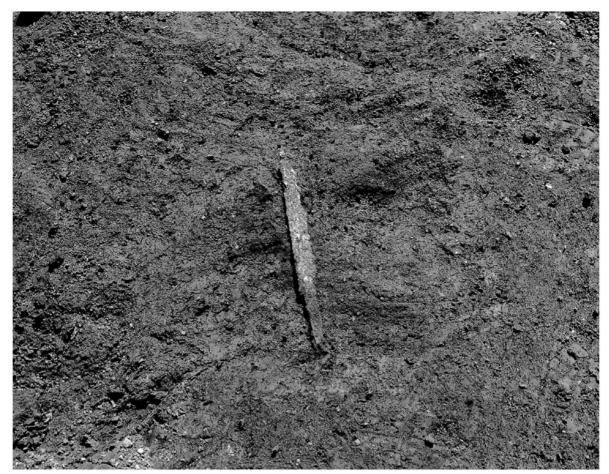




1 E-2区001西側整地層出土須恵器 (南から)



2 E-8区002銅製帯金具(丸鞆)出土状況(北から)



1 D-7区002鉄刀出土状況 (北から)



2 C-5区002暗灰砂土出土糸巻き(北から)



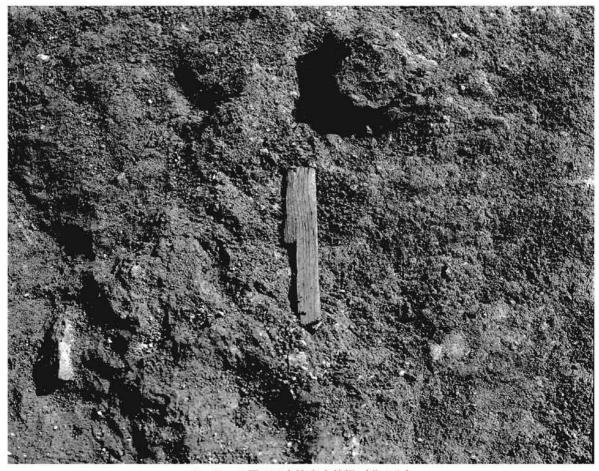
1 C-6区002暗灰砂土出土琴柱(東から)



2 D-7区002須恵器出土状況(北から)



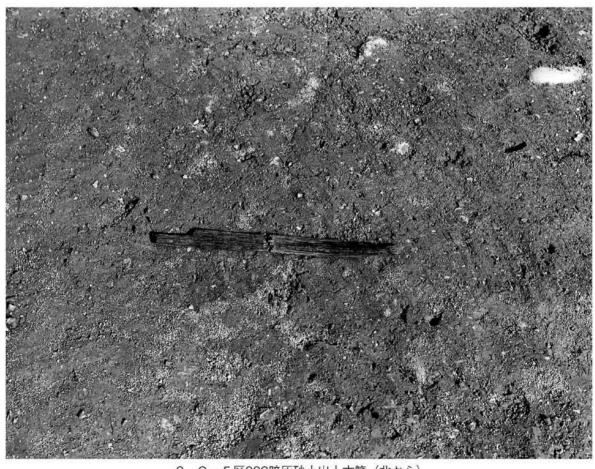
1 D-5区002帯金具出土状況(西から)



2 D-5区002木簡出土状況(北から)



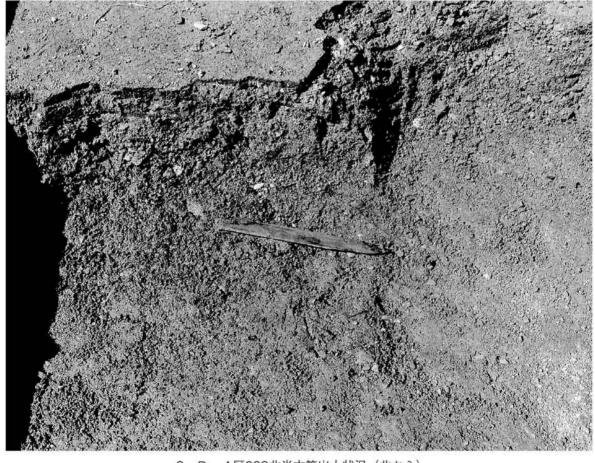
1 D-5区002木簡出土状況(北から)



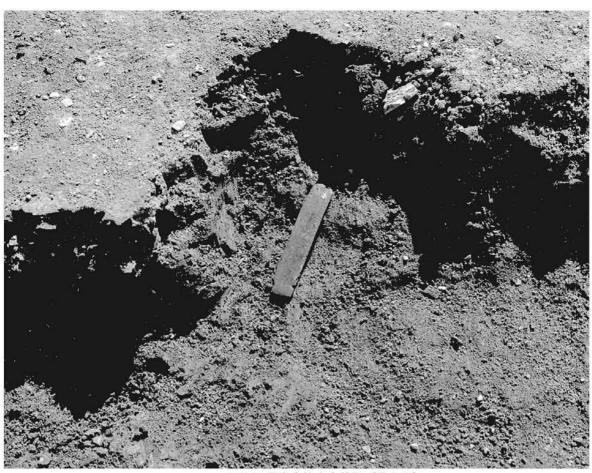
2 C-5区002暗灰砂土出土木簡 (北から)



1 C-5区002暗灰砂土出土木簡(西から)



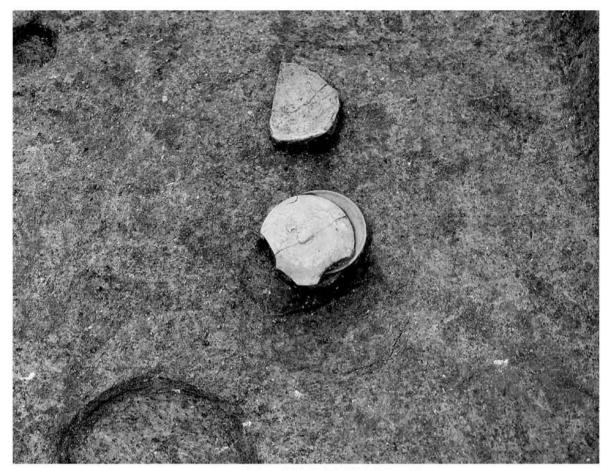
2 D-4区002北半木簡出土状況(北から)



1 D-4区002北半木簡出土状況(北から)



2 G-10区004遺物出土状況(南から)

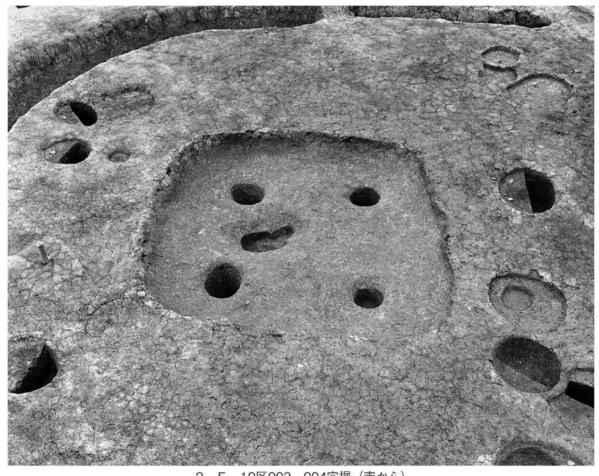


10区004須恵器出土状況(南から)





1 G-10区004完掘(南から)



2 F-10区003、004完掘(南から)





2 D-000区025鉄滓だまり検出状況(南から)





2 F-0区025西側羽口出土状況近影(西から)



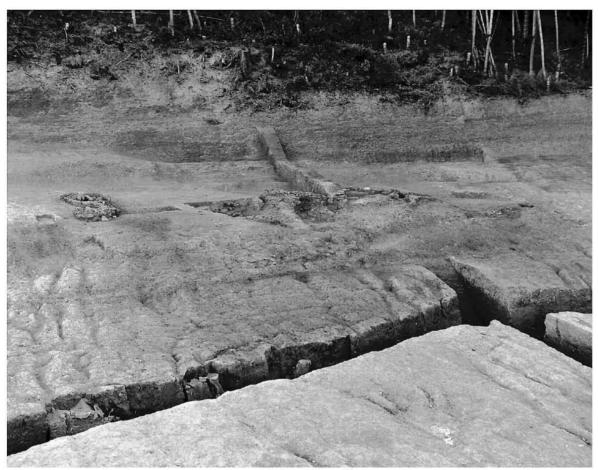
1 G-10区022完掘(南から)



2 N-7区112南排滓土坑近影(南から)







1 SX235 (北から)



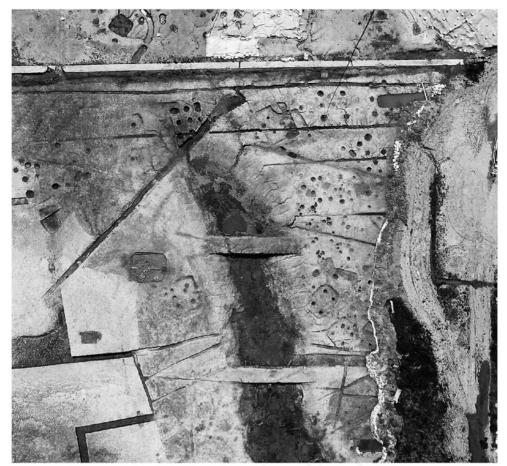
2 13~16区竪穴住居址完掘(西から)



1 SX044全景 (西から)



2 SX044全景(南から)



15・16区SX044掘り下げ(北から)



2 H-11~15区SX044完掘(西から)



1 E-23区SX162木材だまり(北から)



2 SX162完掘(西から)



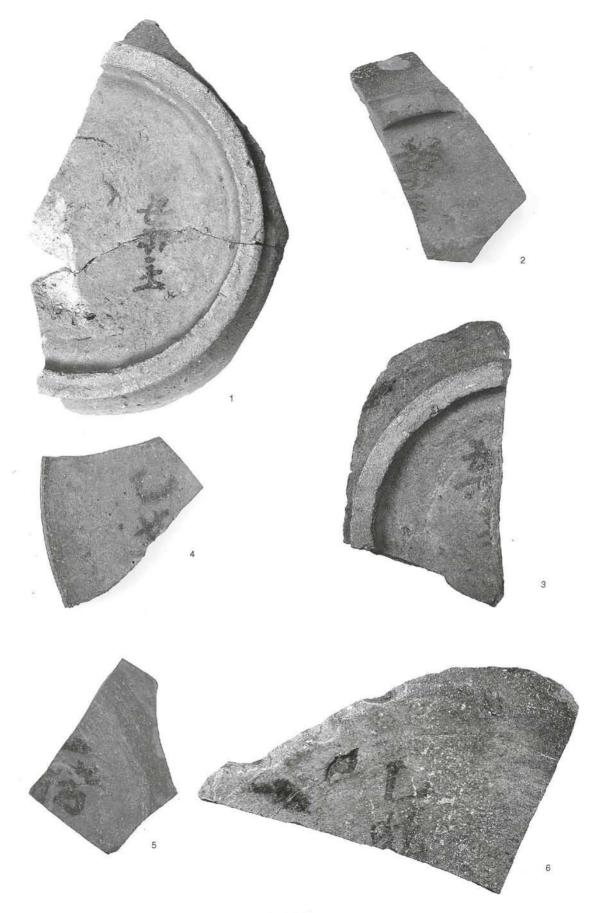
1 SX163石敷検出状況(西から)



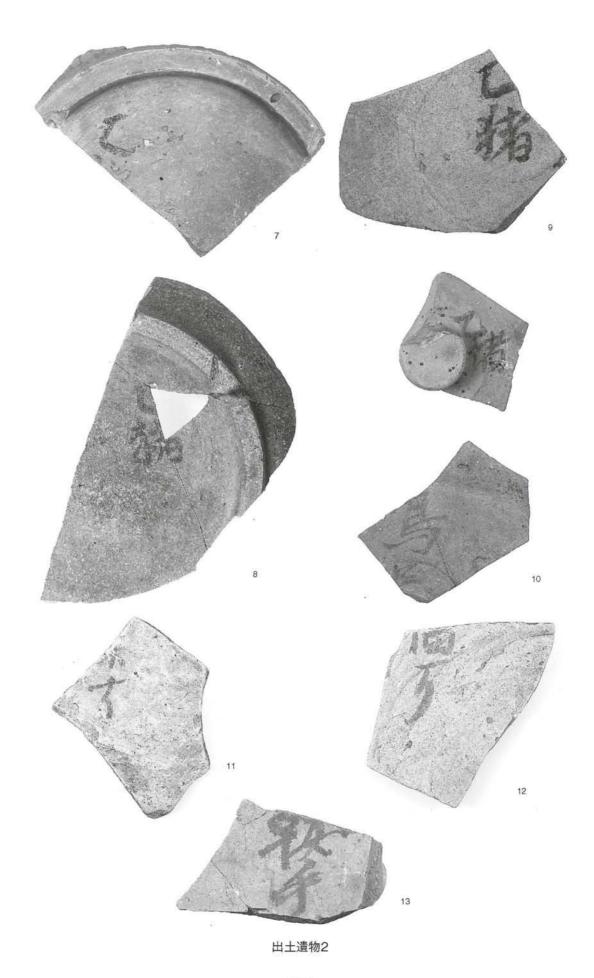
2 SX163石敷検出状況 (西から)



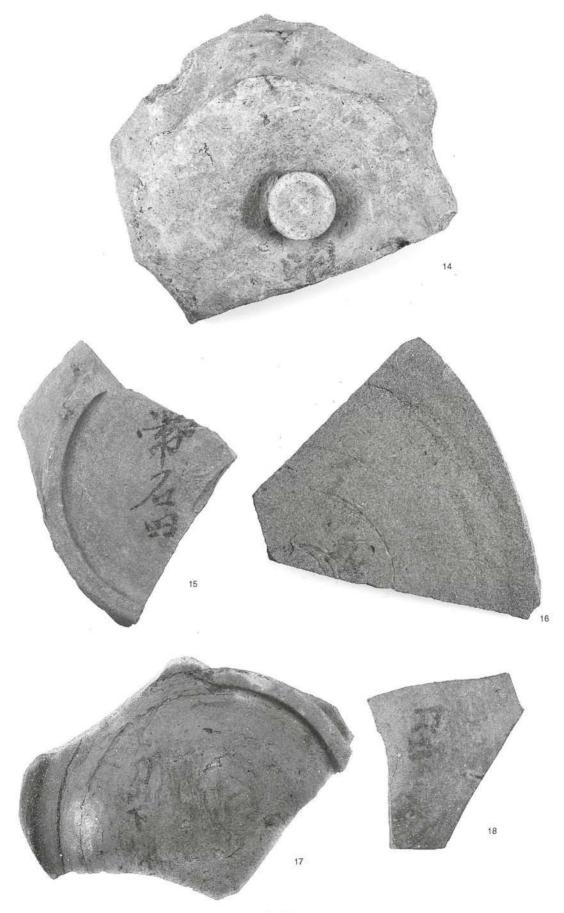
1 SX163石敷検出状況 (西から)



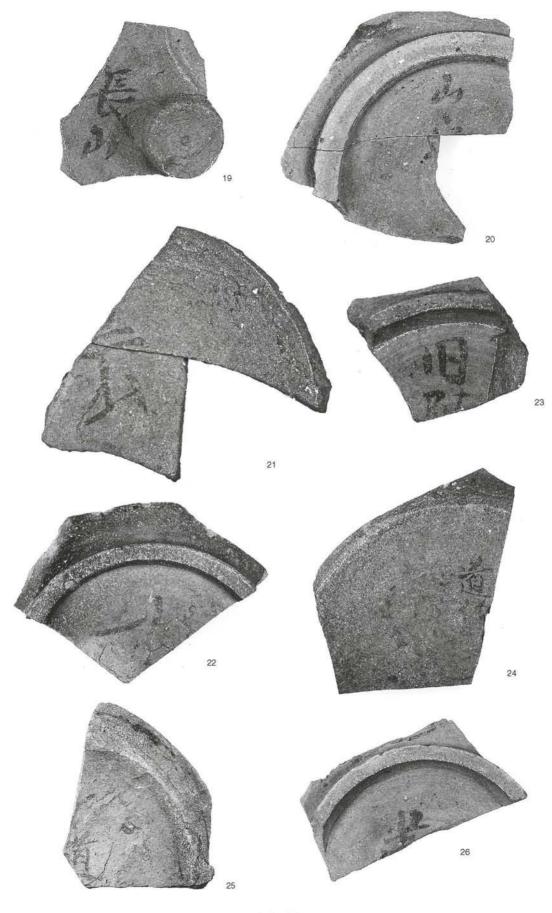
出土遺物 1



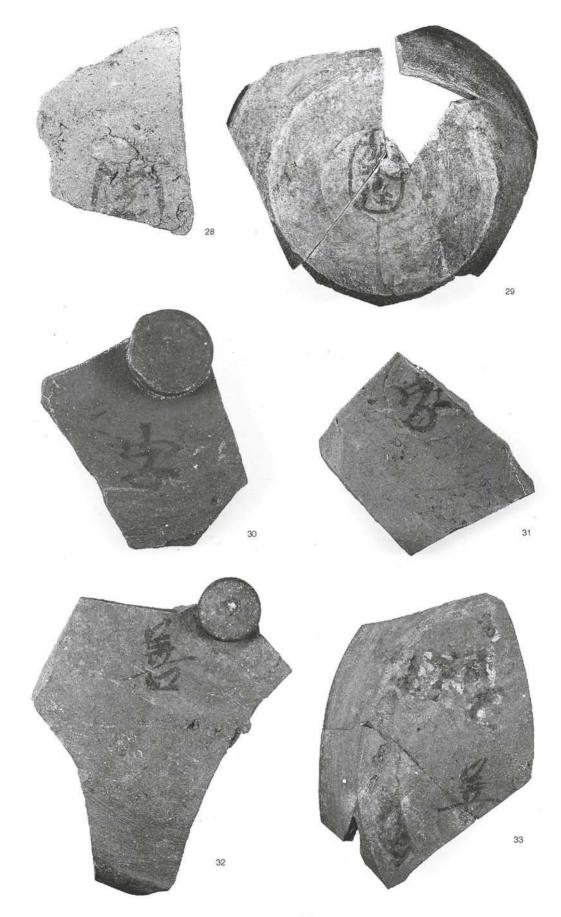
-183 -



出土遺物3



出土遺物4



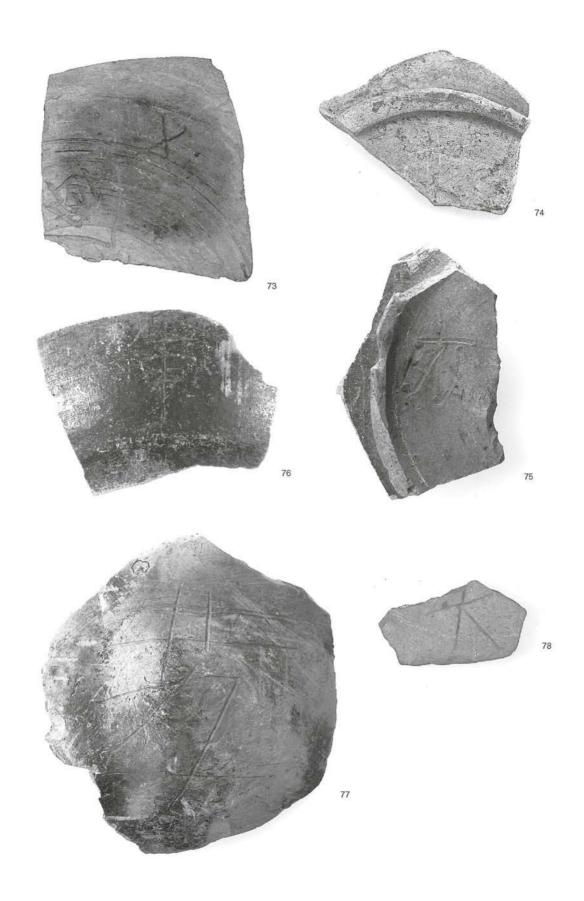
出土遺物5



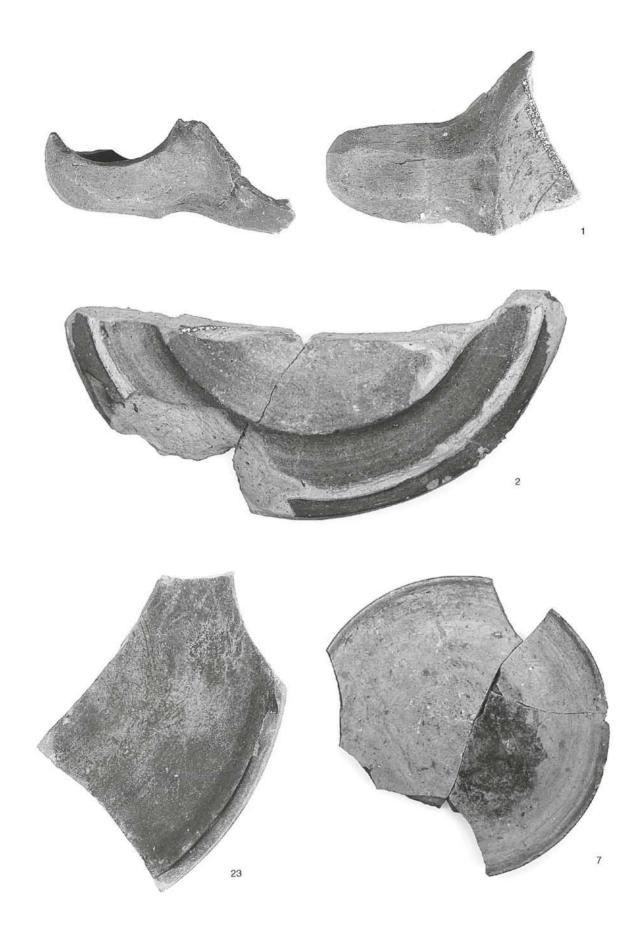
出土遺物6



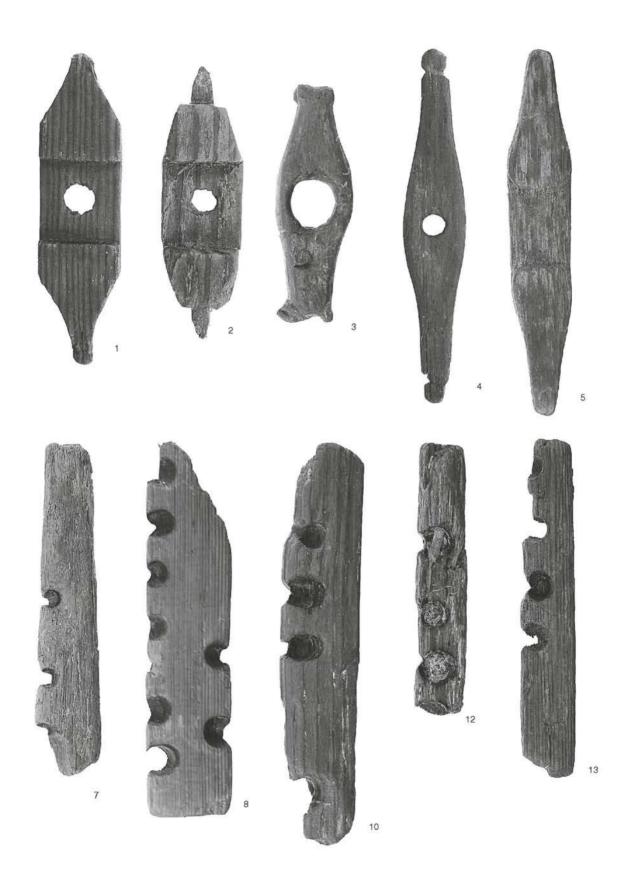
出土遺物7



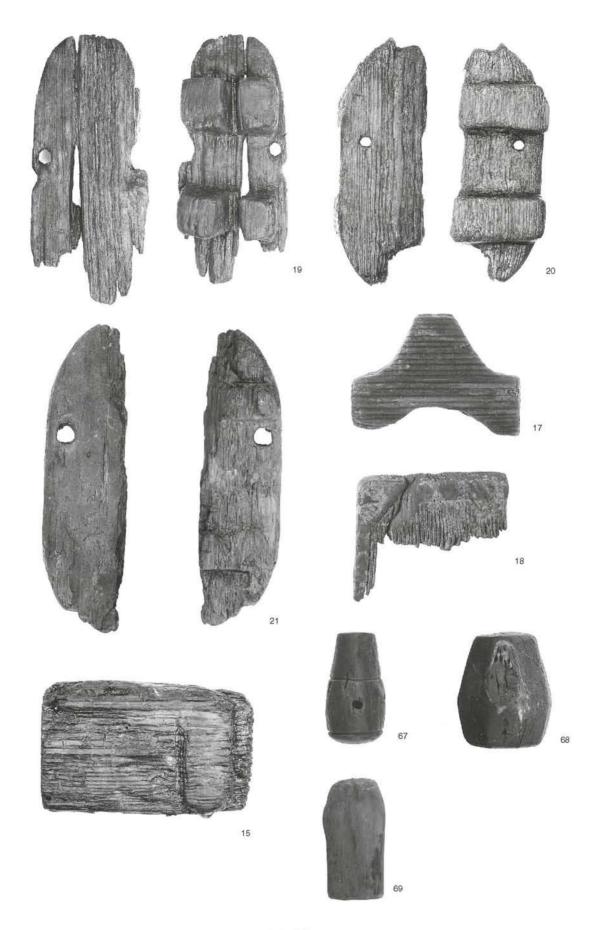
出土遺物8



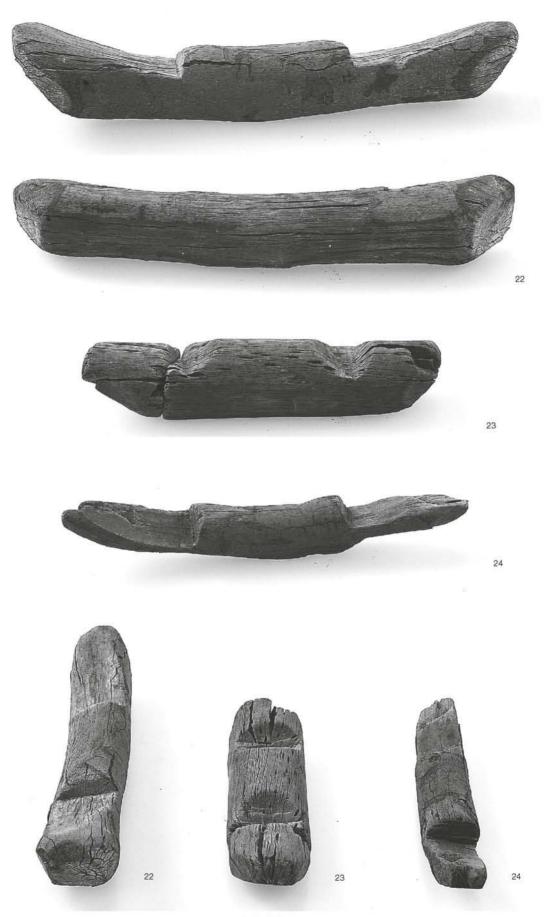
出土遺物9



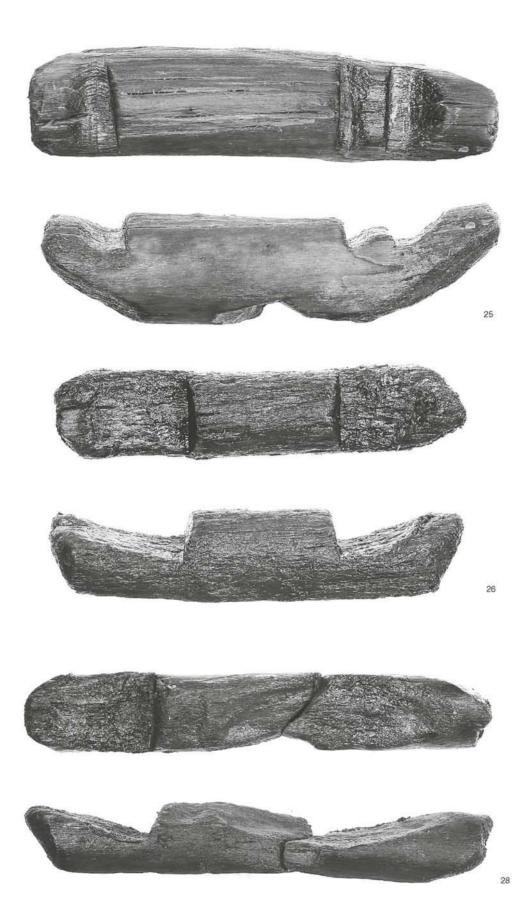
出土遺物10



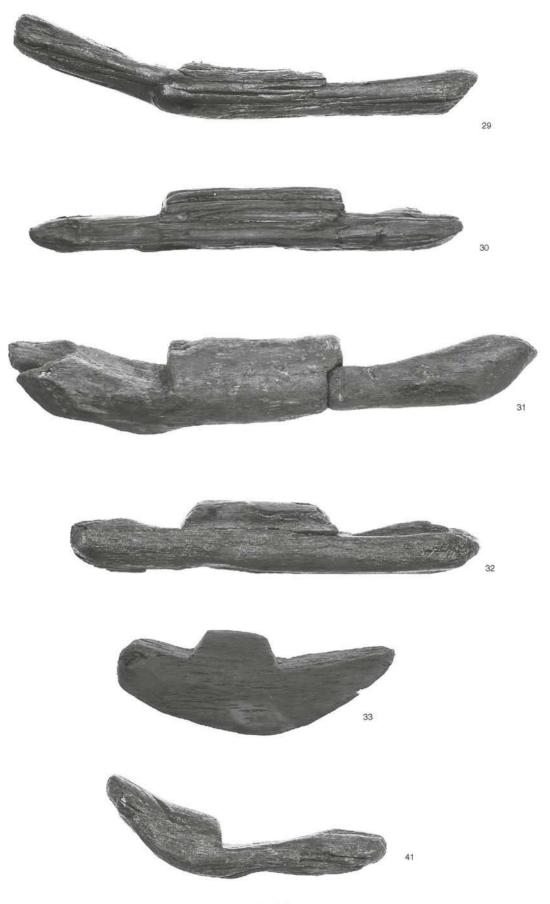
出土遺物11



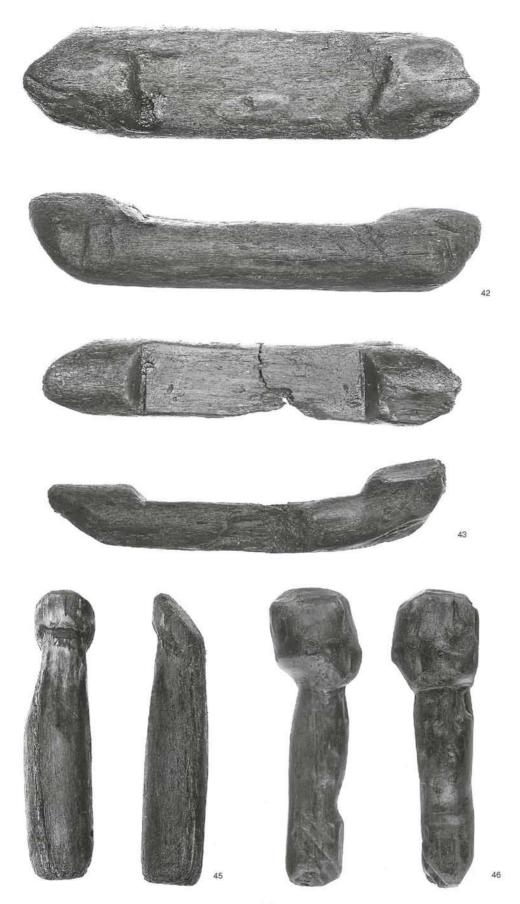
出土遺物12



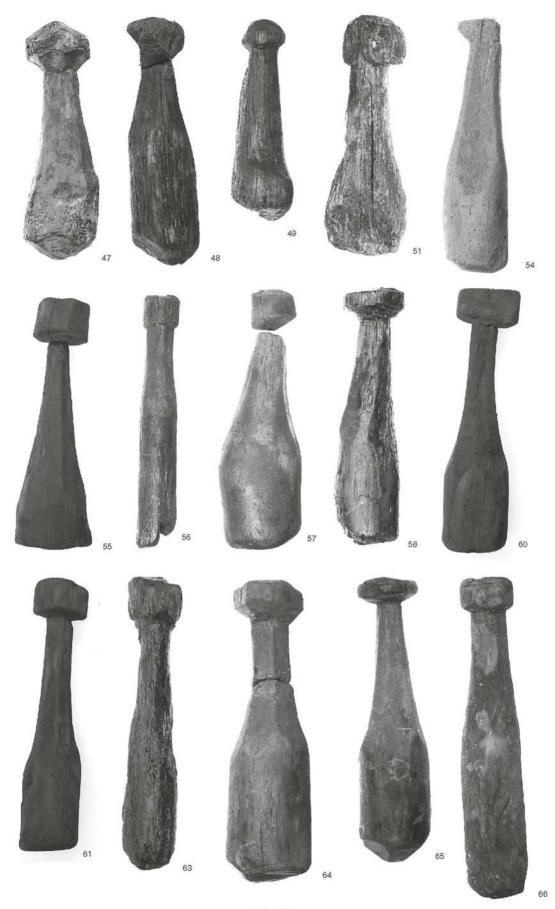
出土遺物13



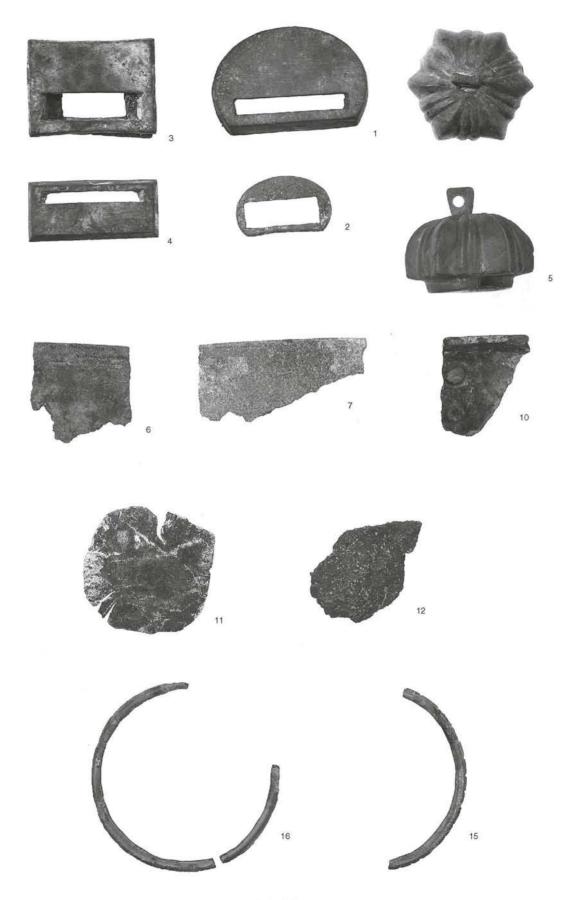
出土遺物14



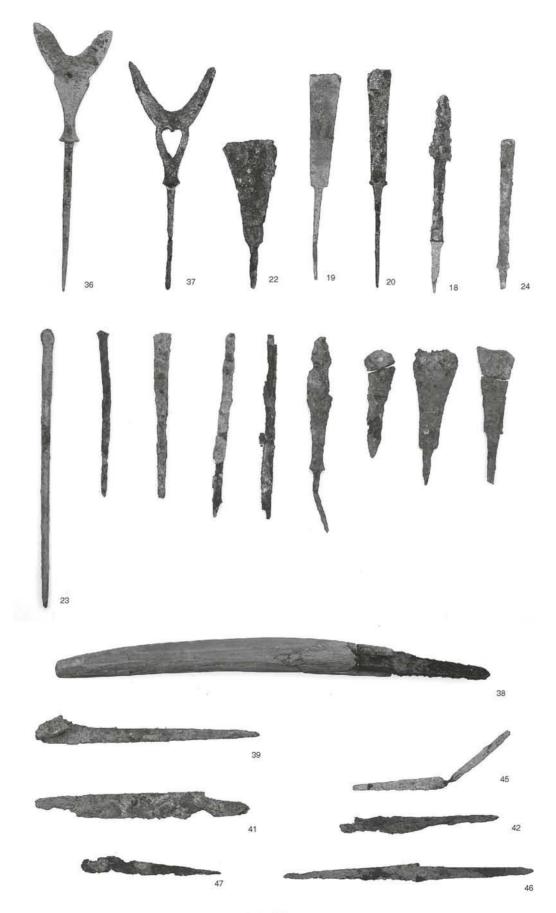
出土遺物15



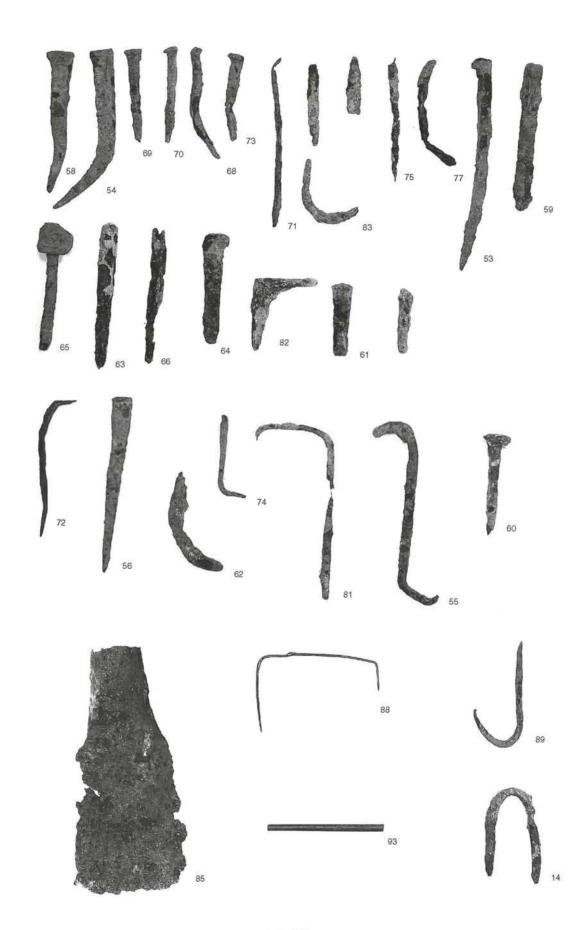
出土遺物16



出土遺物17



出土遺物18



出土遺物19

書名ふりか	な	きゅうしゅうだいがくとうごういてんようちないないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	3	九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	j	元岡・桑原遺跡群 - 第20次調査報告-
卷次	8	3
シリーズ名	í 1	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号		第962集
編著者名		菅波正人
編集機関		福岡市教育委員会
発行機関		福岡市教育委員会
発行年月日	1 2	20070331
作成法人I	D	
郵便番号	810-0	0001 電話番号 092-711-4667
住所 福岡	蜀市中央区天神1-8-1	
遺跡名ふりがな もとお		もとおか・くわばらいせきぐん
遺跡名		元岡・桑原遺跡群
所在地ふり	がな	ふくおかしにしくもとおか・くわばら
遺跡所在地		福岡市西区元岡・桑原
市町村コード		40135 遺跡番号
北緯 333	3604	
東経 130	1335	
調査期間	第20次 2000.4.1 - 2004.5.21	
調査面積	第207	次 20,000㎡
調査原因	大学移転	
種別	集落・官衙	
主な時代	弥生 - 中世	
(代) 遺跡概要 遺物 等の		古墳時代 竪穴住居跡70軒 + a、掘立柱建物、溜池状遺構、土坑他、古代(奈良時代~平安時掘立柱建物32棟 + a、池状遺構、製鉄炉、鍛冶炉、土坑他 各遺構から須恵器、土師器等の土器類、池状遺構から木簡をはじめとする木製品、鉄鏃、刀子鉄製品 古墳時代以前の遺物は弥生土器の他、押型文土器や阿高式土器等の縄文土器、石槍、石鏃石斧、ナイフ形石器や細石核等の旧石器。
特記事項 郡」		査では37点の木簡が出土した。木簡には「大寶元年」(701) や「延暦四年」(785) の紀年銘や「嶋 の地名等を記したものがある。また、墨書土器や丸鞆、巡方等の帯金具、銅製権衝、硯等も多数 しており、何らかの官衙的遺跡として注目される。

福岡市埋蔵文化財調查報告書第962集 九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調查報告書

> 元岡·桑原遺跡群8 -第20次調査報告-

2007年3月30日 発行 福岡市教育委員会 (福岡市中央区天神1-8-1) 印刷 株式会社嶋井精華堂 (福岡市博多区吉塚1-34-3)